2015年度　活動報告書

法政大学ボランティアセンター

2015 年度　法政大学ボランティアセンター 活動報告書　目次

第１章　2015 年度ボランティアセンター活動報告
巻頭言（宮下清栄 全学ボランティアセンター長)…… 1
来室者数集計（2 キャンパス) …… 3
2015 年度　法政大学ボランティアセンター全学運営委員会 …… 4
2015 年度　市ケ谷ボランティアセンター運営委員会 …… 4

第２章　市ケ谷ボランティアセンター活動の概要
活動目的と活動目標…… 5
2015 年度活動の概要 …… 6
2015 年度　市ケ谷ボランティアセンター　イベントカレンダー …… 8
実施イベント報告…… 12
2015 年度　学生スタッフ（ＶＳＰ、チーム・オレンジ）活動カレンダー …… 88

第３章　多摩ボランティアセンター活動の概要
多摩ボランティアセンター活動総括（馬場　多摩ボランティアセンター長)…… 91
2015 年度活動の報告 …… 93
イベントカレンダー…… 115

第４章　小金井ボランティアセンター活動の概要
小金井ボランティアセンター（彌冨　小金井ボランティアセンター長)…… 117
小金井ボランティアセンターの取り組み…… 118

第１章　2015 年度　　法政大学ボランティアセンター活動報告

巻頭言

法政大学ボランティアセンター長　宮下清栄

ボランティアセンターは各キャンパスに設置さてれおり、それぞれ地域特性にもとづいた活動を行っておりますので、各キャンパスの活動はそれぞれの章を参照していただくこととして、ここでは全学的な活動と市ヶ谷について振返ってみることにします。

市ヶ谷ボランティアセンターには地域貢献ボランティアなどを中心に活動している「ボランティアセンター学生スタッフ（VSP)」と被災地支援などの活動を行う「チーム・オレンジ」の２団体の学生があり、この学生達が中心になり企画の立案から実施計画の作成を行っております。教職員は黒子として支援することに徹して学生の主体性を育むようにしています。

地域貢献として「九段靖国通り地区清掃ボランティア」と「キャンパス周辺清掃ボランティア」を毎月実施しておりますが、参加者数はあまり多くないことが悩みです。

春の基幹プロジェクトである「富士山外来種植物駆除」ツアーを関西大学と合同で実施しました。地元の NPO 法人「富士山クラブ」の協力・指導のもと、生物多様性についてのお話を伺った後、外来植物駆除を行い爽快な汗を流すことができました。

また、初めての試みですがハンガリー剣道ナショナルチームのコーチをしている伊藤マモル先生の仲立ちにより東京で開催された世界剣道選手権大会に参加した７名の選手と交流ボランティアを実施しました。交換留学生と課外教養プログラム学生スタッフなどとの協力により英語の案内マニュアルの作成し、皇居散策と神楽坂ツアーを実施しました。異文化交流には言語は勿論のこと、まず日本の歴史や文化を知ることが重要と改めて学生自身の気づきがあり、今後もこのような活動を続けたいとの思いが高まったようです。また学内の諸団体と協力することで活動の範囲が広がることも実感できたようです。

ボランティア総合講座の一環で夏の被災地復興支援プロジェクトの準備段階として「被災地の今を知る」ために毎年お世話になっている NPO 法人の田村氏を迎え現状と後方支援の在り方を講演いただきました。震災から 4 年が経過し当時中高生であった本学の学生の記憶の風化防止とボランティア参加を促すことにつながることと思います。　更に「災害救援ボランティア」講座を実施し、上級救命技能認定やセーフティリーダー認定の資格を２０名程度学生が取得しました。今後首都圏の災害を想定するとこのような講座に多くの学生が参加してくれることを望んでいます。

ボランティア支援プロジェクトとしては「七夕フェスタ」や東北物産展を実施しエコキャップ回収や復興支援活動を行い多くの参加者にご協力いただき例年以上の成果がありました。

夏休みには被災地復興支援プロジェクトとして「遠野被災地支援」に第 23 次隊から 26 次隊を派遣し、畑の整備、漁協でのわかめの出荷作業などの被災地自立支援を中心に活動し、さらに仮設住宅を訪問して被災者の生の声を聴くとともに交流を深めました。今年度から大学の被災地支援の取組を知っていただくために手書きの「チーオレ新聞」を事前に配布しており交流促進に寄与していました。

春には時とともに風化していく震災の記憶をとどめるために、福島スタディーツアーを実施しました。新入生の参加も多くまだまだ関心を寄せてくれていると心強く思いました。NPO の方から復興状況のお話を聞くとともに、原発の復興拠点である J ヴィレッジも視察し東京電力の方から説明を皆真剣に聞き入りました。

また、基幹プロジェクトの「夕張まちづくりボランティアツアー」を実施しました。夕張市は財政破綻し、最盛期には 12 万程度であった人口が現在は 1 万人弱へと減少し、人口減少社会の今後の日本のあるべき姿を検証するためには最適な学びの場であると言えます。ボランティア活動は勿論のこと地方自治に興味がある学生の参加が多く、毎晩開かれた市役所職員・消防隊隊員・NPO の方々との交流は、まちづくりの様々な問題について考えるきっかけになりました。まちづくりには「ばかもの」「わかもの」「よそのも」が必要と昔から伝えられています。地元で真剣に活動している「まちづくりばか」に接することにより、本学の学生が「わかもの」「よそもの」の視点で新たな支援をしてくれるものと望んでいます。更に特別企画として講談師田辺凌鶴が語る（夕張再生市長　鈴木直道)」を開催しました。本学の OB である鈴木市長の再生への取組を独特の節回しで語っていただき、歴史的経緯と奮闘の様子がより一層理解することができました。

3 月 11 日には付属 3 校と合同で募金活動を実施しました。当初懸念した震災の記憶の風化を心配しましたが、大学関係者をはじめとした多くの方々から募金を頂き，改めて法政ブランドを認識できました。

４月には熊本地震が発生し、改めて我が国は災害大国と認識しました。ボランティア活動は的確なニーズを把握することが第一歩と言われております。今後も各地の NPO などと協力し、学生スタッフが主体となって企画立案・実施できるようより充実した体制を作り上げていく所存であります。

最後になりましたが、法政大学ボランティアセンターの活動に対し、ご理解とご支援を賜った皆様に、この場をお借りし、改めて感謝申し上げます。

2015年度　市ケ谷ボランティアセンター来室者数集計

	来室者総数（人）	学生（人）	その他(人)	相談数(件)※	開室日数(日)
4月	285	243	42	119	21
5月	228	183	15	30	18
6月	173	151	6	16	22
7月	181	136	26	19	25
8月	43	35	4	4	16
9月	150	118	8	24	21
10月	197	161	13	23	22
11月	179	131	22	26	20
12月	171	138	22	11	18
1月	94	70	19	5	15
2月	79	56	12	11	20
3月	110	82	19	9	22
合計	1890	1504	208	297	240

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント

2015年度　多摩ボランティアセンター来室者数集計

	来室者総数（人）	学生（人）	その他(人)	相談数(件)※	開室日数(日)
4月	111	110	1	87	23
5月	59	56	3	52	17
6月	79	77	2	61	22
7月	60	49	11	48	23
8月	4	3	1	1	16
9月	44	43	1	39	21
10月	34	31	3	24	22
11月	54	46	8	33	20
12月	31	26	5	17	18
1月	17	12	5	14	15
2月	12	7	5	5	20
3月	12	4	8	7	22
合計	517	464	53	388	239

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント

※来室者総数には、学生スタッフの人数は含まれていません。

2015年度　法政大学ボランティアセンター全学運営委員会

回数	日程	議　　題
第1回	7月9日	各地区ボランティアセンター活動計画（報告）、各地区ボランティアセンターの課題、東京6大学ボラセン連絡協議会について

2015年度　市ケ谷ボランティアセンター運営委員会

回数	日程	議　　題
第1回	4月23日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（春ボラ・エコキャップリサイクル工場ツアー）、チームオレンジ（学食企画・放課後ミーティングについて・法政フェアでの物産展参加について）、基幹プロジェクト・ボラセン企画（ハンガリー剣道NAチームとの文化交流ボランティアについて・大和証券補助金について・六大学連絡協議会について）、今後の予定
第2回	5月28日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（ハンガリー文化交流ボランティアについて、エコキャップの回収について）、チームオレンジ（学食企画について、放課後ミーティングについて、物産展の進捗状況について、基幹プロジェクト・ボラセン企画（ボランティア総合講座第３回：盲導犬との「ふれあい」から学ぶ盲導犬の一生について、六大学連絡協議会、夕張まちづくりボラ、遠野被災地ボラ開始について）、今後の予定
第3回	6月25日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（エコキャップバスツアー報告、七夕フェスタについて、夏ボラWEEKについて、地域貢献ボランティア市谷小編について）、チームオレンジ（学食企画について、放課後ミーティングについて、七夕フェスタについて、法政フェア物産展の進捗状況について）、基幹プロジェクト・ボラセン企画（まちのわイベントについて、遠野被災地ボランティアについて）、今後の予定
第4回	7月30日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（七夕フェスタについて、夏のボラWEEKについて地域貢献ボランティア市谷小編について）、チームオレンジ（学食企画について、七夕フェスタについて、東北物産展の報告、遠野事前検討会について）、基幹プロジェクト・ボラセン企画（ボランティア総合講座第４回「夕張再生市長　鈴木直道」について・サクラテラスまちのわ防災フェスタ・各プロジェクト申込み状況など）、今後の予定
第5回	9月24日	ボランティア情報審査、センター運営状況、進捗状況・結果報告：VSP（夕張まちづくりボランティアについて、ボランティア総合講座について、ボランティアセンター学生スタッフがコーディネートする地域貢献ボランティアについて）、）、チームオレンジ（学食企画について、法政フェア東北物産展、住友商事中間発表会、福島被災地スタディツアー、まちのわ防災フェスタについて）、基幹プロジェクト・ボラセン企画（夕張まちづくりボランティア振り返りについて、遠野被災地ボランティアの振り返りについて）、今後の予定
第6回	10月22日	ボランティア情報審査、センター運営状況、VSP現況報告（学祭について、ボランティア総合講座の進捗状況について、冬ボラについて）、チームオレンジ現況報告（学食企画、防災訓練の協力について、東北被災地スタツアについて、防災企画進捗状況、学祭について）、基幹プロジェクト・ボラセン企画（わんぱくこどもまつり、富士山清掃、ボランティア総合講座第4回、ボラセン学生スタッフVSPがコーディネートする地域貢献ボランティア～わんぱくこどもまつり、福島スタツア)、今後の予定
第7回	11月26日	ボランティア情報審査、センター運営状況、VSP現況報告(ボランティア総合講座について、冬のボランティアWEEK、法政大学女子高校と古着回収の連携について）、チームオレンジ（学食企画について報告、防災訓練の協力について、東北被災地スタツア、起震車体験、3.11募金）、夕張まちづくりボランティアについて、今後の予定
第8回	12月24日	ボランティア情報審査、センター運営状況、VSP現況報告（ボランティア総合講座第6回の実施報告、冬ボラWEEKの実施報告、法政大学女子高校との古着回収の実施報告）、チームオレンジ現況報告（起震車体験の実施報告、スタツア実施の進捗状況、3.11募金）、アカデミー合唱団による地域貢献ボランティア、新規企画について、今後の予定
第9回	1月21日	ボランティア情報審査、センター運営状況、VSP現況報告（代表の交代、ボランティア総合講座第7回実施報告、春のボランティアWEEKについて、古着回収実施報告）、チームオレンジ現況報告（スタディツアー進捗状況、現地視察、3.11募金について）、その他（手話狂言講座実施報告、新規企画（伊藤先生）、まちのわイベント、夕張まちづくりボランティアツアーの停止について、今後の予定
第10回	3月17日	ボランティア情報審査、センター運営状況、VSP現況報告（新入生の勧誘について、春のボランティアWEEKについて）、チームオレンジ現況報告（3/1～3/4スタディツアー報告、3.11募金実施報告、新入生の勧誘について）その他（まちのわイベントについて）、今後の予定

【付記】

●市ヶ谷ボランティアセンター内にて開催。

●ボランティア依頼審査は、審査基準（2011年4月作成）に照らし合わせて判断。

第 2 章　市ケ谷ボランティアセンター活動の概要

1．活動目的と活動目標

■活動目的：本学学部生のボランティア活動の促進

■活動目標（2015 年度）：

【市ヶ谷ボランティアセンター】

①東日本大震災に伴う学生ボランティア活動の支援

②既存プロジェクトの活性化

③地域貢献ボランティアの開発、発展

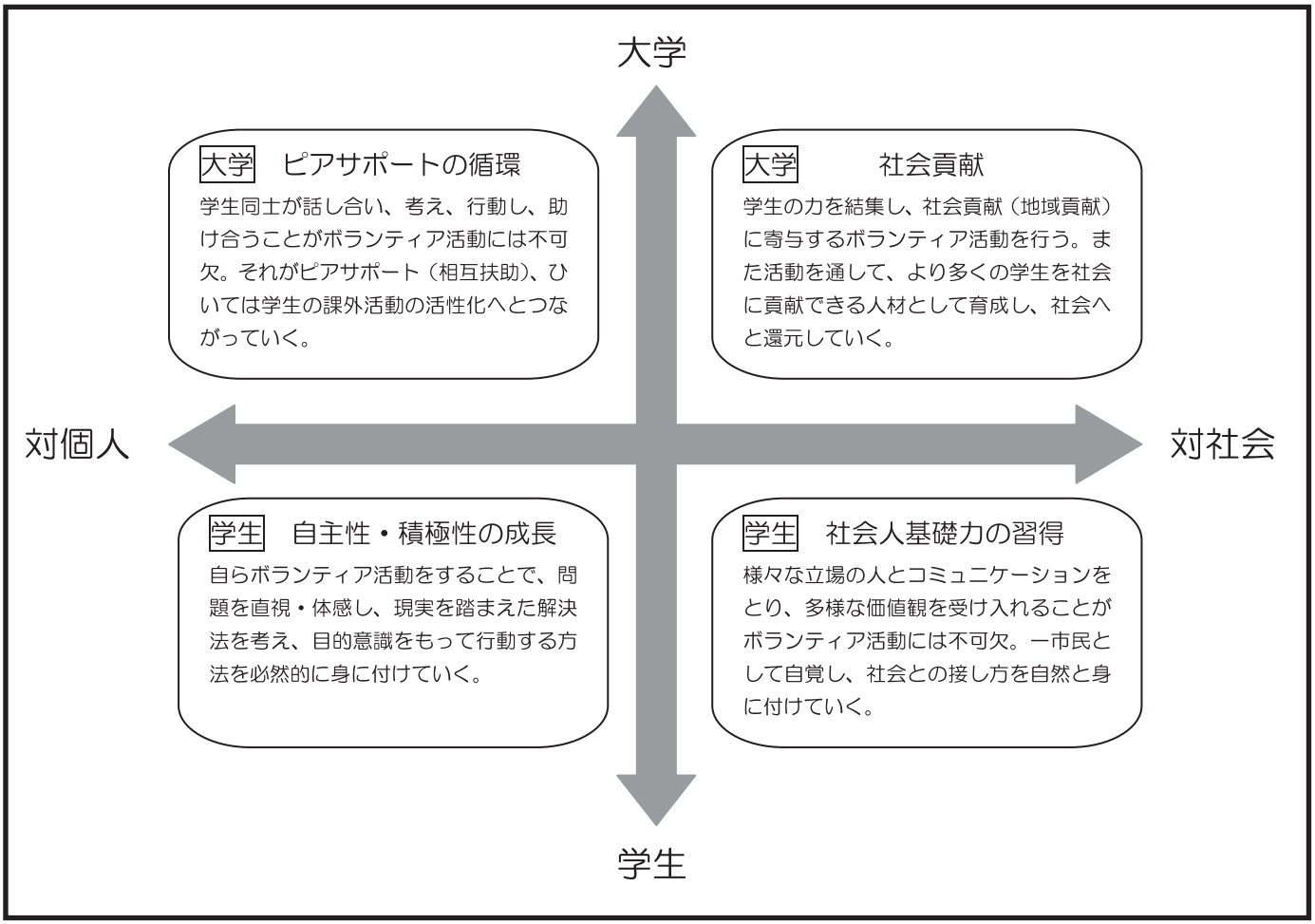
④ボランティアセンター学生スタッフの活性化

⑤学部生のボランティア促進を目的とした講座の実施、情報発信

【学生スタッフ】

●学生スタッフが主催するイベント・活動を通し、ピアサポートを念頭に置きながら、ボランティア活動の「きっかけ」や学生生活の「充実」を広く一般学生に対して提供する。

●自ら進んでボランティア活動を行い、地域貢献をすることで、経験を積み、視野を広げることを目指す。



２．2015 年度活動の特徴

市ケ谷ボランティアセンターでは、前出の「活動目標」を達成するために日々活動を行った。

①東日本大震災に伴う学生ボランティア活動の支援

●学内で可能な被災地・被災者サポート活動の活性化や震災関係啓蒙イベントの実施。

→「チーム・オレンジ」学生スタッフが、学内の防災訓練で講師となり、教職員に救命処置講習を実施した。3 月 11 日には、付属校３校と合同で飯田橋・市ヶ谷駅前での募金活動を実施。また、学食と「チーム・オレンジ」学生スタッフのコラボ企画として、「お昼ご飯、東北へ出掛けませんか？」と銘打ち、週替わりで東北３県にちなんだメニューを提供した。東北物産展を学内で開催し、利益を岩手、宮城、福島の義援金口座に寄付した。

●「チーム・オレンジ」学生スタッフが、岩手・宮城被災地スタディーツアーを実施。

→2015 年度より 2 時間程度の被災者との交流会をプログラムに取り入れ、一般学生の被災地に対する認識がより深まった。また、宮古市・田老町に初めて訪れ、ちくわ作り体験や、防潮堤の見学を実施した。3 泊 4 日の行程で、往路は夜行バス、復路は新幹線利用とした。現地では貸切バスにて移動し、岩手県・宮城県を訪問の対象とし、被災地の現状について学ぶことができた。

●「チーム・オレンジ」学生スタッフが、福島被災地スタディーツアーを実施。

→訪問先の楢葉町では、特定営利活動法人のハッピーロードネットの方から、復興の歩みについてお話をして頂き、その後 J ヴィレッジを見学した。いわき・ら・ら・ミュウでは、震災の展示を見て放射能や、福島の震災の被害について学べた。日帰りで実施したため、参加の敷居を下げることが出来た。

●遠野被災地支援ボランティア（23～26 次隊）を実施した。

→今年度より、現地ＮＰＯ法人と「チーム・オレンジ」学生スタッフが連携し、プログラムの内容を検討した。プログラムの内容を検討するにあたり、「チーオレ新聞」を作成し被災者の方々に配布し、取材を実施した。「チーム・オレンジ」スタッフが中心となり 48 名の学生が被災地でボランティアを実施することが出来た。

②既存プロジェクトの活性化

●「北海道夕張まちづくりボランティア」の 2015 年度新規プログラムの開発、現地交渉、実施準備、引率。

→今年度は、障がい者スポーツの普及に取り組む夕張のＮＰＯ法人「あ・りーさだ」が開催した障がい者スポーツの体験競技会「あだリンピック」の手伝いをした。4 歳～16 歳の障がい児やきょうだい、保護者ら計 30 名とイベントを通じて、交流ができ、充実した活動になった。夕張の歴史と現状を知るということで、石炭博物館や夕張シューパロダム、新しい市営住宅等の市内見学を実施した。

●「富士山外来植物駆除ボランティア」「富士山清掃ボランティア」の実施。

→富士山清掃ボランティア、富士山外来植物駆除ボランティアは、申込者が定員まで達し好調であった。関西大学ボランティアセンター学生スタッフと合同で実施した。

③地域貢献ボランティアの開発、発展

●児童施設・富士見わんぱくひろばでの定期的なボランティアの実施。

→富士見わんぱく広場で開催されるイベントの手伝いを 2 回おこない、参加学生が地域の子供支援をすることが出来た。またマジシャンズクラブや児童文化研究会と連携し実施することが出きた。

●キャンパス周辺清掃ボランティアおよび富士見地区・九段地区町内会清掃ボランティアの継続、拡大

→参加者数は伸び悩んだが、計画通り定期的に実施することができた。

●市谷小こどもひろばでのボランティアの実施

→今年度から 6 月と 12 月に「VSP」学生スタッフが児童文化研究会と IVUSA と連携しバルーンアートやマジック、大きな絵本などを披露した。

●「まちのわ」イベントを飯田橋グラン・ブルーム管理組合と共同実施。

→「まちのわ」イベントを飯田橋グラン・ブルーム管理組合主催のもと、2 回実施した。飯田橋で生活する、働く、学ぶ、様々な人々が飯田橋グラン・ブルームを舞台に展開されるイベントを通じ多目的に交流できる場づくりを目的に開催された。本学の登録団体およぎ学生スタッフと連携し本イベントを盛りあげることができた。法政大学学生の取り組みついての認知度向上にも寄与し、キャンパス周辺で生活する人々と本学の学生が交流することが出来きた。

④ボランティアセンター学生スタッフの活性化

●課外教養プログラムと VSP の合同企画を実施。

→2 団体の学生スタッフがコラボレーションして企画した「ハンガリー剣道ナショナルチームとキャンパス周辺を散歩する文化交流ボランティア」を実施した。

●新たなプロジェクトの立ち上げ。

→2015 年度は「チーム・オレンジ」学生スタッフが起震車・非常食体験、東北被災地物産展、「VSP」学生スタッフがエコキャップバスツアーなどを企画し、新規プログラムを実施することが出来た。

●ボランティアサークル活性化イベントやボランティアプログラム参加促進イベントの支援・実施サポート。

→ボランティアＷＥＥＫを 3 回実施。各ボランティアサークルに声をかけ、各ボランティアサークルの１年間の活動を展示。また、交流会で、各サークルの活動報告、活動やサークル運営における悩み・問題を共有した。

⑤学部生のボランティア促進を目的とした講座の実施、情報発信

●ボランティア総合講座（2015 年度は全 7 回）の企画・準備・実施。スキルアップ系講座（ファシリテーション入門講座）の実施。

→目標通りに実施できた。

2015年度　市ヶ谷ボランティアセンター　イベントカレンダー

月　日	曜　日	イベント・講座・訪問先	概　要	参加者数
4月13日～4月17日	月～金	春のボランティアWEEK	学内ボランティアサークルの新入生勧誘（活動紹介展示＆説会）	55
4月20日　他	月1回	九段・靖国周辺地区清掃ボランティア	地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止になる。）	—
4月20日　他	月1回	キャンパス周辺清掃ボランティア	学生・教職員と共に行うキャンパス周辺の清掃活動（雨天は中止になる。）	—
5月5日	火	富士見わんぱくひろば「こどもの日まつり」ボランティア	「こどもの日」をテーマにしたイベント。ゲームコーナーや受付を担当	3
5月14日	木	ボランティア総合講座第1回	今、ボランティア活動がなぜ求められているのか～これまでのボランティア活動からみる役割と展望～	6
5月17日	日	富士山外来植物駆除ボランティアツアー ～関西大学と合同実施～	富士山麓西湖湖岸生息する外来植物の駆除ボランティアを実施	40
5月21日	木	ハンガリー剣道ナショナルチームとキャンパス周辺を散歩する文化交流ボランティア　事前研修会	ハンガリー出身の交換留学生によるハンガリー語講座	12
5月25日	月	ハンガリー剣道ナショナルチームとキャンパス周辺を散歩する文化交流ボランティア ～皇居散策編～	ハンガリー剣道ナショナルチームと皇居を散策する	12
5月26日	火	ハンガリー剣道ナショナルチームとキャンパス周辺を散歩する文化交流ボランティア ～神楽坂ツアー編～	ハンガリー剣道ナショナルチームと神楽坂を散策する	10
6月9日	火	ボランティア総合講座第2回	「被災地の「今」を知る～沿岸被災地後方支援～」	16
6月14日	日	千代田防災プロジェクト	明治大学主催の大学教育と地域の連鎖を目的としたプロジェクト	33
6月20日・27日・7月4日	土	災害救援ボランティア講座(全3回)	災害救援知識の向上、救護実施体験、防災館見学等	22
6月20日	土	エコキャップリサイクル工場見学ツアー	エコキャップリサイクル工場への見学	14
6月29日	月	ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）がコーディネートする地域貢献ボランティア　～市谷小こども広場編～	VSPが、本学の地域貢献を推進するために、新宿区社会福祉協議会と連携し企画した子供向けボランティアプロジェクト	56
7月1日～7月7日	水～火	七夕フェスタ	七夕顔出しエコキャップパネルの展示、VSP・チームオレンジ活動紹介	71
7月6日～7月10日	月～金	夏のボランティアＷＥＥＫ	七夕顔出しエコキャップパネルの展示、VSP・チームオレンジ活動紹介	38
7月8日	水	ボランティア総合講座第3回	「盲導犬との「ふれあい」から学ぶ盲導犬の一生について」.	21
7月14日・15日	火・水	被災地の物産品を買おう！「東北物産展」	チームオレンジが企画、東北の物産品を一般の人にも買っていただき、売上を寄付	196
8月21日	金	遠野被災地支援ボランティア事前説明会	遠野被災地ボランティア参加者への事前説明会	37
8月25日（火）～9月4日（金）	—	遠野被災地支援ボランティア（23～26次隊）	遠野をベースとした岩手県沿岸地域でのボランティア活動	48
9月5日	土	まちのわ防災Festa	サクラテラスでの「防災」をテーマにした地域貢献イベント	673
9月7日	月	夕張まちづくりボランティアツアー事前研修会	夕張まちづくりボランティアツアー事前説明	12
9月10日～9月12日	木～土	夕張まちづくりボランティアツアー	財政破綻の町夕張市を中心にしたボランティア活動	15
9月12日～9月13日	土～日	住友商事ユースチャレンジフォーラム中間発表	住友商事ユースチャレンジでのボランティア活動の発表（プレゼン）	2
9月16日　他	水	エコキャップ回収ボランティア(毎月1～2回)	外濠校舎中心の学内エコキャップ回収活動	3
9月18日	金	遠野被災地支援ボランティア報告会	遠野被災地支援ボランティアの事後報告会	35
9月20日	日	法政フェア（東北物産展）	大学の卒業生やその家族に向けたイベントでの東北被災地支援物産展	328
10月8日他　全9回	木	手話講座（入門編）	初心者向けの基本的な手話講座	110
10月24日	土	富士見わんぱくひろばボランティア「わんぱくこどもまつり」	富士見わんぱく広場での「ハロウィン」をテーマにしたイベントの実施補助	7
10月24日	土	ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）がコーディネートする地域貢献ボランティア～わんぱくこどもまつり2015～	富士見わんぱく広場での「ハロウィンイベント」の手伝い	17
10月25日	日	富士山清掃ボランティアツアー	富士山での不法投棄されたゴミを清掃する活動	47
10月26日	月	ボランティア総合講座第4回	講談師　田辺 凌鶴 が語る「夕張再生市長　鈴木直道」.	26
11月16日～12月4日	月～金	「お昼ごはん東北へ出かけませんか？」～東北復興支援メニュー～	東北の素材を使った学食メニューの企画	748
11月21日	土	ファシリテーション入門講座	ファシリテーションの技術を実践を交えて学ぶ講座	14

講師、協力先	備　考
学内9ボランティアサークル、VSP、チームオレンジ	VSP、チームオレンジ、各ボランティアサークルの新入生勧誘に大きな役割を果たす。また、企画・運営時において、ボランティアサークルの横のネットワーク構築にもつながる。
千代田区環境安全部、九段環境整備協議会	九段地区・富士見地区の町内会連合や、千代田区の方々と共に靖国通り沿いの地域パトロールを兼ねた清掃活動。
—	学生スタッフ（VSP)の定例活動の一つ。一般学生を募集し、VSP・ボラセン教職員と共に、市ヶ谷キャンパスの周辺を清掃活動。
富士見わんぱくひろば、VSP	市ヶ谷キャンパスから一番近い子ども施設・富士見わんぱくひろばで「こどもの日」をテーマにしたイベントの運営補助。
東京ボランティア・市民活動センターアドバイザー 安藤雄太氏 ・VSP	ボランティア活動を振り返りながらこれからのボランティア活動を考えてみる講座。
NPO法人富士山クラブ、関西大学、VSP	NPO法人富士山クラブ指導のもと、環境問題や外来特定生物の種類・駆除活動の意義などについて学ぶ。
ハンガリー剣道ナショナルチーム、伊藤マモル教授、国際交流課、交換留学生、課外教養プログラム学生スタッフ、ボランティアセンター学生スタッフ（ＶＳＰ）、Hi-C Orange	ハンガリー剣道ナショナルチームの大学周辺の地域散策案内ボランティア。日本文化、歴史への関心や、情報を得ながら、学生が自主的に案内をしていくボランティアの事前語学研修。
ハンガリー剣道ナショナルチーム、伊藤マモル教授、国際交流課、交換留学生、課外教養プログラム学生スタッフ、ボランティアセンター学生スタッフ（ＶＳＰ）、Hi-C Orange	皇居周辺を散策しながら、ハンガリー剣道ナショナルチームに学生が自主的に案内をしていくボランティア。
ハンガリー剣道ナショナルチーム、伊藤マモル教授、国際交流課、交換留学生、課外教養プログラム学生スタッフ、ボランティアセンター学生スタッフ（ＶＳＰ）、Hi-C Orange	ハンガリー剣道ナショナルチームへの大学周辺の地域散策案内ボランティア。日本文化、歴史への関心や、情報を得ながら、学生が自主的に案内をしていくボランティア。
遠野山・里・暮しネットワーク　田村隆雅氏・チームオレンジ	4年経過した被災地の現状と復興プロセスについて学ぶ。
チームオレンジ、CSV（千代田区社会福祉協議会）,SKV（専修大学）、Tree（明治大学）	大学間の交流を図りながら、千代田区の防災について考えていくプロジェクト。防災ツールづくり、非常食の実食、クロスロードなどを行った。
災害救援ボランティア推進委員会	災害と防災についての知識を習得し、実技を伴った講習を受ける。災害救援活動の実際の知識を、災害模擬体験なども体験。全日程出席の参加者にはセーフティリーダー認定証と上級救命技術認定証が付与される。
（株）進栄化成さいたま工場、VSP	毎月行っている エコキャップ回収について、回収後資源にどのように活用されいるのかを実際に見て エコキャップ回収ボランティアについて考える。
VSP、児童文化研究会、ＩＶＵＳＡ、市谷小児童	地域貢献ボランティアの１つ。VSPが中心になり、児童文化研究会、IVUSAと協力して活動した。事前ミーティングなどから自主的に行った。
ピアネット、VSP、チームオレンジ	七夕にちなんだパネル展示と、日々の活動の告知、新会員募集。
VSP、チームオレンジ	日々の活動の告知、プレゼン、新会員募集。
日本盲導犬協会・VSP	盲導犬を実際に見ながら、補助犬についての法律や、一生を学び、盲導犬に対する理解を深めることを目的とした講座。
チームオレンジ、HU、法政大学一口坂校舎	商品のチョイスから金額交渉、スケジュール、納期などの管理から実際の運営までチーオレが主動で行った。
チームオレンジ	遠野被災地ボランティアについての詳細説明会。
遠野・山里ネットワーク、チームオレンジ	毎年恒例のボランティアセンター旗艦イベント。陸前高田市、大槌町などを中心に農業支援、漁港での補助作業、仮設住宅訪問などを行った。
飯田橋グランブルーム、東京消防庁、㈱ユニリビング、NPO国際ボランティア学生協会、IVUSA、荒川ゼミ、キャンエコ、知能ロボット研究室、VSP、チームオレンジ	最新レスキューロボット実演、ＬＥＤランタンづくり、デコレーションヘルメットづくり、防災クイズ、簡単防災グッズづくり、防災マップづくり、防災カルタなどの実演を行い、地域に密着した活動を行った。
VSP	夕張まちづくりボランティアツアー事前詳細説明。
NPO法人あ・りーさだ、夕張リゾート㈱、夕張市役所、VSP	炭鉱坑口跡の整備、障害児のスポーツイベントの運営など。
住友商事㈱、NPO法人市民社会創造ファンド、チームオレンジ	遠野被災地支援ボランティアの活動発表、プレゼン。
VSP	学内のエコキャップの回収ボランティア。
チームオレンジ	遠野被災地支援ボランティアの事後報告会
HU、チームオレンジ　他	東北グッズ、食品などの販売を行った。
中野佐世子氏（NHK手話ニュースキャスター）	手話ゲームブック「だれかにあったら　こんにちは」を使用しての講座。全9回。
富士見わんぱくひろば・VSP	パレード、工作コーナー、お店やさん、フェイスペインティングなどハロウィンのイベント補助。
富士見わんぱくひろば・マジシャンズクラブ・児童文化研究会	パレード、工作コーナー、お店やさん、フェイスペインティングなどハロウィンのイベント補助。
富士山クラブ・VSP	関西大学との合同清掃ボランティアツアー。
講談師 田辺凌鶴氏・VSP	夕張市長「鈴木直道氏」について、また夕張市での活躍をわかりやすく楽しく語る講談を聴く。
チームオレンジ	11月16日（月）～20日（金）「ソースかつ丼（福島県）」、23日（月）～27日（金）「じゃじゃ麺（岩手県）」、30日（月）～12月4日（金）「鮭いくら丼（宮城県）」の展開。
鈴木まり子氏・学生アシスタント（希望者）	ミーティング、会議における技法としてのファシリテーションを学ぶ。

月　日	曜　日	イベント・講座・訪問先	概　要	参加者数
11月24日	火	DIALOG IN THE DARK	暗闇体験プログラム	16
11月29日	日	福島スタディツアー	被災地支援ボランティアのための現地学習ツアー	37
12月1日	火	ボランティア総合講座第5回	今、私たちに必要とされている国際協力　～古着回収ボランティアでみる難民支援～	22
12月3日	木	盲ろう者について学ぼう	実際に盲ろう者の方にきていただき、講義をしていただく	20
12月8日	火	学生スタッフが教職員に教える応急救命講座	教職員の防災訓練で、学生が応急救命の実技などを教える	54
12月14日～12月18日	月～金	冬のボランティアＷＥＥＫ	ボランティアサークルの1年間の活動報告（展示）	60
12月14日～12月18日	月～金	おうちに余っている服どうしますか？（古着回収ボランティア）	古着回収ボランティア	―
12月14日	月	ボランティア学生スタッフ（ＶＳＰ）がコーディネートする地域貢献ボランティア～市谷小こどもひろば編～	市谷小こども広場で子供と遊ぶボランティア	34
12月18日	金	起震車・非常食体験～法政大学で地震を疑似体験してみませんか～	起震車による地震体験、非常食の試食	52
12月18日	金	ボランティア総合講座第6回　通学路に見るユニバーサルデザイン講座	身近なユニバーサルデザインについて学ぶ	13
12月20日	日	新宿区社会福祉協議会・グランダ哲学堂公園クリスマスイベントでの合唱ボランティア	施設での合唱演奏ボランティア	43
1月14日	木	ボランティア総合講座第7回　ディスカッションから学ぶＮＰＯへの就職	現役ＮＰＯ職員に聞く実体験	9
1月19日	火	手話狂言講座～プロの役者から学ぶ手話狂言の世界～	手話狂言の役者に魅力や楽しみ方などを学ぶ	11
1月30日	土	手話狂言・初春の会　鑑賞教室	古典芸能としての「手話狂言」について学ぶ	15
3月1日～3月4日	火～金	岩手・宮城　東北被災地スタディツアー	被災地支援について現地で学ぶ	31
3月11日	金	3.11大学・付属校合同被災地支援募金活動	東日本大震災についての街頭募金活動	34
3月26日	土	飯田橋グラン・ブルーム「まちのわ」イベント	地域貢献ボランティア活動	862

講師、協力先	備　考
ダイアログ・インザダーク　ジャパン	暗闇のエキスパートであるアテンド（視覚障害者）のサポートのもと、様々なシーンを体験する。
チームオレンジ	チームオレンジ　スタツア班による企画。日帰りバスツアー、アクアマリン福島、いわき・ら・ら・ミュウなどの見学、被災地支援について学ぶ。
幸あかり氏（(株)ファーストリティリング）・VSP	（株）ファーストリティリング社員の方に難民支援の古着回収ボランティアについて講義をしてもらう。
森敦士さん（ルーテル学院大大学生）・中野佐世子氏（NHK手話ニュースキャスター）	同世代の盲ろう者が実際に感じたこと、体験などを語る。
チームオレンジ	チーム・オレンジが講師となり、教職員に救命処置講習を実施し各グループの実技指導なども行う。
ボランティアサークル・VSP・チームオレンジ	ボランティア活動の様子の掲示。
(株)ファーストリティリング・VSP	古着回収ボランティアを学内で行う。
市谷小こども広場・VSP	市谷小こどの広場で、ゲームをしたり、紙芝居などを行う。
千代田区・チームオレンジ	千代田区から起震車を借りて地震の疑似体験をし、非常食の試食で被災時に備える。
中野佐世子氏（NHK手話ニュースキャスター）・ＶＳＰ	VSP企画、身近なユニバーサルデザインについて知識を深める。
新宿区社会福祉協議会・グランダ哲学堂公園・アカデミー合唱団	新宿区社会福祉協議会からの依頼。
杉原志保氏（協働ステーション中央責任者）・笠原孝弘氏（協働ステーションコンサルタント）・油井和徳氏（認定特定非営利活動法人　山友会理事）	ボランティア団体にもあるＮＰＯ法人について組織や実際の業務内容などについて学ぶ。
五十嵐由美子氏（日本ろう者劇団）・中野　佐世子氏（NHK手話ニュースキャスター）	手話と狂言の基礎知識や当日の演目の解説、通常の狂言と手話狂言の違いについての講義。
国立能楽堂	聞こえる人も聞こえない人も楽しめる手話狂言を国立能楽堂に行き鑑賞し、知識を深める。
福祉の里センター・リアスアーク美術館・ビジターセンター・生協プレイガイド・チームオレンジ	震災後5年の岩手・宮城の現状について、ボランティア活動について学ぶ。
法政大女子高・法政大中高・チームオレンジ	法政大学・高校が協力して募金活動を行った。募金金額合計377,562円。岩手県・宮城県・福島県が設置する復興支援義援金に3等分し全額寄付。
飯田橋グランブルーム・（株）KADOKAWA　・東京・春・音楽祭・　児童文化研究会・茶道研究会・ＧＲＡＮＤＳ・ＩＶＵＳＡ・三曲会・ＩＩ部美術研究会・落語研究会	地域貢献ボランティアの一環として毎年参加。2015年度は企業とのコラボなど新たな側面も見られた。

1．住友商事東日本再生ユースチャレンジ・プログラム助成決定証書授与式（チームオレンジ）

日　時：2015 年　4 月　4 日（土）13：00～

場　所：住友商事株式会社

概　要：

１．内容

４月４日（土）１３時より住友商事株式会社において「住友商事東日本再生ユースチャレンジ・プログラム助成決定証書授与式」が行われ、法政大学市ヶ谷ボランティアセンターチーム・オレンジの学生スタッフが参加しました。チーム・オレンジの被災地支援の取り組みが評価され、住友商事に 50 万円を助成していただくことになりました。

また、助成決定証書授与式の後は、他の助成決定団体とのグループワーク、懇親会が行われ、他団体とも交流を深めることができました。

本助成は、東日本大震災の被災地の地域再生と被災者の生活再建を願い、その再生過程に参加するユースを応援し、東日本の再生過程にユースが主体的かつ継続的に関わることで、多くのことを学び、経験し、地域や社　会のさらなる発展の担い手として成長することを目的にしていいます。

市ヶ谷ボランティアセンターチーム・オレンジでは、8 月下旬に、助成事業である東北被災地支援ボランティアを実施し、今後も変わらず被災支援を行い、社会貢献活動をしていきます。

２．参加人数

１名





2．春のボランティアWEEK

日　時：【展示・冊子配布】2015 年 4 月 13 日（月）～17 日（金）　終日
【説明会】2015 年 4 月 15 日（水）～4 月 17 日（金）　13 時～13 時 30 分

場　所：【展示・冊子配布】外濠校舎 1 階 メディアラウンジ
【説明会】外濠校舎 5 階 523～526

概　要：



1．内容

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）による企画。ボランティアに興味を持つ学部生に向けて、学内のサークルや、ボラセン所属学生団体を紹介することで、新メンバーを求める各サークル、ボランティアをしてみたい学生双方に対して支援しました。ボラセンの認知度アップと VSP の新メンバーを獲得することも目的とし、最終的には学内全体のボランティア促進につなげるものです。

例年同様、メディアラウンジでは、展示による活動報告を行うと同時にサークルごとの相談ブースを設置。昼休みを中心に、主に新入生への相談に応える姿が見られました。

学生主体によるＳＮＳでの宣伝や説明会前のビラ配りを行い、イベントの認知度が高まり、説明会会場をメディアラウンジにしたことで集客の効果がありました。

また、その時にサークル紹介冊子を作り配布したことで、ボランティア団体を知ってもらういい機会になりました。説明会では、一般の学部生に各団体の活動や特徴を知ってもらうだけでなく、学生スタッフ自身も他団体について理解を深めることが出来ました。

2．参加者数

説明会：５５名

3．背景・目的

・学内のボランティアサークルの活性化。新入生の勧誘。
・ボランティアサークル同士の交流。
・学部生へのボランティアサークル、ボランティアセンター所属団体の認知。





3. キャンパス周辺清掃ボランティア

日　時：2015 年 4 月～2016 年 3 月

場　所：市ヶ谷キャンパス周辺（外濠周辺）

概　要：

1．内容

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ（VSP）主催。

基本的に月 1 回、VSP のメンバーが日程を決めています。毎回 30 分間ほど、大学周辺の清掃ボランティアを行いました。　詳細な活動日と参加者数は、下表参照。学生スタッフ（VSP）の活動の柱の 1 つであり、一般学生を募集し、一緒に活動しながらボランティア活動の促進につなげていきます。

2．参加者数

のべ８５名　※8 月は休み

日程	参加者数（申込者数）
4 月 20 日（月）	雨天中止（5 名）
5 月 20 日（水）	20 名（17 名）
6 月10 日（水）	11 名（8 名）
7 月 7 日（火）	8 名（5 名）
9 月 30 日（木）	9 名（6 名）
10 月 13 日（火）	9 名（7 名）
11 月 24 日（火）	10 名（9 名）
12 月 17 日（木）	7 名（5 名）
1 月 13 日（水）	6 名（3 名）
2 月 18 日（木）	5 名（5 名）



3．背景・目的

・学内のボランティアサークルの活性化。

・ボランティアサークル同士の交流。

・一般学生のボランティア活動への誘導。





4. 九段・靖国通り地区清掃ボランティア

日　時：2015 年 4 月～2016 年 3 月

場　所：九段さくら館→靖国通り→市ヶ谷駅周辺→九段商店街→　九段さくら館

概　要：

1．内容

毎月 20 日前後に、千代田区環境安全部および九段環境整備協議会（九段地区の町内会連合）、麹町署の方々、九段商店街の方々と共に、九段・靖国通り地区の清掃　　ボランティア・巡回パトロール活動に参加しています。地域貢献ボランティアとしての活動の１つになっています。



2．参加者数

のべ４６名

日　時		参加者数（申込者数）
4 月 20 日（月）	15：30 −17：00	雨天中止（3 名）
5 月 20 日（水）		13 名（10 名）
6 月 19 日（金）		雨天中止（2 名）
9 月 18 日（金）		雨天中止（4 名）
10 月 20 日（火）		4 名（2 名）
11 月 20 日（金）		6 名（4 名）
12 月 18 日（金）	15：00 −16：30	3 名（2 名）
1 月 20 日（水）		4 名（2 名）
2 月 19 日（金）		3 名（3 名）
3 月 18 日（金）		お休み

※７、８月はお休み。雨天等の場合は中止。

3．背景・目的

・清掃ボランティアを通し、環境問題やまちづくりに興味をもってもらう。

・地域貢献ボランティアとしての活動。





5. 富士見わんぱくひろば「こどもの日まつり」ボランティア

日　時：2015 年 5 月 5 日（月・祝）
場　所：富士見わんぱくひろば
概　要：



1．内容

市ヶ谷キャンパスより一番近い児童館、「富士見わんぱくひろば」にてイベント運営のボランティアに参加しました。

この体験ボランティアに定期的に参加し、リーダー格となる学生もでてきており、先方からも期待され定期的に要望があります。

5 月 5 日は、手作り工作「紙飛行機とばし」卓球大会などを実施しました。

2．参加者数

３名

3．背景・目的

・異世代との交流（子ども）を通じた「ボランティア」の実践。
・地域の一員としての自覚を持ちながら、地域貢献活動をする。



紙飛行機を飛ばす



紙飛行機を作る

6. ボランティア総合講座第１回

今、ボランティア活動がなぜ求められているのか
～これまでのボランティア活動からみる役割と展望～

日　時：2015 年 5 月 14 日　16：50～18：20

場　所：外濠校舎 5 階　523～526

概　要：

１．講師　東京ボランティア・市民活動センターアドバイザー
安藤 雄太 氏



２．内容

ボランティア活動に関わっている外部団体の方や大学教員を招き、様々な分野のボランティアについて「ボランティア総合講座」を年に数回行っています。

第１回目は、「今、ボランティア活動がなぜ求められているのか～これまでのボランティア活動からみる役割と展望～」をテーマに、東京ボランティア・市民活動センターアドバイザーの安藤雄太氏にお話しいただきました。

東日本大震災などでは多くのボランティアが活躍しましたが、これまでのボランティア活動について、また、根本になるボランティアの考え方、地域社会の変化やボランティアの歴史など、実際の活動を振り返りながら学びました。

３．参加者数

６名

４．背景・目的

・学内のボランティア活動に対する意識向上。
・さまざまな角度からのボランティアを学ぶ。

＜講義風景＞





7．富士山外来植物駆除ボランティア

日　時：2015 年 5 月 17 日（日）日帰り

場　所：西湖湖畔、NPO 法人 富士山クラブ「もりの学校」（山梨県南都留郡富士河口湖町）

概　要：

１．内容



５月 17 日（日）、今年度は関西大学と合同で、「NPO 法人・富士山クラブ」のご指導のもと、『富士山外来植物駆除ボランティア』を実施。

「外来植物駆除」の活動は今年で３度目 となり、参加者は、学生、教職員併せて４０名でした。

バスの中では、一人で参加の学生も楽しく活動できるようにと、ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が企画したレクを行い、大変盛り上りました。

また今回から参加いただいた、関西大学ボランティアセンター学生スタッフからは、関大で実施しているボランティア活動について紹介があり「淀川清掃」では、例年１００名以上の参加があることが報告され、法政の参加学生にとってよい刺激になったと思われました。

現地ではまず、雄大な富士山の姿を間近に望むことのできる、ＮＰＯ法人・富士山クラブの本部「もりの学校」にて、富士山クラブスタッフによるオリエンテーションを受け、富士山をとりまく環境問題や、外来特定生物の種類・駆除活動の意義などについて学びました。

その後、「オオキンケイギク」などの外来種駆除活動を行いました。参加学生からは「もっとやりたかった」との声も聞かれ、心地よい気候の中での約２時間の活動をし、大量の外来種を駆除することができました。

活動後、再び「もりの学校」に戻り、各班にわかれ、関西大学の学生と法政大学の学生で情報共有、振り返りを行い、外来種駆除を広めるアイディアを発表するなど、充実した活動となりました。

今後も関西大学ボランティアセンターと法政大学ボランティアセンターは協力して富士山の外来種駆除・清掃活動を継続的に行う予定です。

２．参加者数

４０名

３．参加学生（企画スタッフ）の感想

○毎年行われているのに、これだけの数が生えているということは、やはりこれからも継続していく必要があると思うし、今回のようなボランティア活動が大切だという事がわかりました。このようなボランティア活動と、交流活動を組み合わせた形は、とてもやりやすかったです。

○生態系や生物多様性の保護に携わる仕事に将来は就きたいと思っており、そのために問題が起きている現場に出向き、活動に参加したいと思って参加しました。事前に講義を受けることもでき、外来種や他の環境問題の現状を学ぶ事ができました。期待していた以上のものを得られました。帰る際にも刈りきれていない草を見かけて、心残りでした。また参加したいです。

○ただ学ぶだけでなく、実際に目で見て、行動をとる事の大切さを改めて感じた。植物は密集して多く生えているので、根気良く抜くのは大変だったが、適度な休憩もあり、やりがいを感じる事ができた。新しい世界に踏み入ってみたいという思いもあり、あえて友達を誘わずに参加してみたので、本当に多くの人と交流する事ができ、視野を広げる１つの要因ともなった。また参加したい。

４．背景・目的

・ボランティア初心者学生の、ボランティア活動促進。
・ボランティア作業を通し、環境に対する意識やボランティア精神を養うこと。
・自然体験を通して、日ごろの生活に対する感謝の気持ちを涵養させること。
・他大学のボランティアセンターとの交流（情報交換等含む）の場。

＜もりの学校・駆除活動風景＞

















8. ハンガリー剣道ナショナルチームと キャンパス周辺を散歩する文化交流ボランティア

日　時：2015 年 5 月 21 日（木）研修
（ハンガリー出身の交換留学生によるハンガリー語講座編）
5 月 25 日（月）皇居散策編
5 月 26 日（火）神楽坂ツアー編

場　所：皇居周辺・神楽坂周辺

概　要：

1．内容

市ヶ谷ボランティアセンター主催で、5 月 21 日（木）、5 月 25 日（月）、5 月 26 日（火）の 3 日間、「ハンガリー剣道ナショナルチームとキャンパス周辺を散歩する文化交流ボランティア」を実施しました。



2015 年 5 月 29 日（金）から開催される第 16 回世界剣道選手権大会に参加するため、ハンガリー剣道ナショナルチーム 7 名が来日。本学学生が、ハンガリー剣道ナショナルチームと交流し、本学学生に、異文化交流の重要性にきづいてもらうため、本プログラムを企画しました。

本プログラムは、「ハンガリー出身の交換留学生によるハンガリー語講座編」、「皇居散策編」、「神楽坂ツアー編」の 3 編から構成されています。

2．参加者数

５月２１日（木）　１２名　：ハンガリー出身の交換留学生によるハンガリー語講座編
５月２５日（月）　１２名　：皇居散策編
５月２６日（火）　１０名　：神楽坂ツアー編

●「ハンガリー出身の交換留学生によるハンガリー語講座編」

本学のハンガリー出身の交換留学生が、「皇居散策編」、「神楽坂ツアー編」に参加する際のコミュニケーションツールとして、ハンガリー語を参加学生に教えました。ハンガリー語の発音は難しく、最初は苦労しているようだったが、参加者全員が簡単な挨拶を覚えることができました。また本プログラムのアドバイザーである伊藤マモル教授から、本プログラムの経緯、なぜ自身がハンガリー剣道ナショナルチームのトレーナーになったのか、ハンガリーの文化等について講義をしていただき、プログラムの導入となりました。

●「皇居散策編」

ボランティアセンターに集合し、飯田橋駅から地下鉄に乗り、桜田門駅で下車し、皇居外苑を散策。初めのうちは、参加学生とハンガリー剣道ナショナルチームのメンバーは、上手くコミュニケーションをとれなかっ

たが様でしたが、皇居の二重橋や、楠木正成像を見学しているうちに次第に打ち解け、英語で会話し、文化交流することができました。

●「神楽坂ツアー編」

課外教養プログラム学生スッタフとボランティアセンター学生スタッフ（ＶＳＰ）が協力し神楽坂ツアーを実施。事前に打ち合わせを重ね、図上でのルートの確認や、参加者に配布する英語の案内マニュアルを作成しました。

当日は、課外教養プログラム学生スタッフ、ボランティアセンター学生スタッフを中心に、ハンガリー剣道ナショナルチームを神楽坂へスムーズに案内することができました。赤城神社では、参加学生が、絵馬の意味をハンガリー剣道ナショナルチームに教えたところ、内１名が絵馬に願いごとを書き、奉納するなどの一幕も見られ、日本の文化について理解していただけました。また本学の登録団体であるHi-C Orangeの協力によって、英語の苦手な学生も活発な文化交流をすることができました。

本プログラムを中で、「日本の歴史や文化などを上手く説明できなくて、悔しかった。」などの意見もあり、参加学生は異文化交流するには、まず自国の歴史や文化を知ることが重要であること身をもって感じたようでした。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、異文化を理解し、交流することの重要性にきづいてもらうためこのようなプログラムを市ヶ谷ボランティアセンターでは、今後も企画する予定です。

協力：伊藤マモル教授、国際交流課、交換留学生、課外教養プログラム学生スタッフ、
ボランティアセンター学生スタッフ（ＶＳＰ）、Hi-C Orange

３．背景・目的

・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、学生に異文化を理解し、交流することの重要性にきづいてもらう。
・神楽坂や靖国神社などのキャンパスの周辺を本学学生と散歩することを通して、日本文化をハンガリーナショナルチームに理解していただく。

















9. ボランティア総合講座第2回

被災地の「今」を知る～沿岸被災地後方支援～

日　時：2015 年 6 月 9 日（火）16：50～18：20

場　所：外濠校舎 5 階　523～526

概　要：

１．講師　NPO 法人 遠野山・里・暮しネットワーク　田村 隆雅 氏

２．内容

ボランティア総合講座では、ボランティア活動に関わっている外部団体の方や大学教員を招き、様々な分野のボランティアを学びます。

東日本大震災から 4 年経過し、記憶の風化や誤認識が問題になっています。原発事故や、放射能については、メディアでも頻繁に報道されますが、被災地の現状に関する報道は明らかに少なくなっています。また「東北は既に復興し、もうボランティアの必要はないと思っていた。」などの率直な感想がありました。

そこで、4 年経過した被災地の現状と、復興支援のプロセスを学ぶことによって、本学学生の記憶の風化を防ぐこと、被災地ボランティアへの参加を推進することを目的とし本講座を実施しました。



３．参加者数

１６名

４．参加学生の感想

今回初めて東北で行われるボランティアについて、いろいろ聞くことができました。

私が中学生の時に大震災が起き、宮城に友達がいたこともあり、すぐに電話をしたり、手紙を出したりと、連絡を取ろうとしましたが、結局連絡がついたのは 1 ヶ月後でした。聞くとかなりの被害をうけ、避難所にいたそうです。震災で東北がどのような被害を受け、今どのようなことを求めているのか興味があり、自分で何かできることがないか考えていました。

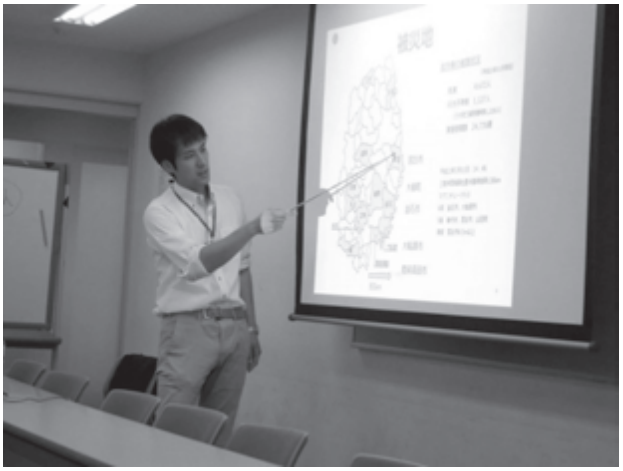
この講演で、今被災地の方々が必要としていることは、ほんの些細なコミュニケーションであったり、私でもできることなんだと分かり、これから関わっていきたいと思いました。

５．背景・目的

・被災地支援などに向けてのボランティア意識の向上。

・震災についての記憶の風化防止。





10. 第1回千代田防災プロジェクト（チームオレンジ・防災班）

日　時：2015 年　6 月　14 日（日）11：00～15：30

場　所：明治大学駿河台キャンパス リバティタワー1075 ・1076 教室

概　要：

１．内容

法政大学ボランティアスタッフ　チームオレンジ（防災班）は、６月１４日（日）１１：００～１７：００に地域の連携を目的とした「千代田防災プロジェクト」を他の学生団体と合同で企画しました。
このプロジェクトは、実際に地震が発生した際に、正しい行動をするためにはどうすべきか、また避難においてどのようなものが必要なのか等の防災に関する知識を共有し、千代田区で大型地震などが発生した際に、連携できる体制を構築するために合同で企画しているものです。
参加団体は、SKV（専修大学）、CSV（千代田区社会福祉協議会）、Tree（明治大学）、チームオレンジ（法政大学）の４団体。参加人数は３３名でした。

＝＝＝＝＝

各団体の紹介（活動ボランティア、課題の発表）の後、アイスブレイクを行いました。
その後、「簡易トイレづくり」、「非常食の実食」をグループワークで行いました。

「簡易トイレづくり」は、避難所にいる想定で水道や電気を使わずに、限られた材料で制限時間は 35 分というシビアな設定で行いました。
「非常食の実食」は実際に販売されている非常食にはどのようなものがあるか、また、おいしいかどうかを参加者に体験してもらいました。
その後、「クロスロード」を行いました。災害時に起こりうることを問題に、Y/N で答えもらい、なぜその解答にしたかを発表することで、自分とは違う気付きや、価値観を共有することができました。

２．参加人数

３３名

３．参加学生の感想

・玉ねぎアレルギーを持っている参加者がいたので、避難食の素材にアレルギーがあるかどうかを事前に参加に聞いたほうがいいと思った。
・画全体の時間を見直し、アイスブレイク以外で他のグループとも交流できるものを用意する。
・非常食のレパートリーが少なかった。予算の可能な限り、次回より多くの種類を用意するように努める。

４．次回への試み

・実践的な企画をしたい（ロールプレイング）。
・シェイクアウトをやりたい。
・救命講習をやりたい。
・防災マップをつくりたい　（運営メンバーを増やす）。

５．背景・目的

・大学間の交流・連携をはかりながら、地域貢献の防災を考えていく。
・災害に対する学生の自発的活動力を育てる。

アイスブレイク時



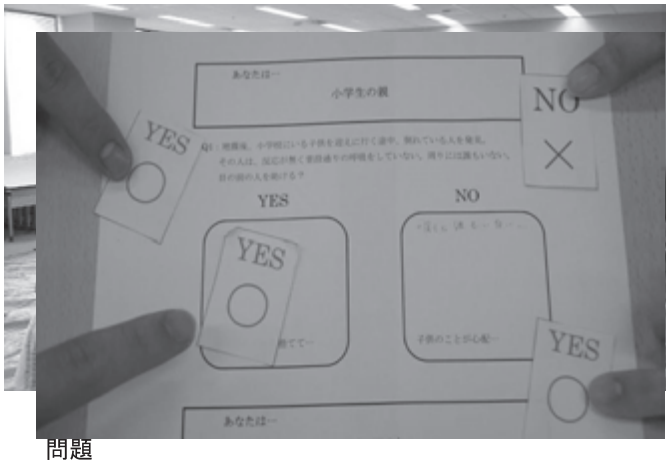
グループ



発表風景



作業風景（全体）



作業風景

問題



作業風景

11. 災害救援ボランティア講座（全3回）

日　時：2015 年 6 月 20・27 日・7 月 4 日（土）　全日 9:00–17:00

場　所：外濠校舎 5 階・526 会議室、市ヶ谷総合体育館 3 階柔道場、本所防災館/富士見坂校舎 3 階 F309 教室

概　要：

1．講師

宮崎　賢哉氏（災害救援ボランティア推進委員会主任）、
吉永　宏氏（元常磐大学大学院教授）、東京防災救急協会、
元東京消防庁職員、千代田区ほか

2．内容

◆第１日目〈法政大学　市ヶ谷キャンパス外濠校舎 526 会議室〉
　災害と防災対策の基本を講義形式で学んだり、グループ
　ワークを実施。（出火防止と初期消火、災害時の決断力、災害と防災対策の基本について）

◆第２日目〈市ヶ谷総合体育館３階　柔道場〉
　応急手当活動（上級救命技能講習）

◆第３日目〈本所防災館 / 法政大学　富士見坂校舎３階 F309 教室〉
　災害模擬体験（震度７の地震体験、煙や暴風を体験）と実技 ＜本所防災館＞
　災害救援ボランティアの実際、災害時のリーダーシップと安全衛生、認定証授与 ＜法政大学＞

3．参加者数

１日目（６月２０日）：２２名
２日目（６月２７日）：２２名
３日目（７月４日）：２０名

4．背景・目的

・災害知識を増やし、災害時における緊急対応の習得をする
・ボランティア活動の推進。













12. エコキャップリサイクル工場見学ツアー

日　時：2015 年 6 月 20 日（土）

場　所：株式会社進栄化成　さいたま工場

概　要：



１．内容

6 月 20 日（土）、ボランティアセンター学生スタッフ（ＶＳＰ）が企画したエコキャップリサイクル工場見学ツアーを実施しました。

市ヶ谷キャンパスの学生は、キャンパス内のエコキャップ活動について関心が高く、2014 年度は、約 300 kgのペットボトルキャップを回収しました。集められたペットボトルキャップが、どのような形で、再利用されているのかについて知るため、本プログラムを企画しました。

株式会社進栄化成、さいたま工場に到着後なぜペットボトルのキャップを再利用するのか、再利用したものがどのような製品になるのか、といったことについて講義を受けました。

その後ペットボトルのキャップのリサイクル工程（原材料の回収→選別→洗浄→混合→造粒→乾燥→計量）の一連の流れを見学でき、回収されたペットボトルのキャップが、どのように使われているか実際に確認することが出来き、大変有意義でした。

２．参加人数

１４名

３．参加学生の感想

今回工場見学をしてみて、普段何気なく使っているペットボトルのリサイクルに様々な工夫がされていることを知り驚きました。

（デザイン工学部 3 年　男子）

キャップの種類の多さから起きる選別の問題をどう解決し、改善するかなどの興味深い話を聞けてよかったです。

（デザイン工学部 3 年　男子）

これからは、もっとキャップを回収ボックスに入れようと思います。

（法学部 3 年　女子）













13. ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）がコーディネートする地域貢献ボランティア

～市谷小子どもひろば編～

日　時：2015 年　6 月　29 日（月）11：00～15：30
場　所：千代田区立市谷小 こどもひろば
概　要：

１．内容

ボランティアセンター学生スタッフ（ＶＳＰ）が、本学の地域貢献を推進するために、新宿区社会福祉協議会と連携し企画した子供向けボランティアプロジェクト。

事前に市谷小子どもひろばを訪問し、ニーズを聞き、ボランティアサークルの児童文化研究会、ＩＶＵＳＡに協力を要請しました。

当日は、児童文化研究会は巨大紙芝居、ＩＶＵＳＡはバルーンアート、ベーゴマやけん玉などの昔遊びを披露し、子供たちは、夢中になって参加しており、満足度の高いプログラムでした。

また、本プログラムに参加した学生たちからは、「自分たちの活動が地域貢献に繋がって、嬉しかった。」などの意見もあり、地域貢献することの喜びと、手ごたえを感じていたようでした。

市ヶ谷ボランティアセンターでは、本学学生に活躍の場を提供するため、地域貢献の重要性に気づいてもらうために今後もこのような企画していく予定です。

協力：市谷小子どもひろば、新宿区社会福祉協議会、児童文化研究会、ＩＶＵＳＡ、
　　ボランティアセンター学生スタッフ（ＶＳＰ）

２．参加者数

５６名

３．背景・目的

・ボランティアスタッフが自主的に企画し、学内のチームに要請をし、協力しながらボランティア活動を行う。
・学童育のボランティアを通じ地域に貢献する。









14. 七夕フェスタ２０１５

日　時：2015 年７月１日（水）～７月７日（火）詳細は下記

場　所：511 教室横の迂回通路

概　要：ボランティアセンター学生スタッフ（ＶＳＰ・チームオレンジ）の活動の紹介と、エコキャップ回収、東日本大震災の復興支援の告知

１．内容

〇ＶＳＰ企画「七夕顔出しエコキャップパネル」

日時：７月１日（水）～７月７日（火）

顔を出せるエコキャップを貼り付けたパネルを配置し、記念撮影をしていただくように通行する人に呼びかけました。また、用意した短冊を笹につけてもらい、願いごとを書いてもらいながら、エコキャップ回収を含めた今までの活動などを写真等を使いわかりやすく紹介しました。

〇チームオレンジ企画「東北被災地について知ろう！～チームオレンジ企画の宣伝～」

日時：７月１日（水）、２日（木）、３日（金）、６日（月）、７日（火）　１２：４０～１３：２０

七夕フェスタの期間に合わせ、活動報告の展示と、今後実施する「東北物産展」「東北復興支援プロジェクト」などのチームオレンジ主催企画の宣伝をしました。自主的参加を促すために、チーオレスタッフが通路に立ち、呼びかけをしたり、興味がある人には、実施した活動の説明なども積極的に行いました。

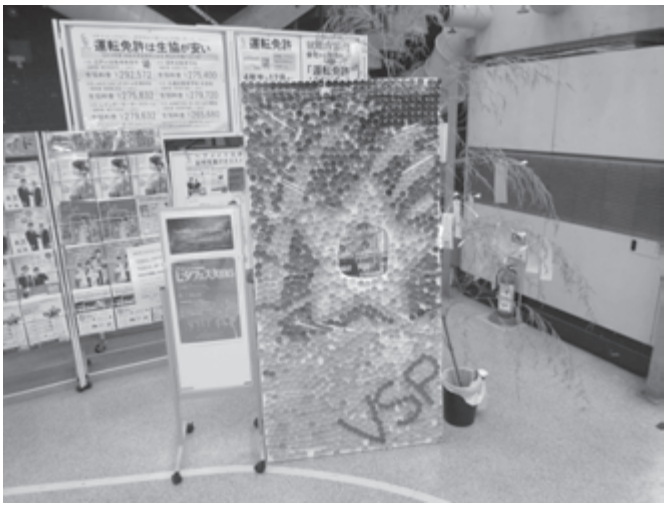
２．参加人数

７１名

３．背景・目的

・ボランティアセンター学生スタッフの活動の周知

・ボランティア活動の推進。

















15. 夏のボランティア WEEK

日　時：【展示・冊子配布】2015 年 7 月 6 日（月）～10 日（金）　終日
【説明会】2015 年 7 月 9 日（木）12：50～　2015 年 7 月 6 日（木）16：50～（VSP）

場　所：【展示・冊子配布】外濠校舎 1 階 メディアラウンジ
【説明会】外濠校舎 3 階ギャラリー

概　要：

1．内容

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）による企画。

夏の七夕フェスタ（ボランティアセンター企画）の後、ボランティアに興味を持つ学部生に向けて、ボラセン所属学生団体を紹介することで、活動の認知度向上を図ることを主旨にしています。VSP、チームオレンジのメンバーを獲得することも目的とし、最終的には学内全体のボランティア促進につなげていきます。

外濠校舎 3 階ギャラリーでは、展示による活動報告や、パワーポイントを使用したボランティア活動の説明などを行いました。

ボランティア団体スタッフだけの「ボランティア活動」は、なかなか一般学生の目に触れない点があります。このような機会を使いアピールを継続していく予定です。

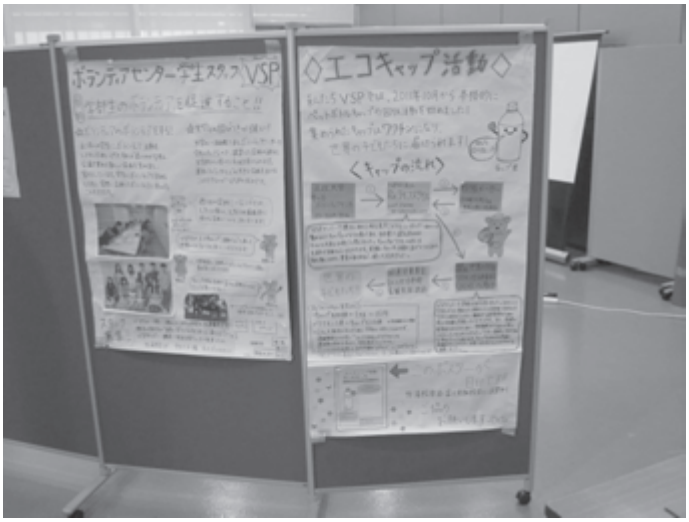


2．参加者数

３８名

3．背景・目的

・学内のボランティアサークルの活性化。
・ボランティアサークルの活動の認知。





16. ボランティア総合講座第3回
盲導犬との「ふれあい」から学ぶ盲導犬の一生について

日　時：2015 年　7 月　8 日（火）　16：50～18：20

場　所：外濠校舎 5 階　523～526

概　要：



１．内容

障がい者の社会進出と自立を促進するために、毎年多くの盲導犬が育成されています。その頭数が年々増加をしていく一方で、盲導犬を受け入れる社会自体の理解は十分とはいえないと思われます。お店や交通機関で利用を断られてしまうケースも多々見うけられます。

盲導犬をはじめとする補助犬についての法律や、一生を学び、盲導犬に対する理解を深めることを目的として開催しました。

講座では、視覚障がい者の歩行を体験するために、学生がアイマスクを着用し、白杖を使用したり、盲導犬のサポートを受け、教室内を歩きまわりました。盲導犬が生まれてから、盲導犬をリタイアするまでの一生について、盲導犬のデモンストレーションも交えてお話しして頂き、視覚障がいに関する知識、盲導犬に対する理解を深めることが出来き、大変有意義な講義となりました。

協力：日本盲導犬協会、ボランティアセンター学生スタッフ（ＶＳＰ）

３．参加者数

２１名

４．参加学生の感想

・視覚障がいの方、盲導犬のことを学ぶ機会はめったにないと思うので、参加できて嬉しかったです。
犬のブラッシングを、飲食店に入るときなどを考え、迷惑をかけないようにやってらっしゃるというのを聞いてそこまで考えつかなかったので驚きました。
犬が盲導犬として生活していくのは、とても大変そうなイメージがありましたが、犬も家に帰れば普通の犬と同じように生活していると知って、よかったなと思いました。視覚障がいの方や盲導犬のことへの理解を深めたいし、理解が広がればいいと思いました。（経営学部　３年）

・視覚障がい者の方々が皆全盲であるわけではない、ということは知っていたのですが、全盲の方より少しでも見える方のほうが生活は楽なのかと思っていました。しかし、今回実際に視覚障がい者の方の話を聞いて認識を改めることができました。貴重な話を聞かせていただきありがとうございます。
（法学部　２年）

５．背景・目的

・視覚障がい者に対する知識・ボランティアへの動機づけ。
・盲導犬に対する理解。



日本盲導犬協会の方々と盲導犬の紹介



アイマスクで歩くことを体験



白杖を使用して歩くことを体験



アイマスクを着け盲導犬と歩く



講師の方に質問



お疲れ様でした

17. 被災地の物産品を買おう！「東北物産展」

日　時：2015 年　7 月 14 日（月）・7 月 15 日（火）

場　所：法政大学　一口坂校舎

概　要：



１．内容

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」主催で、7 月 14 日（火）、7 月 15 日（水）の 2 日間、被災地の物産品を買おう！「東北物産展」を実施しました。

東日本大震災の直後は、被災地での瓦礫撤去作業や写真洗浄などのボランティア活動が数多くありましたが、震災から 4 年が経ち、学生が取り組めるボランティア活動が少なくなってきています。そこで市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジでは、東京で行える復興支援活動の 1 つとして、東北のおいしい食べ物や工芸品を伝え、もっと東北に興味を持ってもらい、震災の風化を防ぐため「東北物産展」を一口坂校舎一階で株式会社エイチ・ユー協力のもと開催しました。今回は、チーム・オレンジの学生が岩手、宮城、福島の３県の商品をセレクトし、販売に至りました。

＝＝＝＝＝

○「かもめの玉子」（岩手県）：さいとう製菓株式会社が製造している岩手県大船渡市の郷土菓子。

○「さるなしドリンク」（岩手県）：キウイフルーツの原種である「さるなし」は、甘酸っぱさが特徴。

○「大槌コースター」（岩手県）：２０１１年３月に東日本大震災により、被災された方々が自らの手で復興を目指し、作っている商品。

○「ふかひれスープ」（宮城県）：気仙沼産のフカヒレ原料にこだわった人気のスープ。

○「希望のかけ箸」（福島県）：東日本大震災で被害の大きかった岩手県・宮城県・福島県の杉間伐材を使用した割り箸。

＝＝＝＝＝

チーム・オレンジの学生たちは、多くの人々に来てもらうために、宣伝ポスター、商品説明のポップ、チーム・オレンジの活動内容を記載した模造紙等の作成を行いました。また、当日は一口坂校舎の前で積極的な呼び込みや、氷で冷やしたさるなしドリンクで一口坂校舎に呼びこむなどの工夫をした結果、2 日間で来客数は 196 名に達しました。また総売上額は、87,600 円に達し、利益の 13,088 円はすべて、岩手、宮城、福島の義援金口座に寄付しました。

被災地の復興を支援するため、震災を風化させないためにも、市ヶ谷ボランティアセンターでは、今後もこのような取り組みを企画していきます。

２．参加者数・成果

１９６名

―――――――――――――――――――

総売上額：87,600 円
寄付金額：13,088 円　（岩手、宮城、福島の義援金口座に全額寄付）
協力：株式会社エイチ・ユー

３．企画学生の感想

今回 は、美味しい食べ物や素晴らしい工芸品を知ってもらうことで、東北にもっと興味を持ってもらうために、物産展を開催しました。物産展に来ていただいた方には、多くの言葉をかけていただき、このような活動を通すことで、日常生活では薄れつつある東日本大震災の風化防止にも貢献できると確信することができました。

（経営学部　3 年　角田航太）

現地の方とやり取りをしているうちに復興への様々な思いが感じ取られ、この思いを東京の人にも届けたいという気持ちで今回の物産展に臨みました。たくさんの方から励ましの言葉を頂き、中には東北出身の方もいらっしゃって、少しだけお話を伺うことも出来ました。大変な事もありましたが、人と人との繋がりを感じた物産展でした。また機会があればぜひ行いたいと思います。ご協力有難うございました！　（法学部　3 年　安西玖美子）

２日間を通して沢山の方に寄っていただき、とても嬉しく思っています！そして楽しむことが出来ました！物産展を企画・運営し、難しさを感じましたが、取引先の方々や株式会社エイチ・ユーなどの協力により無事終えることが出来ました。周りの方には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。
震災から４年半がたちましたが、これからもこのような活動を継続することが大切だと思います。法政大学の学生に発信していきたいです。　（法学部　3 年　粟井千智）

４．背景・目的

・東日本大震災の被災者支援活動の風化防止。
・被災地の方々との交流。
・学生が自主的に企画から販売まで行う活動の実現。









18. 東北支援プロジェクト 遠野被災地自立支援ボランティア

日　時：2015 年　8 月 21 日（金）事前説明会
8 月 25 日（火）～8 月 29 日（土）第 23 次隊　8 月 27 日（木）～8 月 31 日（月）第 24 次隊
8 月 29 日（土）～9 月 2 日（水）第 25 次隊　8 月 31 日（月）～9 月 4 日（金）第 26 次隊
9 月 18 日（金）報告会

場　所：岩手県遠野市、陸前高田市、大槌町、大船渡市

概　要：



１．内容

8 月 25 日（火）～9 月 4 日（金）、ボランティアセンターでは、岩手県遠野市をベースキャンプにし、陸前高田市、大槌町で通算 23～26 次隊となる「被災地自立支援ボランティア」を実施し、総勢 48 名の学生が参加しました。現地では、「遠野山・里・暮らしネット」のコーディネートの下、ネギ畑の整備、漁協でのわかめの出荷作業、しいたけ農家の補助作業、漁師さんの補助作業、復興住宅での交流会などの被災地自立支援を行いました。また研修を兼ね、被災地の見学会も実施しました。

現地に向かう前にはボランティアの心得や注意事項、現地の現状等についての事前研修を実施し、帰着後には報告会を開催し、各隊毎に活動発表を行い情報を共有しました。

また、今年度より、ボランティアセンター学生スッタフであるチーム・オレンジが、本プログラムを実施する前に、法政大学の被災地支援の取り組みを知ってもらうため、「チーオレ新聞」を作成し、ボランティアの受け入れ先に配布しました。新聞を渡す際にどのようなボランティアを実施するかを取材し、事前説明会の時に、参加学生にボランティア内容を伝えることによって、学生が想像しているボランティアと実際に行うボランティアとのギャップを埋めることが出来きました。

２．参加者数

合計４８名（２３次隊：１２名　２４次隊：１２名　２５次隊：１２名　２６次隊：１２名）

３．参加者の感想

＝＝＝＝＝＝＝

被災地に訪れたのは初めてで、震災から 4 年もの月日が経ちテレビなどでも取り上げられなくなってきた中、実際に見てみると、自分の思っていた以上に建物などは復興が進んでいたが、人々の心の傷はまだいえていない部分もあるのだと感じた。

中でも、情報館の昔の町の風景の展示に現地の人も多く来ていることから、やはり昔のことを思い出さずにはいられないのだと思った。交流会では笑って話しているお年寄りの方も、時折悲しそうな顔そしているのを見て、まだ時間はかかるだろうと思った。交流会で言われたとおり、今を普通に生きていることがどれだけ大切かということをかみしめて生活していきたい。

今回のボランティアを通し、やはり現地に訪れことが大事だと感じた。年を重ねていけばできることも増えると思うので社会人になっても被災地を訪れたい。

（経営学部　1 年　男子）

＝＝＝＝＝＝＝

私は今回初めて被災地に来ましたが、私が想像していた以上に被災地の方は笑顔でした。色々な活動や交流会等でふれあってみて、私たちのことを気にかけていたり、逆に心配してくださったり、とてもあたたかい方ばかりでした。でもやはり交流会でお話を聞いて傷は癒えてないと感じました。

それでも復興に向けて、前を向いて笑顔で頑張っている東北の方々を見て、その笑顔を守れるように、心から笑顔になれるように私にできることを継続してやっていきたいと思いました。後、ワカメ工場での活動を通して海にめちゃくちゃにされた東北だけれど、東北沿岸のこれからもまた「海」が「売り」になっていくのだろうな、と個人的に感じました。時間がかかると思いますが、復興に向けて何か海を利用できたらいいのかもしれないと思いました。

（法学部　２年　女子）

＝＝＝＝＝＝＝

陸前高田に訪れて、復旧・復興がすこしずつではあるけれど着実に進んでいることがわかりました。しかし、仮設住宅で未だに暮らしている人が多くいたり、公営住宅に移ってもコミュニティの構築がまだなかなか作られていなかったりと、多くの人が知るべきことや支援がまだたくさん必要である、ということを知りました。

交流会を通じてお話をさせていただいた方に「仮設住宅に移った当初は、イベントのようなものも多く行われていたけれど、今はそんなにやらない。だから今日は来てくれて、こうして話すことができてとても嬉しい。」とおっしゃっていた方がいました。ボラティアという形に捉われずに、陸前高田を始めとした被災地に訪れて、現地の方とお話をするという事でも、復興支援の一部になるのではないか、と思いました。

復興はとても時間のかかること。だから、何年経っても被災に関することは伝えていかなければならないことで、風化させてはいけない。支援を止めるなんてことはおかしい。

私たちはボランティアを通じて見て聞いて知った事をまわりに伝え、いろいろな形での支援をこれからも続けていくべきだと思いました。

（文学部　３年　女子）

４．背景・目的

・東日本大震災の被災者支援活動の風化防止。
・被災地の方々との交流。
・学生が自主的に企画から販売まで行うプログラムの実現。



漁師さんの補助作業



ビニールハウスの整備



ネギ畑の整備



復興住宅での交流会



集合写真 23 次隊



集合写真 24 次隊



集合写真 25 次隊

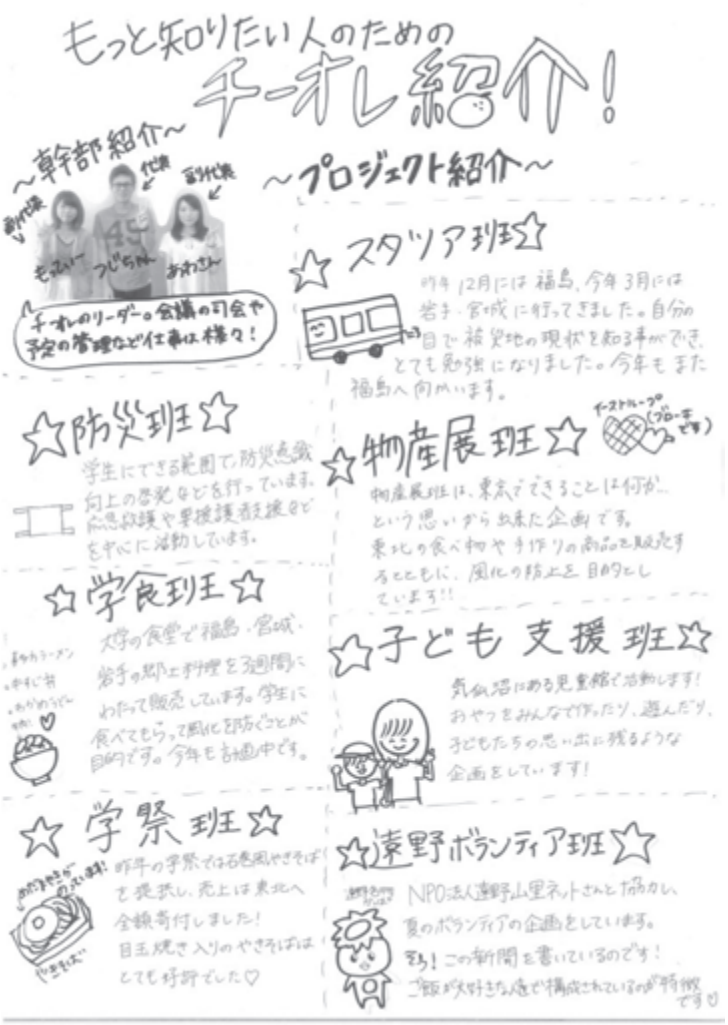


集合写真 26 次隊



チームオレンジのスタッフが自分たちの紹介新聞を手作りで作成。
チームオレンジの活動の紹介、自分たちがどんな団体かなどを凝縮して新聞にしました。現地関係者や復興住宅などで紹介、配布し、チームオレンジの紹介やツールとして会話の導入などに役立てました。

←チーオレ新聞（オモテ）



チーオレ新聞（ウラ）→

19. 飯田橋グランブルーム まちのわ防災Festa

日　時：2015年　9月　5日（土）

場　所：飯田橋グランブルーム

概　要：



１．内容

９月５日（土）に「まちのわ 防災Festa」が飯田橋グラン・ブルーム管理組合主催のもと開催されました。

本イベントは飯田橋で生活する、働く、学ぶ、様々な人々が飯田橋グラン・ブルームを舞台に展開されるイベントを通じ多目的に交流できる場づくりを目的に例年開催されており、今回は防災をテーマにした「見て・感じて・楽しくふれあえる」イベント。

市ヶ谷ボランティアセンターは、キャリアデザイン学部荒川ゼミ、理工学部知能ロボット研究室（理工学部伊藤研究室）、IVUSA、チームオレンジ、キャンパスエコロジー・フォーラム、VSPと連携し本イベントを盛り上げました。

＜各団体の実施内容＞

■理工学部知能ロボット研究室（理工学部伊藤研究室）

・最新レスキューロボット実演

災害時に、人命救助活動を支援するレスキューロボットの実演を行いました。

■キャリアデザイン学部荒川ゼミ

・ＬＥＤランタンづくり

災害時の停電の暗闇でも使える必需品を参加者と一緒に作成しました。

・デコレーションヘルメットづくり

自分だけのオリジナルヘルメットを参加者と一緒に製作しました。

■チームオレンジ、キャンパスエコロジー・フォーラム、VSP　３団体合同

・防災クイズ

意外と知らない防災に関するクイズを出題し、参加者の知識を深めました。

・簡単防災グッズづくり

新聞でつくるスリッパやキッチンペパーを使った簡易マスクなど簡単防災グッズを参加者と一緒に製作。

・防災マップづくり

防災マップを参加者につくってもらい、飯田橋駅周辺の防災を知り、初期行動や避難場所について学んでいただきました。

■IVUSA

・防災カルタ

参加者の防災の知識をオリジナルカルタで深めていきました。

本イベントを通して、法政大学学生の取り組みついての認知度向上にも寄与し、キャンパス周辺で生活する人々と本学の学生が交流することが出来ました。

２．参加者数

６７３名

３．背景・目的

・地域貢献ボランティアについて意識を高め、関連団体同士で繋がりを深めイベントの共同企画をしていく。

・防災についての知識を深め、地域の施設などの情報を共有する。

・防災に関した学内の研究成果などのアピール。













20. 夕張まちづくりボランティアツアー

日　時：2015 年 9 月 10 日（木）～9 月 12 日（土）　事前研修会　9 月 7 日（月）

場　所：北海道夕張市

概　要：

１．内容

財政破綻の町として有名である北海道夕張市にて学生 15 名・教職員 3 名の計 18 名による 7 度目の「夕張まちづくりボランティア」を実施しました。

昨年と同様、障がい者スポーツの普及に取り組む夕張のＮＰＯ法人「あ・りーさだ」が開催した、障がい者スポーツの体験競技会「あだリンピック」の手伝いをしました。障がい児やきょうだい、保護者ら約 30 名とイベントを通じて、交流ができ、充実した活動になりました。

また、北炭夕張炭鉱千歳鉱坑口の雑草除去作業を実施し、生い茂る雑草で見えなくなっていた坑口が見えるようになりました。坑口の雑草除去作業終了後、夕張市が所蔵する映画に関する書籍の整理も行いました。

ボランティアだけではなく、夕張の歴史と現状を知るということで、石炭博物館や夕張シューパロダム、新しい市営住宅等の市内見学を実施しました。

また夜には、夕張市議会議員、夕張市職員などの夕張市でご活躍している方々を招き、懇談会を実施し、夕張の実情なども学ぶことができました。「夕張まちづくりボランティア」は、2010 年 2 月に夕張市長と学生センター長との間で締結した「連携協力に関する協定」にもと行なわれています。

２．参加者数

１５名

３．参加学生の感想（アンケートより抜粋）

自分が想像していた以上にボランティアが自分に与えてくれたものは多かったです。
今までは見えなかったボランティアの受け入れ側の下準備、学生ができる事の少なさ、コミュニケーションの大切さ等、日々自分の無力さと学の浅さを痛感しました。今後は今回の夕張の経験を生かし、様々の事に積極的にチャレンジしていこうと思えました。

---

3 日間ありがとうございました。私は特別夕張に興味を持って参加したものではありません。
そのため、この 3 日間私は多くの事を学びました。そして、日本にはこのような町があるのか、と思いました。
あそこは時間が止まった町だと感じます。でも実際は少しずつ前に進もうとしているのだとも思います。
またいつか、できれば来年それを見に来たいと思います。

人生の中でもベスト 3 に入るとても貴重な体験ができました。市長が来られなかったのは残念ですが、夕張のいろいろな方からお話を聞く事ができ、とても勉強になった。この経験をこれから活かして公務員になりたいと思う。

４．背景・目的

・実際に体験することで、身近なボランティアに気づいてもらう。
・学外の行政関係者などと直接話しをすることにより、普段触れることのない現場の話を聞くことができる。



障害者スポーツイベント



障害者スポーツイベント集合写真



坑口雑草除去作業



坑口雑草除去作業集合写真



書籍の整理



石炭博物館見学

21. エコキャップ回収ボランティア

日　時：2015 年 9 月～2016 年 3 月　毎月 1 回昼休み
場　所：市ヶ谷キャンパス周辺（外濠周辺）
概　要：

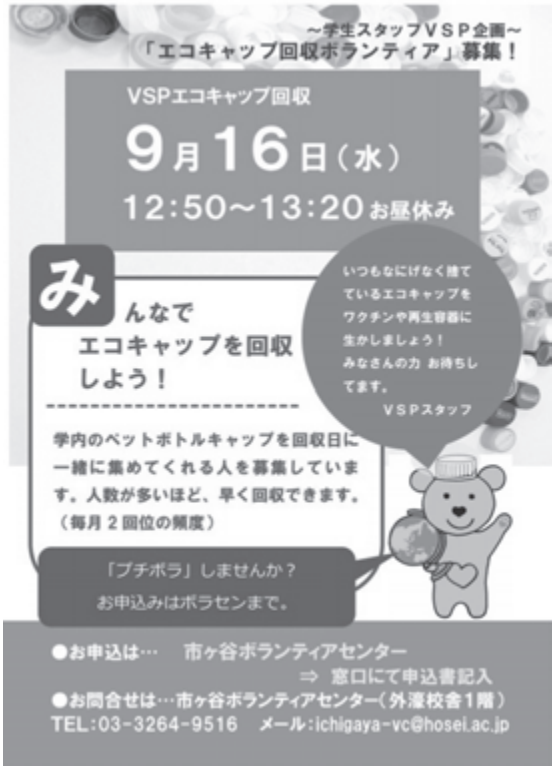
1．内容

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ（VSP）主催。月に 1 回ペットボトルキャップを回収するボランィアを行っています。

学生の環境に対する意識を高めるために一般学生と一緒に活動し、集めたペットボトルキャップは回収業者に送付してリサイクルに活かしています。
VSP が中心で活動していましたが、9 月より一般学生にも参加を呼びかけました。
今年度の VSP の回収は 94,689g、市ヶ谷校舎全体で 274,305g にもなりました。

2．参加者数

日程	参加者数
9 月 16 日（水）	3 名
10 月 7 日（金）	6 名
11 月 17 日（火）	5 名
12 月 22 日（火）	3 名
1 月 20 日（水）	3 名
2 月 18 日（木）	3 名



3．背景・目的

・学内などの身近なボランティアへの貢献。
・環境に対する意識の向上。

22. 法政フェア（東北物産展）

日　時：2015 年　9 月　20 日（日）

場　所：外濠校舎 1 階　エントランス

概　要：

1．内容

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」が、9 月 20 日（日）に行われた法政フェアで「東北物産展」を実施しました。

チーム・オレンジは、東日本大震災によって被災した地域の支援や風化防止活動、防災啓発活動を行っています。今回は法政フェアに初めて参加し、外濠校舎 1 階にて「東北物産展」を行い、東北のおいしい食べ物や東北ならではの工芸品などを販売いたしました。来場者には、東北の魅力を感じ、興味をもっていただけたと思われました。

チーム・オレンジの学生たちは、多くの人々に来てもらうために、宣伝ポスター、商品説明のポップ、チーム・オレンジの活動内容を記載した模造紙等を作成し、日々の活動報告、被災地支援活動などの告知を行いました。物産展の売上は、岩手、宮城、福島の義援金口座に寄付いたしました。

被災地の復興を支援するため、震災を風化させないためにも、市ヶ谷ボランティアセンターでは、今後もこのような取り組みを企画していく予定です。

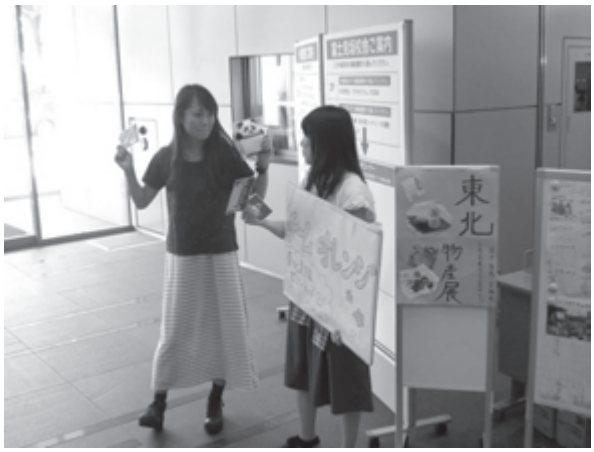
2．参加者数　３２８名

3．背景・目的

・東北被災地への支援。

・イベントの企画（商品見積から仕入れ、商品選定など）から運営まで学生の自主的活動の促し。

・学内外へのボランティアスタッフの活動の周知。









23. 手話講座（入門編）

日　時：2015 年 10 月 8 日、10 月 15 日、10 月 22 日、10 月 29 日、11 月 5 日、11 月 19 日、12 月 10 日、12 月 17 日（木曜日・入門編 8 回と番外編講座）

場　所：富士見坂校舎 3 階　F308 教室

概　要：

1．講師

NHK 手話ニュースキャスター　中野　佐世子氏

2．内容

手話講座テキスト「手話ゲームブック」をもとに、全 8 回にわたり手話の基礎を学びました。

指文字の練習からはじめ、簡単な会話の習得などを行いました。



3．参加者数

１１０名（延べ人数）

4．参加者の感想（アンケートより抜粋）

とても楽しく手話を勉強することができました。

手話だけではなく、実際の体験話や、ろうあ者のこと等とても貴重な話を聞くことができ、すばらしい講座でした。

本当にありがとうございました。もっと手話の事、ろうの事を学んでいきたいと思います。

＝＝＝＝

ほんとうに楽しかったです。先生とお別れと考えると寂しいです。もっと色々と教わりたかったです。

短い間でしたが、ありがとうございました。

＝＝＝＝

とても充実した講座を受講できて本当によかったです。次の機会があれば、是非参加したいと思います。

先生のお話はいつも感心することばかりでためになりました。

5．背景・目的

・基礎的手話の習得、聴覚障がい者への理解。

・ボランティアに対する意識の向上。





24. 富士見わんぱくひろば
「わんぱくこどもまつり」ボランティア
～ボランティアセンター学生スタッフ（ＶＳＰ）がコーディネートする地域貢献ボランティア～

日　時：2015 年 10 月 24 日（土）

場　所：富士見わんぱくひろば

概　要：



１．内容

市ヶ谷ボランティアセンターでは、10 月 24 日（土）、千代田区富士見わんぱくひろばで実施された「わんぱくこどもまつり 2015」に協力しました。マジシャンズクラブ、児童文化研究会、一般応募した学生を含む計２４名の本学学生が参加しました。マジシャンズクラブの学生は、ステージ上で約３０分程度マジックを披露し、特に鳩を用いたマジックは、子供たちから大好評でした。

児童文化研究会の学生は「おおきなかぶ」の巨大紙芝居を披露し、一般応募した学生たちは、パレードの交通整理、工作教室の補助、ハロウィンをテーマにしたゲームの運営を担当しました。

また、本プログラムに参加した学生たちからは、「自分たちの活動が地域貢献に繋がって、嬉しかった。」などの意見もあり、地域貢献することの喜びと、手ごたえを感じていたようでした。市ヶ谷ボランティアセンターでは、本学学生に活躍の場を提供するため、地域貢献の重要性に気づいてもらうために今後もこのような企画していきます。

２．参加者数

・富士見わんぱくひろばボランティア「わんぱくこどもまつり」：　７名

・ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）がコーディネートする地域貢献ボランティア
～わんぱくこどもまつり 2015～：　１７名

３．背景・目的

・異世代との交流（子ども）を通じた「ボランティア」の実践。

・地域の一員としての自覚を持ちながら、地域貢献活動をする。

・ボランティアに対する意識の向上。





25. 富士山清掃ボランティアツアー

日　時：2015 年 10 月 25 日（日）

場　所：富士山麓

概　要：



１．内容

10 月 25 日（日）、ボランティアセンターでは、
関西大学と合同で、「NPO 法人・富士山クラブ」のご指導のもと、
学生 43 名・教職員 4 名で
『富士山清掃ボランティアツアー』を実施しました。

バスの中では、ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）を中心とした企画スタッフがレクリエーションを行うことによって、参加者間の交流が深まりました。

現地ではまず、雄大な富士山の姿を間近に望むことのできる、ＮＰＯ法人・富士山クラブの本部「もりの学校」にて、富士山クラブスタッフによるオリエンテーションを受け、環境問題や、不法投棄の現状について学びました。

その後バスで移動し、バスを降車後 1 時間程度富士の樹海を歩き、活動場所に到着しました。
作業現場は数か所あり、車のバッテリー、廃屋を解体した際のがれきや、木材、ガラス等が山のように積まれていましたが、法政大学と関西大学の学生が協力することにより全て撤去することができ、ごみの総量は 600 kgにもなりました。

活動後は再び「もりの学校」に戻りました。今回は、同日に偶然活動していた東洋大学と合流し、各班にわかれ、情報共有、振り返りを行い、清掃活動を広めるアイディアを発表するなど、充実した活動となりました。

今後も関西大学ボランティアセンターと法政大学ボランティアセンターは協力して富士山の清掃活動を継続的に行っていきます。

２．参加者数

47 名

３．参加学生（企画スタッフ）の感想

○業者の不法投棄の現状を見て、本当にこんなことが起こっているということを実感しました。
今後ボランティアの活動を広げると同時に、ゴミの投棄自体を減らすことを考えていけたらいいと思います。

○初参加でしたが、いろいろ学びがありました。特に感動した事は、お互い初対面の参加者が多いのにも関わらず清掃の現場では役割分担チームワークが自然に成立して、多量のゴミがまたたく間に片づいた事です。
そして関西大学や東洋大学の学生達とも交流できたのも良かったです。
大学は違ってもボランティアに対する思いは同じなのだなあと痛感しました。

○富士山の現状をこの費用で知ることができてよかった。不法投棄がひどいという事はメディアでは何度も見たが、実際に見たことでやっと現実感、危機感が持てた。長期的な活動の重要性を感じたので、改善策などを話し合える時間を今後持てたら嬉しい。富士山クラブや VSP の方のおかげでスムーズに活動できて楽しかった。

学年、学部、キャンパスを越えて様々な学生とかかわる機会が持てて有意義なツアーだった。参加できてよかった。ありがとうございました。

4．背景・目的

・富士山清掃活動を通し、環境に対する意識やボランティア精神を養うこと。
・活動を通し環境保全、不法投棄の実態について学ぶ。
・他大学のボランティアセンターとの交流（情報交換等含む）の場。



ミーティング



作業前の現地打ち合わせ



作業風景①



作業風景②



全体写真



作業前の打ち合わせ

26. ボランティア総合講座第４回 「講談師 田辺凌鶴が語る（夕張再生市長 鈴木直道）」

日　時：2015 年 10 月 26 日（月）

場　所：外濠校舎 1 階 メディアラウンジ

概　要：

１．講師　講談師 真打　田辺　凌鶴　氏

２．内容

2006 年に財政破綻した北海道夕張市について、講談師（真打）の田辺凌鶴氏に、OB の鈴木直道氏を中心に語っていただきました。

なぜ夕張市の財政が破綻したか、歴史と経緯を追いながら説明があり、鈴木直道氏が夕張市市長に当選するまで、また夕張市の現状と再生への道のりなどを、張り扇を使った独特の節回しで語っていただきました。

当日着席で聴いていた学生や職員もいましたが、興味をそそられ、立ち見などで聴いていた方もいて、語りの魅力を感じていたようです。

今回のボランティア総合講座は、夕張まちづくりボランティアで活動している VSP が企画段階から講談師との連絡、当日の会場セッティング（他サークルとの連絡調整)、進行などを行いました。



最後の質疑応答の時間では、法政大学の元職員でもある田辺凌鶴氏に講談師について、講談の内容などの答えづらい質問にも笑いを交えお答えいただき、大変有意義な時間になりました。

３．参加人数

２６名

４．背景・目的

・ボランティア活動をしている夕張市の再生について考える。

・講談と講談の歴史について学ぶ。



VSP の説明



田辺　凌鶴氏　講談風景

27.お昼ごはん東北へ出かけませんか？ ～ 東北復興支援メニュー ～

日　時：2015 年 11 月 16 日（月）～20 日（金）　ソースかつ丼(福島県)
11 月 23 日（月）～27 日（金）　じゃじゃ麺（岩手県）
11 月 30 日（月）～12 月 4 日（金）鮭いくら丼（宮城県）

場　所：ボアソナードタワー地下 1 階フォレストガーデン

概　要：



１．内容

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」は、学食の委託事業者である東京ケータリング(株)と協力し、11 月 16 日～12 月 4 日の 3 週に渡り、ボアソナードタワー地下 1 階フォレストガーデンにて、東北 3 県にちなんだメニューを提供しました。

東日本大震災から約 4 年と 9 か月が過ぎた今、チーム・オレンジでは、震災の記憶が風化しつつあるのではないかと感じ、法大生に対してできる風化防止策として、学生に身近な学食と連携して東北にちなんだ料理を提供し、震災についてもう一度考えるきっかけを作ってはどうかと考え、昨年度に引き続き本企画を行いました。

チーム・オレンジのメンバーが東京ケータリング(株)とミーティングや試食会を実施して考案したメニューのラインナップは、11 月 16 日（月）～20 日（金）が「ソースかつ丼（福島県)」、23 日（月）～27 日（金）が「じゃじゃ麺（岩手県)」、30 日（月）～12 月 4 日（金）が「鮭いくら丼（宮城県)」でした（価格は全て 500 円)。販売数は下記の通りです。

○　ソースかつ丼　290 食
○　じゃじゃ麺　　223 食
○　鮭いくら丼　　235 食　　計　748 食

期間中、フォレストガーデン内には、各県の現状や観光スポットの紹介、3 月に実施したスタディーツアーや、8 月に実施した岩手県遠野市でのボランティアを含めた、チーム・オレンジの活動紹介などの模造紙を掲示しました。

協力：法政大学事業室、東京ケータリング株式会社

２．企画学生の感想

今回の企画では、平均すると 1 日約 50 人という多くの方々に、東北復興支援メニューを食べていただくことができました。自分自身も、開催期間中は何度も学食に足を運びました。
チーム・オレンジの活動報告や、東北の見どころなどが書かれた掲示物に、多くの学生たちが目を向けてくださっていたように思います。しかし、開催前と開催中の両方において宣伝が不十分であったため、一部の学生にしか企画を知ってもらえていなかったという反省点もあります。

大学の学食とのコラボレーションというのは、学生スタッフだからこそできることだと思います。なので、今回の反省を生かしながら、より多くの学生に東北について興味を持ってもらえるような企画を、また実施できたらよいと思っています。最後に、ご協力いただいた東京ケータリングのみなさんや大学の職員さん方に、心から感謝を申し上げます。

チーム・オレンジ学生スタッフ　西川 結子（国際文化学部・国際文化学科 3 年）

3．背景・目的

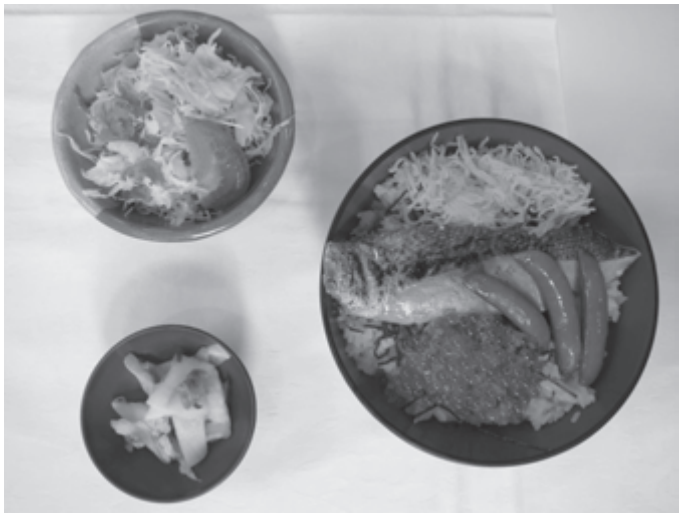
・学生主動のボランティア企画の実践。
・東日本大震災の風化防止。
・ボランティア活動の告知。



ソースかつ丼



じゃじゃ麺



鮭いくら丼



試食

28. ファシリテーション入門講座

日　時：2015 年 11 月 21 日（土）

場　所：外濠校舎 5 階　526 会議室

概　要：

１．講師

NPO 法人日本ファシリテーション協会フェロー　鈴木まり子氏

２．内容

「ファシリテーション」とは、ミーティング等の話し合いの場で発言や参加を促したり、話の流れを整理したり、参加者の認識の一致を確認しながら、合意形成や相互理解をサポートし、組織や参加者の活性化や協働を促進させるコミュニケーションスキルです。

当日はグループに分かれ、一つの課題を解決まで導くシミレーションを通し「ファシリテーション」を学びました



３．参加者数

１４名

４．参加者の感想（アンケートより抜粋）

MTG の中で意見が多く出すぎるという事に対して、質問をしぼると広がり過ぎないというところが印象に残りました。ファシリテーターという概念をみんなで共有することが MTG が円滑に進むと思いました。スタッフにファシリテーター概念を共有します。今回はとても内容が濃く、そして楽しい講義をありがとうございました。これから自分の所属する団体、ゼミで生かしていきたいと思いました。

＝＝＝＝

椅子の並べ方で会議がかわるというところが印象に残りました。参加者が主役という部分も。
限られた時間で中身の濃い内容でした。

参加者の意識の高さに感心しました。

＝＝＝＝

ファシリテーターが仕切りテーターになってはいけない、溶けこむくらいが理想だというところが印象に残りました。リーダーとしての話し合いに生かしていきたいです。
とても丁寧に、そして楽しく教えてくださり、とても充実していました。「ファシリテーション」というものを１から学ぶことができたと思いました。ありがとうございました。

＝＝＝＝＝

最も印象的だったのは、ファシリテーターという立場でいながらも、参加者を主体にしながら話を混沌とさせるということ、また、よい話合いはスムーズなことではなく、当事者意識を持ってもらう、ということです。

早速学んだスキルを実践したい。自分のグループメンバー全員に受けて欲しい内容でした。もっとファシリテーションについて学んでいきたいです

５．背景・目的

・基本的ファシリテーション技術の習得。

・ボランティアに関する意識の向上。



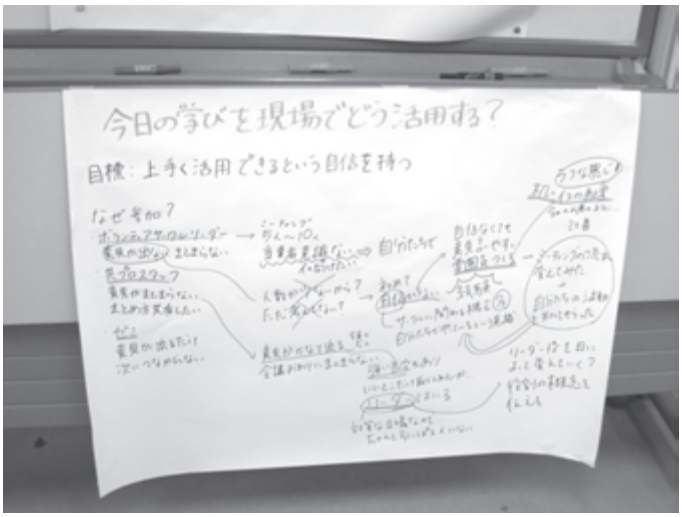
ファシリテーション入門講座①



ファシリテーション入門講座②



椅子の並べ方で違う



ファシリテーションの分析

29. DIALOG IN THE DARK（ダイアログ イン ザ ダーク）

日　時：2015 年 11 月 24 日（火）

場　所：東京都渋谷区神宮前 2-8-2 レーサムビル B1F

概　要：

１．内容

市ヶ谷ボランティアセンター主催で、11 月 24 日（火）、「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」を実施し、16 名の本学の学生が参加しました。

本プログラムは、特定非営利活動法人ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパンが実施しており、1 名のアテンド（視覚障がい者）のサポートのもと、完全に光を遮断した空間の中を探検し、様々なシーンを体験することが出来るプログラムです。

今回は、「形なき大切なものと出会う五感の目覚め」というプログラムを体験し、参加学生たちは、完全に暗闇の中、藪やトンネルやゲートなどの障害を、声をかけあい協力することよって攻略していきました。



また道中には、穴の中にボールを落とすゲームや、綿を触覚だけで探しだし、丸める体験などがありました。最後には、完全に光が遮断されたカフェで飲み物やお菓子を注文し実際に飲食しました。

本プログラムを通して参加学生は、視覚障がいを持った方への理解、コミュニケーションの重要性に気づいたようで、今後もこのようなきづきのきっかけとなるプログラムを市ヶ谷ボランティアセンターでは、実施していきます。

３．参加者数

１６名

４．参加者の感想（アンケートより抜粋）

いつもいかに視覚に頼って生活していたのかを知ることができました。声だけのコミュニケーションのほうが人の中身がよくわかることに驚きました。外見に今までとらわれていたのだと気づきました。暗闇の中ではすごいチームワークを発揮出来たのに、明るい世界に戻るとまた他人のようで、少し寂しい不思議な体験が出来ました。

暗闇の中で、お菓子を食べたが、どんなお菓子なのか、感触や舌で探りながら食べることがすごく楽しかった。「あっマシュマロだ！クリだ！おせんべい！」と発見しながら食を楽しみました。あたり前のことが新鮮に感られて、新しい世界はまだまだあると感じました。

５．背景・目的

・視覚障害者への理解。

・ボランティアに関する意識の向上。

・コミュニケーションの重要性。



集合写真



事前説明

30. 福島スタディツアー

日　時：2015 年 11 月 29 日（日）
場　所：福島県いわき市
概　要：



１．内容

市ヶ谷ボランティアセンター主催で、11 月 29 日（日）、「福島スタディーツアー」を実施し、37 名の本学の学生が参加しました。

本企画は、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジが企画し、各種手配、広報、当日の運営を行いました。
毎年 3 月に実施している岩手・宮城被災地スタディーツアー（2 泊 3 日）だけではなく、今まで被災地に足を踏み入れたことが無い学生を主なターゲットに、日帰りが可能なよりハードルの低いスタディーツアーを企画しました。

楢葉町では特定営利活動法人のハッピーロードネットの方から、3 月 11 日から現在に至るまでの歩みや、復興の状況についてお話をして頂きました。その後、福島第一原発から半径 20 キロにあるＪヴィレッジに移動し、原発事故収束のための拠点を見学し、東京電力の方に説明をして頂きました。日本代表が使用していたピッチが復興のため、現在は駐車場として使用されている状況に学生たちは衝撃を受けていたようです。

その後、アクアマリンふくしまに移動しました。東日本大震災の影響で、アクアマリンふくしまも甚大な被害を受け、多くの生きものたちを失いました。 様々な苦境を乗り越え、再オープンを遂げるまでのプロセスをお話して頂いた後に、水族館の見学をしました。
最後にいわき・ら・ら・ミュウで買い物や食事をとり帰着しました。

現地にて、様々な震災遺構を見て、被災者の話を聞き、さらに買物や食事をすることで、震災の記憶を共有し、風化防止の一助となることが出来ました。

また、このプロジェクトを通じて、チーム・オレンジの学生スタッフは、企画書作成、準備、当日の運営などのプログラムの一連の流れを学ぶことで来ました。
今後も市ヶ谷ボランティアセンターでは、震災の風化防止の一助となるプログラムを実施していきます。

＝＝＝＝

ルート（日帰り）

法政大学出発→現地 NPO 法人のお話し→Ｊヴィレッジの見学→アクアマリンふくしま（講話・水族館見学）→いわき・ら・ら・ミュウ（夕食）→ 法政大学出着

＝＝＝＝

２．参加者数

３７名

３．背景・目的

・学生主動のボランティアプログラムの企画実現。
・東日本大震災の風化防止、現状把握。



ハッピーロードネットのお話



集合写真



Ｊヴィレッジ 東京電力の方からのお話



アクアマリン福島の方からのお話



アクアマリン福島1



アクアマリン福島2

31. ボランティア総合講座第５回
「今、私たちに必要とされている国際協力」
～古着回収ボランティアでみる難民支援～

日　時：2015 年 12 月 1 日（火）
場　所：外濠校舎 5 階 526 会議室
概　要：

１．講師　株式会社ファーストリティリング CSR 部
学生難民支援サポーター運営担当　幸 あかり氏

２．内容

市ヶ谷ボランティアセンター主催で 12 月 1 日（火）ボランティア総合講座第 5 回、「今、私たちに必要とされている国際協力～古着回収ボランティアでみる難民支援～」を実施し、22 名が参加しました。



世界には、貧困に苦しむ人々がたくさんいます。そのような世界の現状を知りながらも、「私たちではなにもできない」と考えてしまったり、その現状から目を背けてしまう人も少なくないと思います。自分にとっていらない「古着」を役立ててもらうという身近なボランティアを知ってもらうためにＶＳＰ（市ヶ谷ボランティアセンタースタッフ）が企画しました。

講師には、世界の貧しい人々に手を差し伸べている団体（UNHCR）とともに「古着の回収ボランティア」を行っているユニクロの(株)ファーストリティリング CSR 部　学生難民支援サポーター運営担当 幸あかり氏にお話をしていただき、難民支援・古着の需要について、多くの学部生に関心を持ってもらうことができました。



また本プログラムに参加した法政大学女子高等学校と 2015 年 12 月 14 日(月)～18 日(金)に古着回収を実施し、約 20kg の衣服を回収することができました。

３．参加人数

２２名

４．企画学生の感想

今回、講座および活動を新規で企画するのは自身の初めての試みでした。連絡を頻繁に行うことに苦手意識を持っていたので、周りの方々にご迷惑をおかけしてしまうことも多かったように感じますが、それ以上に得られたものが多く、やってよかったなと感じています。

企画をすることの大変さ、連絡の重要さなど、何もない状態から企画することで学んだことが多かったので、今後の生活、特に社会人になってからこれらの学びを存分に役立てていこうと思っています。また、今回の企画を通して国際協力についての意識もより高まったので、今後も引き続き目を向けていきたいと考えています。

ボランティアセンター学生スタッフ（ＶＳＰ）鈴木唯（国際文化学部 3 年）



講義風景①



講師



講義風景



ユニクロ回収 BOX

32. 盲ろう者について学ぼう（手話講座番外編）

日　時：2015 年 12 月 3 日（木）

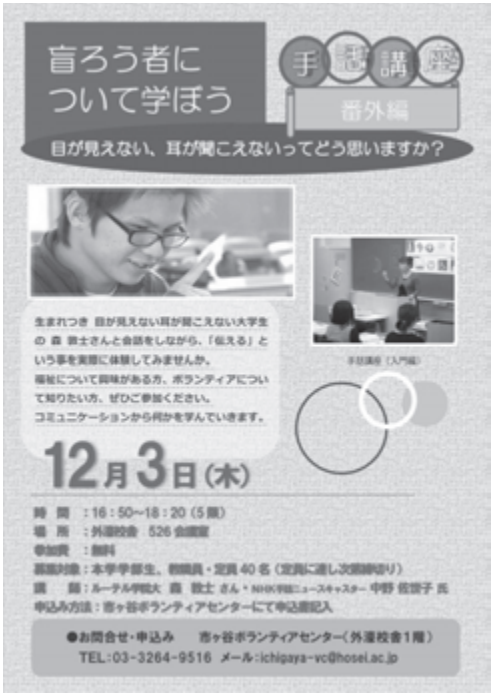
場　所：富士見坂校舎 3 階　F308 教室

概　要：

１．講師

ルーテル学院大学生　森　　敦士さん

NHK 手話ニュースキャスター　中野　佐世子氏



２．内容

12 月 3 日（木）、「手話講座番外編　盲ろう者について学ぼう」を実施し、20 名の学生・教職員の参加がありました。本企画は、10 月 8 日から毎週木曜日に実施している手話講座の番外編として実施し、手話講座を受講していない学生・教職員の参加もありました。

手話講座の講師である NHK 手話ニュースキャスター中野佐世氏に今回の講座では司会をしていただき、先天性の盲ろう者である森敦史（ルーテル学院大学学生）さんに講師をしていただきました。森さんは盲ろう者であるため、光がわかる程度であり、声の判別や発話は出来ないので、話通訳の方を介して、現在までの生い立ち、主なコミュニケーション方法、盲ろう者と接する時の注意点について教えて頂きました。

最後に、手話講座で学んだ知識を活用して、学生が森さんに触手話で質疑応答を行い、講座終了後も森さんと交流を深めました。今後も市ヶ谷ボランティアセンターでは、障がい支援のきっかけとなるプログラムを実施していきます

３．参加者数

２０名

４．参加者の感想（アンケートより抜粋）

今回初めて盲ろう者の方とコミュニケーションをとった。目が見えない人や、耳が聞こえない人とは何回かコミュニケーションをとったことがある。

目が見えない人は音でコミュニケーションとり、耳が聞こえない人は文字でコミュニケーションをとっているが、盲ろう者の方は触れることだけで普段の生活をしなければならない。何をするにしても触覚だけで、全ての情報を理解するのは１人では出来ないことが多いと思う。１人でも多くの人が理解し、協力者になることが大事であると今回の講座に参加して強く思った。

＝＝＝＝

障がいの度合いによって接し方が少し違って、障害がい者が提示してくれるコミュニケーション手段に応じ対応すればいいことと、森さんの経験談よりタクシーで、頼んだ場所に降ろしてもらえなかった事、コンビニでペットボトルを買うのに 30 分もかかってしまった事などの話が印象に残っています。とても貴重な話をきけて体験もできたので、自分の将来に活かしたいと思いました。

５．背景・目的

・基本的手話の習得、聴覚障害者への理解。

・ボランティアへの姿勢の学び。



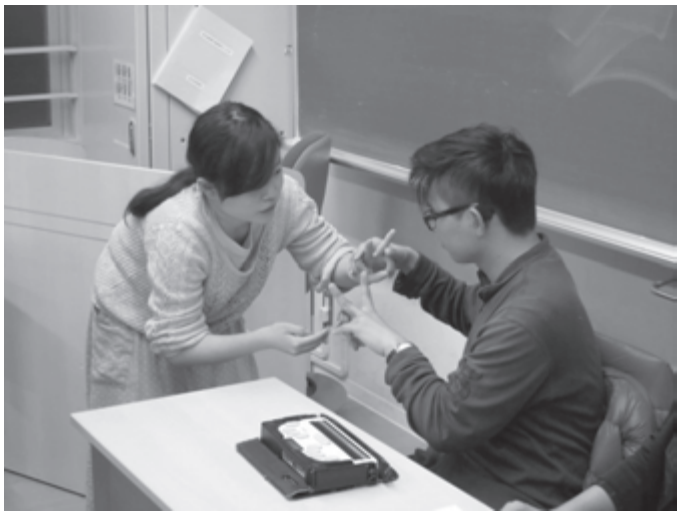
森さんの手話の様子１



森さんの手話の様子



森さんと参加学生の触手話の様子１



森さんと参加学生の触手話の様子２



森さんと参加学生の触手話の様子３



森さんと参加学生の触手話の様子４

33. 学生スタッフが教職員に教える応急救命講座（防災訓練内に実施）

日　時：2015 年 12 月 8 日（火）

場　所：外濠校舎 6 階　薩埵ホール

概　要：

１．内容

12 月 8 日（火）、市ヶ谷キャンパス外濠校舎薩埵ホールにて、秋学期防災訓練を実施しました。今回はボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジが講師となり、教職員に救命処置講習を実施し、54 名が参加しました。

チーム・オレンジは、東北被災地支援、防災啓発についての様々な企画を実施しているボラティアセンター所属の学生団体です。講習は、まずチーム・オレンジの学生が、マネキンを用いて胸骨圧迫、人工呼吸、ＡＥＤの使用法について実演を行い、その後グループに分かれて参加者が実技を行うという内容でした。チーム・オレンジの学生は、各グループの実技指導も行いました。

本講習を実施するために、チーム・オレンジの学生は、アドバイザーである一般社団法人防災教育普及協会事務局長宮崎賢哉氏との事前勉強会の実施や、立川防災館に行くなどして、救命処置の知識レベルを他者に指導出来るレベルまでに高めるこが出来ました。また関連部局の大学職員とのミーティングを重ねることによって、プロジェクトの進め方を学べ、本講習を実施することによって大きく成長することが出来たようです。

また、参加した教職員からは「学生が指導役だったので、手が抜けなかった。」、「学生がここまで教えられるとは思っていなかった。」などの感想もあり、非常に有意義な講習になりました。

チーム・オレンジの学生は、12 月 18 日に開催する「起震車・非常食の体験」などの学生の防災啓発につながる企画を今後も実施していきます。

主催：総務部庶務課

協力：一般社団法人防災教育普及協会

２．参加者数

５４名

３．背景・目的

・学生自ら災害救援の知識、技術を広める。

・応急救命についての意識の向上をはかる。

・教職員にボランティアセンター学生スタッフの活動への理解を深めてもらう。



実演の様子1



実技指導の様子1



実技指導の様子２



実技指導の様子３



実演の様子２



実技指導の様子４

34. 冬のボランティアＷＥＥＫ・交流会

日　時：【展　示】2015 年 12 月 14 日（月）～18 日（金）　終日
【交流会】2015 年 12 月 16 日（水）　13：30-15：00

場　所：【展　示】外濠校舎 1 階 メディアラウンジ
【交流会】外濠校舎 5 階 523～526

概　要：



１．内容

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）による企画。メディアラウンジでは、一般学生にボランティアに興味を持ってもらうため、各ボランティアサークルの１年間の活動報告を展示しました。

また、交流会は VSP が主催し、キャンパスエコロジーフォーラム、わたがし、児童文化研究会、ＩＶＵＳＡ、チーム・オレンジ、ＶＳＰの６団体から約 20 名が参加しました。

交流会は、自分の趣味や特技を他者に伝える自己紹介ゲームからはじまり、ジェスチャーゲーム、各団体の紹介を 5 分程度実施しました。日ごろあまり交流がない各サークルの枠を越えて、楽しく交流する学生の姿が多く見受けられ、各団体についての理解も深まったようです。VSP では、同時期行っている「古着回収ボランティア」の回収 BOX の展示やこれからのプログラムの告知掲示なども行いました。

今後も VSP ではボランティアサークルを支援し､学生のボランティアを推進していく活動も行っていきます。

２．参加者数

交流会：２０名

３．企画学生の感想

今回各サークルの方に連絡を取ったり、交流会の進行をするなど、初めて担当したため、たくさん学ぶことがありました。自分が連絡を途中で滞らせてしまったりして他のサークルの方にご迷惑をかけてしまったので、伝達事項は何事も的確に迅速にすることが大事だと感じました。また交流会当日は、予定通りの段取りではなかったものの、参加者の方たちがゲームを楽しんでくれたり、場を盛り上げてくれ交流を深めることが出来ました。

始まる前は緊張して気持ちが後ろ向きだった自分も、たくさん笑って楽しむことができました。そして今回昨年よりも多くの団体に参加していただけて、自分も他の団体の活動を知ることができたし、その他の活動でも長く交流できたら嬉しいです。交流会を終えて、今後も活動をさらに頑張っていこうという気持ちになれました。

４．背景・目的

・学内の各ボランティアサークルの交流、情報交換、サークル同志の理解促進。
・一般学生も含めボランティアに対する意識の向上。



メディアラウンジの展示



古着回収 BOX も同時に設置



自己紹介ゲームの様子



ジェスチャーゲームの様子



活動報告の様子１



活動報告の様子２

35. ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）がコーディネートする地域貢献ボランティア ～ 市谷小こどもひろば編 ～

日　時：2015 年　12 月　14 日（月）

場　所：千代田区立市谷小 こどもひろば

概　要：

１．内容：

ボランティアセンター学生スタッフ（ＶＳＰ）が、本学の地域貢献を推進するために、新宿区社会福祉協議会と連携し企画した子供向けボランティアプロジェクト。

ボランティアセンター学生スタッフ（ＶＳＰ）主催で、12 月 14 日（月）、「ボランティアセンター学生スタッフ（ＶＳＰ）がコーディネートする地域貢献ボランティア～市谷小子どもひろば編～」を実施し、9 名の本学の学生が、市谷小子どもひろばに来室した 25 名の子供たちと、バルーンアート、ベーゴマやけん玉、追いかけっこ、マジックなどの遊びを行いました。

本プログラムは、ボランティアセンター学生スタッフ（ＶＳＰ）が、本学の地域貢献を推進するために、新宿区社会福祉協議会と企画し、2015 年 6 月 29 日（火）にも同様に実施しています。今回は、ボランティアサークルのＩＶＵＳＡと協力して行いました。

当日は、ＩＶＵＳＡはバルーンアート、ベーゴマやけん玉などの昔遊びを披露し、VSP はマジック等を披露しました。その後、校庭にでて、追いかけっこや、ボールで遊びました。　子供たちは、夢中になって参加しており、満足度の高いプログラムだったようです。また、本プログラムに参加した学生たちからは、「小学生と大学生との交流を持つことは中々できることではなく、楽しかった。」などの意見もあり、地域貢献することの喜びと、手ごたえを感じていたようでした。

ボランティアセンター学生スタッフ（ＶＳＰ）では、本学学生に活躍の場を提供するため、地域貢献の重要性に気づいてもらうために今後もこのような企画していきます。

協力：市谷小子どもひろば、新宿区社会福祉協議会、ＩＶＵＳＡ

２．参加者数

３４名

３．背景・目的

・学内の他チームと協力しながらのボランティア活動の実現。
・学童育のボランティアを通じ地域に貢献する。



けん玉



マジック①



マジック②



マジック③



ボール遊び



バルーンアート

36. 起震車・非常食体験

～法政大学で地震を疑似体験してみませんか～

日　時：2015 年 12 月 18 日

場　所：富士見坂校舎 3 階　F308 教室

概　要：

１．内容

12 月 18 日（金）、市ヶ谷キャンパス富士見坂庭園にて、「起震車・非常　食の体験」をデザイン工学部大島研究室の学生と協力して実施しました。

チーム・オレンジは、東北被災地支援、防災啓発についての様々な企画を実施しているボラティアセンター所属の学生団体です。

本企画は、防災・減災の啓発のため、富士見坂庭園に千代田区から起震車を派遣していただき、地震の揺れを疑似体験した後に、ドライカレーや山菜おこわ、ソフトパンなどのチーム・オレンジがセレクトした非常食を試食するイベントでした。

また、デザイン工学部の大島研究室の学生と協力して食器棚に掛けて扉が開くのを防ぐストッパーＯＴＴＯ（オットー）の展示を行いました。参加した学生にチーム・オレンジの学生が説明しました。



協力：デザイン工学部大島研究室

２．参加者数

５２名

３．企画・参加した学生の感想

今回、チーム・オレンジは起震車・非常食体験を行いました。参加していただいた皆様には、地震の揺れを体験、最新の非常食を試食していただくことで「防災」というものを身近に感じていただけたのではないかなと思っています。また、今回はデザイン工学部大島研究室の学生が設計した防災グッズ「ＯＴＴＯ」の展示をさせていただき、他団体と協力して企画ができたことをうれしく思っています。

今後も、「学生のための防災活動」を基本理念として、企画を行っていきたいと思っています。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科　２年　岡田　卓朗

起震車・非常食体験のイベントに私たちの製品を展示させて頂き、実際に商品に触れている方を見ることが出来て、とても嬉しく思っております。特別なことだと考えずに、普段からこのようなイベントに参加したり、防災の商品に触れて防犯意識を持っておくことは、非常に大切なことだと思います。改めて普段の心がけの大切さに気づくことができました。

法政大学デザイン工学部システムデザイン学科　４年　大澤　香織

４．背景・目的

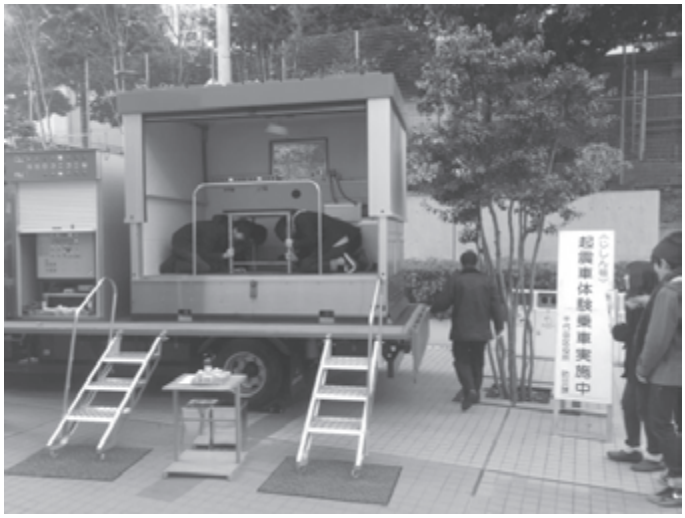
・災害に対する実体験から得る知識を身につける。
・非常食などの試食などを通し、緊急時への対応を心がける



集合写真１



集合写真２



起震車体験の様子



非常食体験の様子



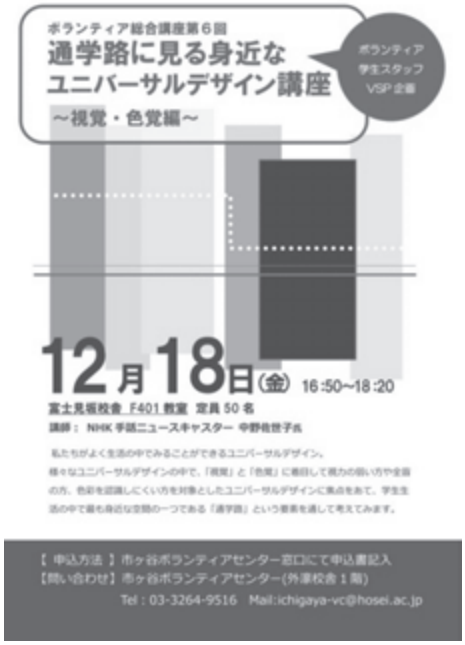
起震車体験の様子



ＯＴＴＯ（オットー）の展示の様子

37. ボランティア総合講座第６回
通学路に見るユニバーサルデザイン講座

日　時：2015 年 12 月 18 日（金）
場　所：富士見坂校舎 F401 教室
概　要：
講師　ＮＨＫ手話ニュースキャスター　中野 佐世子氏



１．内容

ユニバーサルデザインとは、老若男女や障がいの有無などの差異に関係なく使いやすいことをコンセプトとしたデザインです。

通学路など学生にとって身近な空間にあるユニバーサルデザインについて、ＮＨＫ手話ニュースキャスターをされている中野佐世子氏をお招きして講演していただきました。今回は、『視覚』と『色覚』に着目し視力の弱い方や全盲の方、色彩を認識しにくい方を対象としたユニバーサル」デザインに焦点をあて、学生生活の中で最も身近な空間の一つである「通学路」という要素を通してお話していただきました。

普段、日常生活の中で目にしているということもあって、参加した学生は中野先生のお話に引き込まれているようでした。また講演後には、多くの方々が中野先生に質問しており、ユニバーサルデザインに対する興味が芽生えたようで、有意義な講演となりました。

また今回のプログラムは、ボラティアセンター学生スタッフ（ＶＳＰ）が企画しました。講師の方への連絡や講演内容に関する打合せなどを行うことによって、プログラムの一連の流れを学べました。

ボランティアセンター学生スタッフ（ＶＳＰ）阿由葉　史弥（法学部・法律学科１年）

２．参加者数

１３名

３．参加した学生の感想

色覚特性日本人の男性の割合が 20 人に 1 人と聞いて驚きました。私の周りに色覚特性の人は聞いたことがありません。はたしてどこにいるのでしょうか。また私のアルバイト先も補助犬のマークがあるが、補助犬を連れてこられた方はいません。数値をして出ているように、私が見かけないだけで多くの視覚障がい者がいると思います。講義中にもあった心のユニバーサルデザインが足りないために、外に出られない方がいるのであれば、それはこちらが間違っているのでしょう。私は福祉部に通っているので、世の中にはどのような人がいるのか、どのような障がいを持っている人がいるのかをもっと知りたいと思いました。

本講義で一番印象に残った言葉は老化にともなう不自由です。生きていれば必ず老いて、たとえ現在健常者であっても多くの人が障がい者になると思います。私は長生きがしたいのです。そのために、自分が生きやすい世の中をつくりたいたいためにユニバーサルデザインに興味があります。まだまだ知らないことがたくさんあります。多くの事を学び、障がい者のためにも自分のためにも住みやすい世界をつくりたいです。ありがとうございました。

現代福祉学部　福祉コミュニティ学科　　２年

点字ブロックの点々間隔、地下鉄のマーク、手帳の色など、普段目にしているものの中に実は深い理由があることを知った。通常の生活をしている私にとってはその暮らしが当たり前だという意識が生まれてしまいがちだが、そうではない人たちのことを考えたデザインがいかに大切かが分かったので、今回の講座内容以外のことも自分なりに調べて、どんなことに気をつけたら「みんなが快適な暮らし」に近づけるのか考えてみたい。

また、目が見えない人でも写真を楽しんだり、美術を楽しんだりできることに驚いた。目の見えない人に遠慮するばかりでなく、そういうことを聞いてもいいんだ、と視野が広がった気分だった。

文学部　史学科　3年

私は個人研究で「視覚障がい者と避難」について調べています。
この前、「視覚障害者が街を歩くとき」という本を読み、白杖の使い方、ガイドヘルプの仕方、クロックポジションなどは知っていました。また「色のユニバーサルデザイン」という本で、色弱者の方々の見え方や目のしくみについても学びました。それでも今回、エスカレーターを使えたり、色の仕事ができることも知り、この講義を受けて本当によかったです。

また、最寄駅で階段を白杖で利用して歩行されている方の後を静かについていってみました。白杖利用と伝い歩きを上手く使い、「目が見えてるのではないか」と思ってしまいました！

また、部活の練習で多摩川の駅を利用しているのですが、そこで車掌さんが肘をつかませてガイドしているのを見て、こういう人が増えたらいいなと思いました。私も次は声をかけてみます！！

人間環境学部　人間環境学科　2年

4. 背景・目的

・学生が自ら企画・調整するボランティア講座。
・ボランティアについての意識・知識を高める。
・普段の生活の中でのボランティアについて考える。



講座全体風景



白杖を使っての講義

38. アカデミー合唱団による地域貢献ボランティア ～老人ホームでの合唱ボランティア

日　時：2015 年 12 月 20 日（日）

場　所：新宿区西落合　グランダ哲学堂公園

概　要：

１．内容

12 月 20 日（日）アカデミー合唱団が、新宿区社会福祉協議会からのボランティアイベントとして有料老人ホームグランダ哲学堂公園でのクリスマスコンサートで演奏をしました。

アカデミー合唱団は、1962 年に発足された 100 名ほどが所属している混声合唱団です。　クリスマスコンサートは、施設のダイニングスペースで行われ、１４名の学生が参加しました。

「法政大学校歌」をはじめ、「きよしこの夜」や「もろびとこぞりて」などクリスマスにちなんだ曲や「見上げてごらん夜の星を」といった名曲まで、誰もが知っている曲をアカペラで合唱しました。

20 名～30 名もの観客の中には、演奏に合わせ知っている曲を一緒に口ずさんだりされている方もいました。「力強い歌声が晴らしかった」「男女混合の声が美しかった」などと感想もいただき、学生も達成感を味わえたようでした。

最後に思いがけないアンコールにも即興で応えることができ、大変盛りあがりました。

アカデミー合唱団の学生からは、「ボランティアで演奏するのは初めてだったので不安もありましたが、お客さんと一体になり楽しめ、またスケジュールが合えば演奏してもいいと思っています。」という感想もありました。

市ヶ谷ボランティアセンターでは、外部サークルの学生へのボランティアの紹介なども行っていきます。

２．参加者数

４３名

３．背景・目的

・地域貢献ボランティアに関する学生の意識の向上。

・サークル活動の発表の場。

・他サークルの学生ボランティアへの援助。





39. ボランティア総合講座第７回 ディスカッションから学ぶNPOへの就職

～現役NPO職員に聞く実体験～

日　時：2016年1月14日（木）
場　所：外濠校舎5階526会議室
概　要：

１．講師　NPOサポートセンター
協働ステーション中央責任者　杉原志保氏
コンサルタント　笠原孝弘氏
認定特定非営利活動法人　山友会　理事　油井和徳氏



２．内容

ボランティアセンター主催で1月14日（木）にボランティア総合講座第7回、「ディスカッショから学ぶNPOへの就職～現役NPO職員に聞く実体験～」を実施し、9名が参加しました。NPOに関心を持っていても、就職に関する情報は手に入れにくいという現状があるため、VSP（市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ）が本プログラムを企画しました。

運営を経て、ＮＰＯサポートセンターの理事を務める杉原志保氏、新卒から同センターに入職し情熱を持って活動している笠原孝弘氏、生活困難者の支援をする認定非営利法人山友会の代表を務める油井和徳氏ら現役職員の方々の豊富な実体験をディスカッション形式で語っていただきました。

非営利団体だからこその出来る活動の必要性や、活動の上での課題、関わった人々の笑顔が励みになるなど、ＮＰＯ職員に就職した方々だからこそ話せる貴重な体験談を参加者は聞くことができ、有意義なプログラムとなりました。

また今回のプログラムは、ボラティアセンター学生スタッフ（VSP）が企画しました。講師の方々への連絡や、プログラム概要の作成などを行うことによって、企画の一連の流れを学ぶことができました。

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）平野 友惇（経営学部・経営学科1年）

２．参加人数

９名

３．参加した学生の感想

NPOについての理解が深まりました。非営利組織≠無報酬というのはとても衝撃でした。

（キャリアデザイン学部　キャリアデザイン学科1年）

理念、理想だけでなくなかなかシビアな視点が必要だと思った。
民間と共通することが多いと思った。（仕事の進め方、求められる人物像）

（法学部　政治学科　4年）

＝＝＝＝

NPO 団体に対しての意識がかなり変わった。

個人としてのスキルが必須であり、大きな覚悟があって取り組まなければならない。

やりがいは大きいのかなと思います。

（デザイン工学部　都市環境デザイン工学科　4 年

4．背景・目的

・学生が自ら企画・調整するボランティア講座。

・ボランティアについての意識・知識を高める。

・社会への適応能力を身につける。









40. 手話講座（入門編）

日　時：【手話狂言講座】2016 年 1 月 19 日（火）　【手話狂言鑑賞教室】2016 年 1 月 30 日（土）

場　所：【手話狂言講座】外濠校舎 5 階 526 会議室　【手話狂言鑑賞教室】国立能楽堂

概　要：

１．講師

【手話狂言講座】日本ろう者劇団　　五十嵐　由美子　氏

NHK 手話ニュースキャスター　　中野　佐世子　氏（協力）

【手話狂言鑑賞教室】黒柳　徹子 氏（お話）、井崎哲也、江副悟史、小泉文子、

中江央、五十嵐由美子、今井彰人（敬称略）他

２．内容

市ヶ谷ボランティアセンター主催で、1 月 30 日（土）、「手話狂言・初春の会鑑賞教室」を実施し、15 名の学生が参加しました。また本プログラムの事前研修として 1 月 19 日に「手話狂言講座」を実施し 12 名の学生が参加しました。

手話狂言・初春の会は、女優である黒柳徹子さんが、著書「窓ぎわのトットちゃん」の印税を寄付して設立した社会福祉法人が主催しているもので、聴覚に障がいのある俳優たちが、手話を使って表情豊かに狂言を演じます。

事前研修として実施した手話狂言講座では、手話狂言・初春の会に出演する日本ろう者劇団の五十嵐由美子氏と、NHK 手話ニュースキャスター中野佐世子氏を講師としてお招きし、手話と狂言の基礎知識や当日の演目の解説、通常の狂言と手話狂言の違いついてお話しいただきました。

1 月 30 日（土）は、能楽堂に集合し、手話狂言・初春の会を鑑賞しました。
黒柳徹子さんから日本ろう者劇団の設立の経緯などを 30 分程度、お話しいただいた後に、末広かり（すえひろかり）、文山賊（ふみやまだち）、骨皮（ほねかわ）の演目を鑑賞しました。
参加した学生からは「日本ろう者劇団の方々は耳が聞こえないのに、三宅右矩さんの声にシンクロして演じている姿に感動した。」などの意見があり、手話の素晴らしさに改めて気づいたようです。
今後も市ヶ谷ボランティアセンターでは、障がい支援のきっかけとなるプログラムを実施していきます

３．参加者数

１５名

４．参加者の感想（アンケートより抜粋）

・事前講座にて、手話狂言と通常の狂言の違いに、表情の有無が大きいと習いました。表情のついた能狂言とは、どんなものになるのか興味が深まった事を覚えています。と同時に、外国人が着物を着るような、日本の伝統を踏まえてはいるけれど本質まったく別物になってしまうのでは、という疑問も持ちました。
今日、実際に手話狂言を観て、やはりろう者の方々が狂言をやっていると強く感ぜられました。表情が付き、手話によって動きが格段に増えた手話狂言にはろう者独特のにぎやかさがありました。
それが良いか悪いかは問題ではないかと思いますが、手話狂言の目指すところによっては、向き合わなければならない事もあるかと思います。これから成長していく手話狂言を今日観られて幸いでした。1 人の健聴者として応援しています。

・狂言は初めて観させていただきました。とても迫力があり、笑いもありとても良い経験をさせていただきました。
手話はあいさつ程度できますが、もっとできるようになりたいと思いました。

・手話と狂言はすごく合っていて、言葉と手の動作によるコミュニケーションのツールが２つ使われていることによって、より客に表現が伝わりました。
今回この講座を受けて勉強もでき、手話についてもっと考える良い機会になりました。

・手話狂言講座を受講せず今回の鑑賞教室に参加しました。講座を受講していれば、もっと理解が深まったかなと思い少し残念に思いましたが、言葉がわかりづらい部分を手話（特に表象的 Symbolic なもの）がフォローしていて、手話を学んだことのない自分でも手話に助けられながら観ていることに気がつきました。英語の翻訳について学んでいます。
手話の翻訳についても考えるきっかけになりました。

５．背景・目的

・手話への理解を深める。
・伝統芸能への理解を深める。









41. チーム・オレンジ企画
岩手・宮城　東北被災地スタディツアー

日　時：2016 年 3 月 1 日（火）～3 月 4 日（金）
場　所：宮古市、陸前高田市、気仙沼市
概　要：

１．内容

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジが電通育英会助成事業である岩手・宮城被災地スタディーツアーを 3 月 1 日（火）～4 日（金）の期間で実施し、31 名の学生が参加しました。スタディーツアーという形態で参加へのハードルを下げ、まだ被災地を訪れたことのない学生に足を運んでもらうきっかけを作ること、実際に被災地にいった学生が周囲の人に体験を語り、少しでも多くの人に被災地のことを考えてもらうことを目的として本ツアーを企画しています。

ツアーは、チーム・オレンジの学生が当日の運営を含めて全て自分たちで考案し、参加学生のために入念に準備して実施しました。またツアーの実施前（2 月 26 日）には事前説明会を実施し、ツアーの実施後（3 月 8 日）には報告会も実施しました。

1 日目は、釜石駅に夜行バスで到着後宮古市に移動し、宮古観光文化交流協会が主催する「学ぶ防災ガイド」に参加しました。東日本大震災の影響で甚大な被害が出てしまった田老地区の災禍の記録を防潮堤に上って教えて頂き、その後事務所に移動し、田老観光ホテルの松本社長が震災当日に撮影した津波の映像を見ながら、津波の恐ろしさについてお話しして頂きました。浄土ヶ浜にて昼食をとった後、有限会社丸徳に移動して竹輪作り体験を行いました。有限会社丸徳は、東日本大震災の影響で一度は再建を諦めましたが、店の看板を守りたい、伝統の味を絶やしてはいけないと平成２６年の８月に操業を再開しました。参加学生は震災の復興を感じながら、竹輪作りを体験することができました。

2 日目は、陸前高田市に移動し、高田松原や奇跡の一本松を見学後、気仙沼市に移動し、リアスアーク美術館にて、震災後に回収された様々な生活用品等の展示（解説文付）を見学しました。その後再び陸前高田市に戻り２時間程度のボランティア（ネギ畑の整備）を実施し、現地の被災者の方から復興の状況についてお話し頂きました。

3 日目は、陸前高田市で被災者の方との交流会を実施しました。高田一中仮設、中田公営住宅に移動し、まずチーム・オレンジの学生が作成した「チーオレ新聞」を用いて法政大学が被災地で実施してきたボランティア活動及び東京で実施している被災地支援について報告し、交流を深めました。高田一中仮設では、被災者の方から踊りを教えていただいたり、法政のＯＢがいたことから法政大学校歌を全員で合唱するなどしたり、有意義な時間を過ごせ、学生たちは被災地の現状について改めて学ぶことができました。その後唐桑半島に移動し、ビジターセンターのガイドのもと、
東日本大震災の津波によって、海中から浜に打ち上げられた大きな「津波石」を見学するトレッキングツアーに参加しました。

２．参加者の感想

○被災地に足を運び、生のお話を聞き、普段テレビ等で震災関連の番組を観ても得られないようなことをたくさん吸収できるので、とても良い企画だなと思いました。今回得たことをこれからの活動に活かしたいです。

特に震災を風化させないこと。防災・減災の意識を高めることの重要性に改めて気付かされました。学生間で防災について啓発することは、なかなか難しいように感じるのでこれからの活動に工夫を加えたいなと思いました。

○交流会で私が話した方は、自ら積極的に震災当時のことを話してくださり、今までしらなかった事実なども知ることができてとても有意義だった。また私の地元や家族の話をすると喜んでくださり、嬉しかった。初めは緊張して上手くお話しできるか不安だったけれど、盛り上がることが出来てよかった。

○今回のツアーを通して震災について知らなかったたくさんのことを知れました。震災があってから実際に足を運んでみたいとは思いつつもなかなか機会がなかったので、今回は貴重な体験が出来てよかったです。
また、地元の人たちが優しく迎えてくれたこともとても心に残りました。今回のツアーで得たことを東京に戻ってから、何らかの形で活かしていけるように自発的に考えていこうと思います。

４．背景・目的

・今まで行った経験のない一般学生の被災地での視察。
・現地での体験を今後のボランティア活動などに生かす。
・学生の自主性を促す。（企画などに）









42．3．11東日本大震災復興募金活動

日　時：2016 年 3 月 11 日（金）

場　所：JR 市ヶ谷駅周辺、JR 飯田橋駅周辺

概　要：

１．内容

東日本震災復興募金活動は、今回で 5 回目となります。昨年に引き続き法政大学の学生だけでなく、付属高校（法政大学中学高等学校、法政大学女子高等学校）の生徒と共に行いました。

活動は、大学生 10 名・中高 5 名・女子高 13 名の総勢 28 名で行いました。
寒い雨の降る天候の中、飯田橋駅前 2 か所と市ヶ谷駅前 2 か所の計 4 か所で募金活動を実施しました。募金金額は, 合計で 377, 562 円となりました。こちらを 3 等分（125, 854 円）し、3 月 14 日に岩手県・宮城県・福島県が設置する復興支援義援金に全額寄付をいたしました。

２．参加者数

２８名

３．参加者の感想（アンケートより抜粋）

〇学生の感想

・4 年間しめくくりとなりました。入学した年は震災から 1 年後で、生々しい活動もありました。5 年が経って活動内容もあかるく楽しいものになってきましたが、その裏で深刻化している問題もあります。復興の光と影の差が大きく広くなっていく中、このような風化を防ぐ取組みに携われることができて良かったです。

（大学 4 年）

・考えていたよりも多くの方々が足を止めてくださり、驚くと共に感謝の気持ちでいっぱいになりました。特徴としては、ご年配の方が募金をしてくださる事が多い印象を持ちました。またスーツを着た就活生の先輩方も多くご協力していただきました。
しかし、同年代の方からのご協力を得ることは難しく感じました。金額に関わらず被災地を思ってくださる姿はとてもうれしかったです。
節目にこのような活動を行うことは義援金という形での支援と「被災地を忘れない」という思いを伝え風化を防ぐための支援になると思いました。
また 14：46 分にこの活動に参加することができ、感慨深いものがありました。（大学 1 年）

・毎年募金に参加しました。それぞれ比較していくと、やはり大学 1 年生の時の募金活動が多くのひとに協力してもらっていたと思います。
一般的に、大災害が起こってその災害についての意識があるのは、被災者以外の人は 3 年、被災者は 10 年と言われています。大学 1 年生の時が東日本大震災が起こってからちょうど 3 年でした。
呼びかけを行うと、募金に協力してくれる人もしてくれない人もこちらに注目してくれました。ですが 4 年目の 2 年生の時は 1 年生の時と比べられないくらい意識を向けている人が少なかったです。
そして今年震災から 5 年が経ちました。昨年と同じ場所に立ち、やはり昨年より意識をむけてくれる人が少なくなったというのが正直な印象です。
募金活動を行う事で思い出してもらえればいいのですが、活動がなくなったら、忘れてしまう人がほとんどだと思

いました。活動は続けていくべきではないかと思いました。（大学３年）

４．背景・目的

・経年変化する復興支援に対するボランティアへの再認識。
・被災地支援ボランティアへの理解。
・法政大付属高との連携。



市ヶ谷駅周辺①



市ヶ谷駅周辺②



飯田橋周辺①



飯田橋周辺②



振り返り・報告会の様子



集合写真

43. 飯田橋グランブルーム まちのわ「桜まつり」

日　時：2016 年 3 月 25 日（金）・3 月 26 日（土）　土曜日のみ参加

場　所：飯田橋グランブルーム

概　要：



1. 内容

飯田橋で生活する、働く、学ぶ、様々な人々が飯田橋グラン・ブルームを舞台に展開されるイベントを通じ多目的に交流できる場づくりを目的に例年開催されており、今回は和をテーマにした「見て・感じて・楽しくふれあえる」イベントとなりました。

市ヶ谷ボランティアセンターは、登録団体と連携し本イベントを盛り上げ、８６２名（法政大学のブースの参加者数）の方々に参加していただきました。

○各団体が実施した内容は以下の通り

１．児童文化研究会＆東京・春・音楽祭＆株式会社 KADOKAWA

・東京春祭 for kids

株式会社 KADOKAWA が出版している「はなかっぱ」の絵本（巨大絵本）の読み語りを児童文化研究会が行いその読み語りに合わせて、東京・春・音楽祭の演奏者が音楽を奏でました。

２．茶道研究会

・まちのわ茶会

茶道研究会がお茶を点て、お菓子とお茶を来場者にふるまいました。また、お茶の作法についても教えることができました。

３．ＧＲＡＮＤＳ

・チアリーディングパフォーマンス

まちのわ桜まつりにむけてＧＲＡＮＤＳがオリジナルプログラムを考案し、チアリーディングパフォーマンスを披露しました。300 名以上の来場者に参加していただけました。

４．ＩＶＵＳＡ

・キッズ昔あそび体験

ベーゴマやけん玉、おはじきなどの昔ながらの遊びを体験できるコナーを設置し、来場した子どもたちと一緒に遊びました。

５．三曲会

・和楽器コンサート

「SAKURA」「風のモザイク」を演奏し、和楽器の素晴らしさ、春の訪れを来場者にとどけることができました。

６．児童文化研究会

・絵本読み聞かせコーナー

手作りの大きなカブの絵本を子どもたちに読み聞かせしました。

7．Ⅱ部美術研究会

・プラバンでキーホルダーつくろう

子どもたちとプラスティックの板に字や絵を描いて、オーブントースターで焼き、オリジナルキーホルダーを作りました。

8．落語研究会

・サクラ寄席

野外広場にて、落語研究会が落語と玉すだれを披露し、会場が笑に包まれました。

本イベントを通して、法政大学学生の取り組みついての認知度向上にも寄与し、キャンパス周辺で生活する人々と本学の学生が交流することが出来ました。ボランティアセンターでこのような取り組みを今後も積極的に行っていきます。

2．参加者数

８６２名（来場者含む）

3．背景・目的

・地域貢献ボランティア。

・各サークルの特徴を生かした活動発表の場。









２０１5年度　学生スタッフ（ＶＳＰ）活動カレンダー

	月日	曜日	ミーティング・イベント・訪問	ミーティング・イベント・訪問内容
4月	4月10日	金	第1回ミーティング	エコキャップ回収予定、春のボランティアWEEK、富士山外来植物駆除ボラ、キャンパス周辺清掃について。
	4月13～17日	月～金	春のボランティアＷＥＥＫ	ボランティアサークル合同新歓イベント。13日～17日活動展示、説明会も実施。
	4月24日	金	第2回ミーティング	ハンガリー剣道ナショナルチームと散歩する文化交流ボラ、第1回ボランティア総合講座、キャンパス周辺清掃、春のボランティアWEEKふりかえり。
5月	5月1日	金	第3回ミーティング	ハンガリー剣道ナショナルチームと散歩する文化交流ボラ、通信病院ボラについて、エコキャップ回収、ボランティア総合講座、富士山外来植物駆除ボラについて。
	5月8日	金	第4回ミーティング	通信病院ボラ打ち合わせについて、ボランティア総合講座、富士山外来植物駆除ボラ、エコキャップ活動表彰について、新入生獲得策について。
	5月15日	金	第5回ミーティング	ハンガリーナショナルチームボラ事前打ち合わせ、通信病院ボラ打ち合わせ報告、ボランティア総合講座実施報告、富士山外来植物駆除ボラ打ち合わせ報告。
	5月17日	日	富士山外来植物駆除ボランティアツアー	市ヶ谷ボランティアセンター基幹プロジェクト。企画スタッフとして参加。
	5月20日	水	キャンパス周辺清掃ボランティア	定例活動。一般学生とともにボランティア活動の実践。
	5月21日	木	ハンガリー剣道ナショナルチームとキャンパス周辺を散歩する文化交流ボランティア事前研修会	ハンガリー出身の交換留学生によるハンガリー語講座編。
	5月22日	日	第6回ミーティング	キャンパス周辺清掃実施報告、富士山外来植物駆除実施報告、ボランティア総合講座について。
	5月25日	月	ハンガリー剣道ナショナルチームとキャンパス周辺を散歩する文化交流ボランティア～皇居散策編	ハンガリー剣道ナショナルチームと共に皇居の散策をする。英会話、ジェスチャーを交えながら皇居周辺の案内をする。
	5月26日	火	ハンガリー剣道ナショナルチームとキャンパス周辺を散歩する文化交流ボランティア～神楽坂ツアー編	ハンガリー剣道ナショナルチームと共に神楽坂散策をする。英会話、ジェスチャーを交え、日本文化に触れながら神楽坂の案内をする。
	5月29日	金	第7回ミーティング	ハンガリーナショナルチームボラ実施報告、富士山外来植物駆除実施報告、ピアネット七夕企画、新宿区立小学校ボランティア、エコキャップ回収、ボラ総合講座、夏ボラＷＥＥＫについて。
6月	6月5日	金	第8回ミーティング	ピア・ネット七夕企画、ボラ総合講座、新宿区立小学校ボランティア、エコキャップリサイクル工場ツアー、夏のボランティアウィーク、ピア・ネット合同研修会について。
	6月10日	水	キャンパス周辺清掃ボランティア	定例活動。一般学生とともにボランティア活動の実践。
	6月12日	金	第9回ミーティング	ボランティア総合講座、新宿区立市谷小学校ボランティア、サクラテラスまちのわイベント、VSP説明会、ピア・ネット合同研修会、キャンパス周辺清掃、ピア・ネット七夕企画、夏のボランティアWEEKについて。
	6月19日	金	第10回ミーティング	ボランティア総合講座、ピアネット合同研修会、新宿区立市谷小学校ボラ下見実施報告、エコキャップ回収日程、ピアネット七夕企画、ボランティア総合講座企画内容、夏ボラWEEKについて。
	6月20日	土	エコキャップリサイクル工場見学ツアー	学生スタッフ企画。毎月回収しているエコキャップが収集後どのようにリサイクルされていくのかを工場見学により学ぶ。
	6月29日	月	ボラセン学生スタッフ（VSP）がコーディネートする地域貢献ボランティア～市谷小子どもひろば編～	新宿区市谷小学校での放課後子どもひろばでの活動。大学の地域貢献を推進するため、新宿区社会福祉協議会と連携し企画。
7月	7月1日～7月7日	水～火	七夕フェスタ	七夕の装飾をした通路で学生向けにボランティアの紹介やボランティア団体への勧誘をする。
	7月2日	火	エコキャップ回収ボランティア	学内のペットボトルキャップの回収。
	7月3日	月	第11回ミーティング	市谷小ボランティア報告、第3回ボランティア総合講座、サクラテラス「まちのわ」イベント、ピアネット合同研修会、学祭について、キャンパス周辺清掃、エコキャップ回収について。
	7月6日～10日	月～金	夏のボランティアWEEK	ボランティア学生団体紹介イベント。9日説明会、6日～10日展示。エコキャップ顔出しパネルも展示。
	7月7日	火	キャンパス周辺清掃ボランティア	定例活動。一般学生とともにボランティア活動の実践。
	7月8日	水	第3回ボランティア総合講座「盲導犬とのふれあいから学ぶ盲導犬の一生ついて」	盲導犬をはじめとする補助犬についての法律や、一生を学び、盲導犬に対する理解を深めることを目的とした講座。
	8月3日	月	ピアネット合同研修会	キャッチコピーを考える、広告業界で経験がある講師より学ぶ。
	8月4日	火	第12回ミーティング	学祭について：おでん販売、ビラ作成。
9月	9月1日	火	第13回ミーティング	学祭について。
	9月5日	土	サクラテラス「まちのわ」防災Festa	飯田橋グランブルーム管理組合主催。飯田橋で生活する、働く、学ぶ人々の交流の場として例年開催されている、今回は「防災」がテーマ。理工学部稲生ロボット研究室、キャリアデザイン荒川ゼミ、チーオレ、キャンエコ、VSP、IVUSAが参加。
	9月7日	月	夕張まちづくりボランティア事前研修会	夕張まちづくりボランティアの詳細説明、確認など
	9月10日～12日	木～土	夕張まちづくりボランティア	北海道夕張市での北炭夕張炭鉱千歳鉱坑口の雑草除去作業、「あーりさだ」の障害者イベントお手伝い、市関係者とのミーティングなど。
	9月16日	水	エコキャップ回収ボランティア	学内のペットボトルキャップの回収。
	9月18日	金	第14回ミーティング	第4回ボランティア総合講座、富士山清掃、エコキャップ回収、ピアネット合同研修会参加報告、サクラテラス「まちのわ」イベント報告、夕張まちづくりボランティア報告、学祭関連、今後のボランティア総合講座等。
	9月25日	金	第15回ミーティング	富士山清掃ボランティア、富士見わんぱくひろばボランティア、キャンパス周辺清掃、エコキャップ回収、古着の回収ボランティア、学祭について、ボランティア総合講座。
	9月29日	火	第16回ミーティング	学祭（スケジュール、備品、ビラについて）。
	9月30日	水	キャンパス周辺清掃ボランティア	定例活動。一般学生とともにボランティア活動の実践。
10月	10月2日	金	第17回ミーティング	富士山清掃ボランティア、富士見わんぱくひろばボランティア、ハロウィン清掃、エコキャップ回収、学祭、古着の回収ボランティア、冬のボランティアWEEK、今後の予定。
	10月7日	水	エコキャップ回収ボランティア	学内のペットボトルキャップの回収。
	10月9日	金	第18回ミーティング	富士山清掃、富士見わんぱく広場、ハロウィン清掃日程、エコキャップ回収、キャンパス周辺清掃日程、学祭関連、冬ボラWEEK、古着の回収ボランティア。
	10月13日	火	キャンパス周辺清掃ボランティア	定例活動。一般学生とともにボランティア活動の実践。
	10月16日	金	第19回ミーティング	学祭関係、冬のボランティアウィーク、ボランティア総合講座、古着回収ボランティア。
	10月23日	金	第20回ミーティング	ボランティア総合講座4回：田辺凌鶴、富士山清掃ボラ、富士見わんぱくボラ、学祭関連、冬ボラWEEK、ボランティア総合講座5回について、古着の回収ボランティア。

	10月24日	土	富士見わんぱくひろば　わんぱくこどもまつり	千代田区富士見わんぱくひろばで実施された「わんぱくこどもまつり2015」への協力。
	10月24日	土	ボランティアセンター学生スタッフVSPが企画する地域貢献ボランティア	VSPが主動になり、千代田区富士見わんぱくひろばで実施された「わんぱくこどもまつり2015」へのボランティアの運営・企画を行う。マジシャンズクラブ、児童文化研究会、VSP、一般応募した学生との調整。
	10月25日	日	富士山清掃ボランティアツアー	富士山麓周辺の清掃活動。
	10月26日	月	ボランティア総合講座第4回講談師　田村凌鶴が語る「夕張市長　鈴木直道」	真打講談師　田村　凌鶴さんの講談。夕張市、夕張市長について語る。
11月	11月6日	金	第21回ミーティング	ボランティア総合講座第5回（古着回収）、ファシリテーション入門講座、DIALOG IN THE DARK、学祭反省、冬のボランティアWEEK、ボランティア総合講、古着の回収ボランティアについて。
	11月13日	金	第22回ミーティング	ボランティア総合講座第5回（古着回収）、ボランティア総合講座第6回（ユニバーサルデザイン講座）、冬のボランティアWEEK、ボランティア総合講座の企画について、NPO就労者と関心者の座談会。
	11月17日	火	エコキャップ回収ボランティア	学内のペットボトルキャップの回収。
	11月20日	金	第23回ミーティング	ボランティア総合講座第5回（古着回収）、ボランティア総合講座第6回（ユニバーサルデザイン講座）、NPO職員との座談会、「手話狂言・初春の会」鑑賞教室、ピアネット研修会、冬のボランティアＷＥＥＫ、市谷小学校子ども広場ボランティア。
	11月24日	火	キャンパス周辺清掃ボランティア	定例活動。一般学生とともにボランティア活動の実践。
	11月27日	金	第24回ミーティング	第5回ボランティア総合講座、第6回ボランティア総合講座、NPO職員との座談会、ピアネット研修会、冬ボラWEEK、市谷小子ども広場ボランティア。
12月	12月1日	火	ボランティア総合講座第5回　今、私たちに必要とされている国際協力～古着回収ボランティアでみる難民支援～	冬のボランティアＷＥＥＫの時に古着回収ＢＯＸを設置して回収を呼びかける。その事前説明（ユニクロの担当者が講義）。
	12月4日	金	第25回ミーティング	第5回ボランティア総合講座、第6回ボランティア総合講座、NPO職員との座談会、ピアネット研修会、冬ボラWEEK、市谷子ども広場ボランティア、各イベント宣伝方法、学祭の利益の使用方法など。
	12月11日	金	第26回ミーティング	第6回ボランティア総合講座：ユニバーサルデザイン（12/18）、第7回ボランティア総合講座：NPO職員との座談会（1/14）、古着回収ボランティア、市谷小ボランティア、冬ボラWEEK。
	12月14日	月	ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）がコーディネートする地域貢献ボランティア～市谷小こども広場編～	新宿区市谷小での小学生と遊ぶボランティア。
	12月14日～18日	月～金	おうちに余っている服どうしますか？（ユニクロとコラボした古着回収ボランティ	メディアラウンジに古着回収ＢＯＸを設置。古着の回収をして難民支援をするボランティア。
	12月17日	木	キャンパス周辺清掃ボランティア	定例活動。一般学生とともにボランティア活動の実践。
	12月18日	金	ボランティア総合講座第6回　通学路に見るユニバーサルデザイン講座	普段の生活の中でのユニバーサルデザインについて知識を深める。
	12月18日	金	第27回ミーティング	第6回ボランティア総合講座：ユニバーサルデザイン（12/18）、第7回ボランティア総合講座：NPO職員との座談会（1/15）、古着回収ボランティア実施報告、市谷小ボランティア反省、冬ボラWEEK反省、サクラテラスまちのわイベント。
	12月22日	火	エコキャップ回収ボランティア	学内のペットボトルキャップの回収。
1月	1月8日	金	第28回ミーティング	ボランティア総合講座第7回（NPO）、古着回収ボランティア、手話狂言・初春の会鑑賞教室、ボラセンパンフキャッチコピー、VSP代表について、第6回ボランティア総合講座報告、サクラテラスまちのわイベント、春ボラWEEK、新歓期間について。
	1月13日	水	キャンパス周辺清掃ボランティア	定例活動。一般学生とともにボランティア活動の実践。
	1月14日	木	ボランティア総合講座第7回　ディスカッションから学ぶＮＰＯへの就職	現役ＮＰＯ職員に聞く実体験。
	1月15日	金	第29回ミーティング	第7回ボランティア総合講座、古着回収ボランティア、ボラセンパンフレットキャッチコピー、入試補助員について、サクラテラスまちのわイベント、春ボラWEEK、新歓について、今後の予定。
	1月20日	水	エコキャップ回収ボランティア	学内のペットボトルキャップの回収。
2月	2月18日	土	第30回ミーティング	連絡事項：3.11募金活動、春ボラ、新歓期間について、新入生向け企画：エコキャップDEキャンパスツアー、キャンパス周辺清掃、ＭＴＧついて、今後の予定。
3月	3月14日	木	第31回ミーティング	連絡事項：ユニクロ報告会、春ボラ、新歓期間、新入生向け企画：エコキャップDEキャンパスツアー、キャンパス周辺清掃、ＭＴＧついて、今後の予定。

部分は、実際のイベントや講座等の日程（ミーティング以外）

【付記】

●2015年度は原則、金曜日の昼休みにミーティングを実施。

●ミーティングは原則、職員が同席した。

●毎月エコキャップ回収活動を実施（9月から）。

２０１５年度　チームオレンジ活動カレンダー

	月日	曜日	ミーティング・イベント・訪問	ミーティング・イベント・訪問内容
4月	4月9日	木	第１回（前期）放課後ミーティング	団体活動内容紹介、各プロジェクトの紹介、1年生自己紹介、プロジェクトごとの分科会。
	4月13～17日	月～金	春のボランティアWEEK	ボランティアサークル合同新歓イベント。13日～17日活動展示、説明会も実施。
	4月22日	水	第２回（前期）放課後ミーティング	会議、ミーティングスケジュール告知、各プロジェクトの情報共有、スタディツアー紹介、グループディスカッション。
5月	5月8日	金	第３回（前期）放課後ミーティング	活動報告、情報共有（物産展、ボランティア総合講座）、昼ＭＴＧについて、子供支援、ＩＴボラについて。
	5月12日	火	第１回昼ミーティング	防災班、ボランティア総合講座の紹介、新1年生への連絡等。
	5月18日	月	第４回（前期）放課後ミーティング	班ごとの活動を紹介、ポスターの原案作り、福島復興ツアーについて。
	5月19日	火	第２回昼ミーティング	スタディツアーについて、千代田の防災プロジェクト、ボランティア総合講座、物産展、学祭について。
	5月26日	火	第３回昼ミーティング	情報共有、BBQ、学祭班、今後の予定について。
6月	6月2日	火	第４回昼ミーティング	活動報告、情報共有（学食班、物産展、ボランティア総合講座、スタディツアー、子供支援）、学祭について、七夕企画について、ピアネット研修会について。
	6月9日	火	第５回昼ミーティング	各班進捗（学食班、スタディツアー班、物産展班、子供班）、七夕企画、サクラテラス、学祭、その他情報共有（さんさん広場、石巻ボランティア）
	6月9日	木	ボランティア総合講座第2回　被災地の「今」を知る～沿岸被災地後方支援	遠野山・里・暮しネットワーク　田村　隆雅氏の講座。被災地の現状把握と求められるボランティアについてなど。
	6月10日	水	第５回（前期）放課後ミーティング	防災班発表、勉強会発表（1班：福島の震災の影響と復興、5班：東日本大震災の被害状況からの統計調査など）、遠野ボランティアについて。
	6月14日	日	千代田防災プロジェクト	明治大学駿河台キャンパスにて3大学（専修大、明治大、法政大）、千代田社会福祉協議会合同の防災プロジェクト。交流を交えながら、避難用ツール作り、非常食の実食、クロスロードなど避難所などで実際に使われる状況などを想定したプログラムを実施。
	6月16日	火	第６回昼ミーティング	復興BARのお手伝い、スタディツアー班、物産展、子供支援、防災さんぽ、遠野ボランティア、ポスター担当、学祭、石巻ボランティア、七夕企画について。
	6月22日	月	第７回昼ミーティング	各班進捗（学食班、スタディツアー班、物産展班、子供班）。
	6月23日	火	第６回（前期）放課後ミーティング	サクラテラスまちのわイベント、勉強会（4班：東北支援について、3班：私たちにできる防災、2班：東北の観光と震災、さんさん夏祭り等。
	6月30日	火	第8回昼ミーティング	情報共有：南雲さんから　活動報告：学食班、防災班、スタツア、七夕企画、まちのわ、物産展　平井さんからさんさん広場の紹介、夏ボラWEEK
7月	7月1日～7月7日	水～火	七夕フェスタ	七夕の装飾をした通路で学生向けにボランティアの紹介やボランティア団体への勧誘をする。
	7月6日～10日	月～金	夏のボランティアWEEK	ボランティア学生団体紹介イベント。9日説明会、6日～10日展示。エコキャップ顔出しパネルも展示。
	7月7日	火	第７回（前期）放課後ミーティング	情報共有：防災散歩、復興バー、石巻ツアー　活動報告：スタツア、物産展　学祭について、前期振り返り等。
	7月14日・15日	火・水	東北物産展	岩手、宮城、福島の３県の商品を販売、売上を岩手、宮城、福島の義援金口座に寄付。
	7月21日	火	第９回昼ミーティング	ランチミーティングについて、活動報告：物産展、防災散歩、学祭、遠野、子供支援、まちのわ、スタツアについて。
	7月14日・15日	月・火	被災地の物産品を買おう！「東北物産展」	かもめの玉子、さるなしドリンク、大槌さしこ、ふかひれスープなどの東北物産の学生の企画で行う。
8月	8月21日	金	遠野・被災地自立支援ボランティア事前説明会	遠野ボランティアの詳細説明、確認。グループ顔合わせ。
	8月25日～8月29日	火～土	遠野・被災地自立支援ボランティア23次隊	チームオレンジの活動主軸、被災地支援ボランティア。
	8月27日～8月31日	木～月	遠野・被災地自立支援ボランティア24次隊	チームオレンジの活動主軸、被災地支援ボランティア。
	8月29日～9月2日	土～水	遠野・被災地自立支援ボランティア25次隊	チームオレンジの活動主軸、被災地支援ボランティア。
	8月31日～9月4日	月～金	遠野・被災地自立支援ボランティア26次隊	チームオレンジの活動主軸、被災地支援ボランティア。
9月	9月5日	土	サクラテラス「まちのわ」防災Festa	飯田橋グランブルーム管理組合主催。飯田橋で生活する、働く、学ぶ人々の交流の場として例年開催されている、今回は「防災」がテーマ。理工学部稲生ロボット研究室、キャリアデザイン荒川ゼミ、チーオレ、キャンエコ、VSP、IVUSAが参加。
	9月12日～13日	土・日	住友商事ユースチャレンジフォーラム中間発表	チームオレンジが住友商事倫助成対象団体としての活動報告をする。
	9月14日	月	夏休み会議	まちのわ防災フェスタ、遠野被災地自立支援ボランティア、次期代表、学祭について、東北物産展、千代田防災プロジェクト、今後についてなど。
	9月18日	金	遠野・被災地自立支援ボランティア報告会	遠野・被災地自立支援ボランティアの活動報告会。
	9月20日	日	法政フェア	法政フェアでの「東北物産販売」　物産展の売上は、岩手、宮城、福島の義援金口座に寄付。
	9月29日	火	第１回（後期）ランチミーティング	物産展、代表、副代表について、遠野報告会について。
１０月	10月6日	火	第２回（後期）ランチミーティング	福島スタディツアー、学祭、学食企画について。
	10月13日	火	第３回（後期）ランチミーティング	教室の使い方、子供支援について
	10月14日	水	第１回（後期）放課後ミーティング	防災訓練（総務課）、物産展、子供支援、宮城岩手スタツア、意見交換
	10月20日	火	第４回（後期）ランチミーティング	学食企画、防災イベント（1年生企画）、防災訓練（12/8 教職員向け）
	10月23日	金	第２回（後期）放課後ミーティング	学祭について、学食企画、防災訓練12/8、防災班12/18、意見交換、googleドライブ、新入生向け交流会、SNSについて
	10月27日	火	第５回（後期）ランチミーティング	防災イベントについて、スタツアについて、学祭について
１１月	11月10日	火	第３回（後期）放課後ミーティング	ファシリテーション入門講座、ピアネット研修会、学祭報告、チーオレの紹介、教室予約のしかた、プロジェクト別予定（防災班、学食班、スタツア班）、チーオレ外活動など
	11月16日～12月4日	月～金	「お昼ごはん東北へでかけませんか？」	学食でのチームオレンジ企画、東北復興支援メニュー。
	11月17日	火	第６回（後期）ランチミーティング	学食企画について、来月の予定など
	11月24日	火	第７回（後期）ランチミーティング	防災（12/8・18）企画、子供支援（12/18～20朝）、スタツア（福島スタツア11/29、岩手・宮城スタツア下見12/25）、学食企画について
	11月27日	金	第４回（後期）放課後ミーティング	福島スタツア（11/29）スケジュール確認、防災訓練講座（12/8）、起震車・非常食体験（12/18）、冬ボラWEEK、3.11募金、放課後会議について、これまでの活動について、東洋大学との情報交換
	11月29日	日	福島スタディツアー	被災地支援への現地確認と現状把握。
１２月	12月1日	火	第８回（後期）ランチミーティング	冬のボランティアWEEK、スタツア（11/29実施）について、学食企画について
	12月8日	火	学生スタッフが教職員に教える応急救命講座	チーオレの学生スタッフが教職員に教える応急救命処置講座。
	12月10日	木	第５回（後期）放課後ミーティング	学食企画について振り返り、防災（12/8）実施、岩手・宮城被災地スタディツアー、子供支援助成金、2015年振り返り
	12月14日～12月18日	月～金	冬のボランティアWEEK	ボランティア活動紹介イベント、活動記録掲示。
	12月15日	火	第９回ランチミーティング	スタツア（募集開始、事前研修会、事後報告会）、防災（起震車）について
	12月18日	金	起震車・非常食試食体験	チームオレンジ防災班企画、起震車での地震記事体験と非常食の試食体験会。
	12月22日	火	第１０回（後期）ランチミーティング	子ども支援、防災（12月18日起震車、非常食）、学祭について
1月	1月13日	水	第６回（後期）放課後ミーティング	岩手・宮城スタツア、3月中旬子供支援、遠野下見、新歓について、今年度の活動振り返り
	1月19日	火	第１１回（後期）ランチミーティング	新歓について、追い出しコンパ、スタツア、次回の予定など
3月	3月1日～3月4日	火～金	岩手・宮城　東北被災地スタディツアー	被災地支援への現地確認と現状把握。
	3月11日	金	３．１１大学・付属校合同被災地支援募金活動	東北大震災の募金活動。募金は東北の岩手県・宮城県・福島県の復興支援義援金に寄付される。
	3月16日	水	第７回（後期）放課後ミーティング	新入生歓迎、スタディツアー、遠野ボランティア下見について、３．１１募金について、物産展企画、新企画（多摩ボラセンと）、春ぼらＷＥＥＫ、4月の会議予定、ＩＴボランティア募集。

　　部分は、実際のイベントや講座等の日程

【付記】

●毎週木曜日の昼休みに実施。前期は毎月10日・25日18：30～20：30で放課後ミーティング。

●その他、前期は毎週月曜日昼休みに幹部ミーティング、後期は第2・4火曜日昼休みにプロジェクトリーダーミーティング。

●ミーティングは原則、職員が同席した。

第 3 章　多摩ボランティアセンターの活動の概要

多摩ボランティアセンター2015 年度活動総括

多摩ボランティアセンター長　馬場敏幸

2015 年のボランティアセンターは、「学生スタッフによる自律的な企画運営の推奨」、「地域との絆強化」を大きな柱として活動に取り組みました。2014 年度はボランティアセンター運営の地盤固め（「業務日誌」による記録と情報・問題共有、「来室者統計」による現状・ニーズ把握、認知度向上のための「多摩ボランティアセンターパンフレット」、安心してボランティア活動に取り組むための「ボランティア心得」、サークルのボランティア紹介のための「多摩キャンボランティアサークルパンフレット」、業務遂行の手引きとなる「業務マニュアル」、地域交流センターとの定期的な情報交流、広報室との連携による積極的な活動の開示、など）を行いました。今年度はこれらが自律的に運用され、センター運営の基盤が固まりました。また昨年までの懸案であった地域交流センターとの関係について、「地域交流センターでは継続的・プロジェクト的な地域協力やコーディネーターの調整業務を必要とする地域協力を主に受け持つ」、「多摩ボランティアセンターでは、地域からのボランティア要請を受けて多摩キャンパス学生全般に紹介・仲立ちをすること、多摩キャンパスの学生が誰でも参加可能なボランティアの企画・募集をすること、そして全学学生センターが決定した全学企画ボランティアの募集をすること、を主に受け持つ」との昨年合意を踏まえ、本年度以降も定期的に連絡協議をもち、それぞれの情報を共有して協力していくことになりました。こうした様々な運営基盤の強化により、本年度は、より積極的にボランティア活動推進に注力が出来るようになりました。

一つ目の大きな活動である「学生スタッフによる自律的な企画運営の推奨」についてですが、多摩ボランティアセンターの伝統的な方針として学生の自主性を尊ぶというすばらしい気風がありました。その伝統に立ち返ろうというものでもありました。放任ではなく、見守り、育んでいくというのが基本方針です。すなわち、学生の自主的な発想と活動を尊重し大切にしつつ、ボランティアセンターで実施するプロジェクトとして妥当なのか、準備や実施に無理はないのか、安全性は確保出来ているのか、責任を持って遂行できるのか、スケジュール管理と進行は妥当なのか、などに気を配って見守るのです。必要な根回しや書類などをそっとサポートすることもあるし、相談に乗ったり助言をしたりフォローしたりすることもあります。そうして見守られているという安心感のもと、学生スタッフらが存分にアイデアをふくらませ、ボランティアプロジェクトを実現し、成長していってくれればとの考えです。

昨年は 2 名だった学生スタッフも、2015 年度には新たに 6 名の学生が参加し、学生スタ

ッフは総勢 8 名になりました。昨年からの 2 名、代表の中根さんは次の世代を育てようとしているのが頼もしく、副代表の神藤さんはムードメーカーとして学生グループ内の絆を強めてくれました。新メンバーたちもめざましい活躍を見せてくれました。東日本大地震からの復興を支援する「気仙沼プロジェクト」、大学と地域小中学校との往復を容易にする「学びの道整備プロジェクト」、「相原地区自治メンバーとの交流」などを実現させていったことは彼らにとってもセンターにとっても大きな経験と財産になりました。成長し、自信をつけていく彼らを見るのは、本当に頼もしく嬉しいものでありました。年末の学生ボランティア活動報告会では本年度からの新設として、リーダー学生たちへの感謝状贈呈も行いました。彼らの活動を称え感謝する気持ちをこめ毛筆で名前をしたためました。

さて二つ目の「地域との絆強化」について、「多摩地粋交流会〜つながらナイト・聴かないと・うどんで NIGHT〜」を開催し、地域自治会のみなさま、地域教育・福祉・文化施設のみなさま、近隣大学のみなさま、行政のみなさまをお招きし、交流を深めました。本年度からはじめたばかりの取り組みでありましたが、地域とのつながり強化と、ニーズ把握に大きく資するものでありました。直にお会いしてお話をさせて頂く大切さを改めて実感するとともに、こうした取り組みを継続させていく大切さを切に感じました。

2015 年度を数字でふり返ってみると、来室者総数は 517 名（うち学生 464 名）、相談件数 388 件、登録者数 151 名、ボランティア紹介人数は 181 名となりました。実施したボランティアプロジェクトは 23 件でした。前年に比べて来室者数と相談件数はやや減少しましたが、登録者数が 22 名増え、ボランティア紹介人数は 79 名も増えました。登録者とは相談者のうちボランティアセンターからの情報メールを希望した人のことで、2015 年末時点で現代福祉学部（79 名）が圧倒的に多く、社会学部（37 名）、経済学部（27 名）となります。スポーツ健康学部が 8 名と圧倒的に少ないですが、昨年は 0 名だったことを考えると着実な進歩です。また経済学部も昨年の 13 名からの倍増となりました。数字にも基づき、ニーズ把握と課題、そして取り組みの実効性を確認していければと思います。

私自身の在任期間であるこの 2 年をふり返ってみると、2014 年度は多摩ボランティアセンター再始動への取り組み、活動内容の明確化、学生・地域サポートのための事務体制の構築、学生スタッフとの協力による各種ボランティアの紹介・企画などを行いました。そして 2015 年度はそれらを引き継ぎつつ、学生による自主的なボランティア活動の強化、そして地域との絆強化に取り組みました。私自身の直接的なセンターへの関わりはこれでいったん終了ですが、ボランティアセンターへの支援、学生のみなさんと地域とのつながり、学生のみなさんの学びを深めるため、今後とも貢献していければと考えています。

最後に 2015 年度の活動を一緒に取り組んできた佐藤課長、須田さん、山田さん、岡崎さん、学生スタッフのみなさん、地域のみなさま、関係したみなさまがたに心からの謝意を申し上げます。ありがとうございました。

①　町田市立ゆくのき学園「小学校体力テスト」補助ボランティア

日時：2015 年 4 月 28 日（火）　8：45〜11：45
場所：町田市立ゆくのき学園（相原町 3765-3）

概要：

1．内容

町田市立ゆくのき学園大戸小学校の体力・運動能力、運動習慣等調査（体力テスト）補助ボランティアを実施した。子ども発達研究会 GROWTH のメンバー3 名が事前準備や低学年児童の記録の計測を行った。

2．参加者数

3 名

3．背景・目的

・ゆくのき学園大戸小学校副校長より依頼があり実現。
・異世代との交流を通じたボランティアの実践。




事前準備


立ち幅跳びの補助

②　ヴィラ町田　傾聴ボランティア＆Voice of Winds 演奏会

日時：2015 年 5 月 6 日（水）　13：30～16：00
場所：介護老人福祉施設　ヴィラ町田（相原町 4391-7）



概要：

１．内容

介護老人福祉施設「ヴィラ町田」で吹奏楽サークル Voice of Winds のメンバー17 名による演奏会、学生ボランティア 3 名による傾聴ボランティアを行った。

２．参加者数

20 名

３．背景・目的

・介護老人福祉施設でのボランティアを体験し、関心を深めてもらう。
・自身の特技をいかしたボランティア活動を行う。

４．参加者の感想

「利用者さんの温かい拍手の中、大変楽しく演奏させて頂きました。皆様に喜んで頂けたようで嬉しいです。今後こうした活動を継続することで学生と高齢の方の交流する場を築いていけたらと思います。」
「サークルとしてボランティア演奏を行うことは初の試みだったため、準備が足りない部分も多くありました。しかし、実際に演奏を終えてみると多くの方から拍手を頂いたり、また笑顔になってくださったりしたので、とても充実した時間だったと感じました。また機会があればこのような演奏を行いたいです。」


屋外での演奏会


演奏を終えて

③　町田市立ゆくのき学園　ボランティア見学会

日時：2015 年 5 月 8 日（金）　15：30〜17：00
場所：町田市立ゆくのき学園（相原町 3765-3）

概要：

1．内容

新学生スタッフがゆくのき学園を見学。ゆくのき学園ボランティアコーディネーターより日頃本学学生がどのような活動を行っているか説明を受け、校内見学を行った。

2．参加者数

3 名

3．背景・目的

・ボランティア協定校であるゆくのき学園での活動を知る。

4．参加者の感想

「私は小中学校と別の学校に通っていたので小中一貫、また各学年が一クラスのみであるということに驚きました。各学年間のつながりが深いのだなと感じると同時に、こんなおもしろいところで学ばせていただけることに対しての喜びと期待で胸がいっぱいです。」



ゆくのき学園でのボランティア活動について説明を受ける



校内見学

④　ボランティア学生交流会～春カフェ～

日時：2015 年 5 月 14 日（木）　12：50～13：30
場所：多摩キャンパス　EGGDOME2 階 フリースペース



概要：

1．内容

新入生向けに、多摩ボランティアセンターおよび各ボランティアサークル活動をパネル展示と映像で紹介。EGGDOME 内のキッチンスペースをカフェに見立て、学生同士の交流と情報発信の場を設けた。

また相原地域の名産品である明月堂「相原ロール」の試食会を行った。

2．参加者数

22 名

3．背景・目的

・学生同士が交流し、互いの活動を知る機会を設ける。
・多摩ボランティアセンターやボランティアサークルの活動に関する情報の発信。

4．参加者の感想

「地域のスイーツがあることに驚いた。地域の資源を知るいい機会になったと思う。普段関わりのない人たちとも交流できる場になった。」
「ボランティアサークルの一覧が見られたのが良かった。」



学生同士の交流



相原ボランティアマップに情報提供

⑤　町田市立ゆくのき学園　運動会協力ボランティア

日時：2015 年 5 月 30 日（土）　9：00〜15：00
場所：町田市立ゆくのき学園（相原町 3765-3）

概要：

1．内容

町田市立ゆくのき学園で運動会が開かれ、児童・生徒の誘導や地域の方との交流を行った。また、本学学生サークルである YOSAKOI ソーランサークル「鳳遙恋」30 名と、フラダンスサークル「Pua Lilia」4 名が演技を披露した。

1 名が競技進行の補助ボランティアを行った。

2．参加者数

40 名

3．背景・目的

・サークル活動の活性化。
・地域行事に参加し、多世代の方々との交流を図る。

4．参加者の感想

「4 人での参加で緊張していたのですが、お天気もとてもよく、日光と沢山の温かい視線を浴びて自然と笑顔で踊ることができました。そして自分達のフラが子どもたちや大人の方々にこんなにも喜んでもらえるということがとても嬉しく、今後また地域のイベントに参加させていただく機会が楽しみになりました。」

「途中の乱舞では生徒さんや先生方がとても笑顔で楽しそうに踊っていたのが印象的でした。運動会で踊る機会は滅多にないので、私たちもとっても楽しむことができました！」



フラダンスを披露してくれた「Pua Lilia」



「鳳遙恋」による演舞

⑥　相原地粋交流会～つながらナイト・聴かないと・うどんで NIGHT～

日時：2015 年 7 月 15 日（水）　18：00～19：40

場所：うどん屋開都（相原町 2180-1）



概要：

1．内容

町田市うどん屋開都にて、相原地域の方々との交流会を行った。

第 1 部では学生スタッフが活動報告を行い、本学学生サークル「JazzStudyClub」4 名が演奏を披露した。

第 2 部は相原地域の方々と大学との情報交換会・懇親会となった。

2．参加者数

43 名

3．背景・目的

・相原地域の方々との情報交換、交流を図る。

・大学・地域間の連携をより活性化する。

4．参加者の感想

「お店の一角での演奏は初めてで、うまくいくか少し不安でしたが、とても楽しく演奏できました。」

「いつもお世話になっている方々や、普段関わることのなかった地域の方々と交流できる良い機会になりました。今後の相原地域の活性化に向けて学ぶことがたくさんあり、これからの活動に役立てていこうと思います。」



学生スタッフによるプレゼンテーション



JazzStudyClub による演奏

⑦　相原町八雲神社清掃ボランティア

日時：2015 年 7 月 29 日（水）　13：00〜14：00
場所：相原町八雲神社（相原町 4393）

概要：

１．内容

相原町大戸地区の鎮守様八雲神社に日頃の活動の無事を感謝し、ボランティアの安全を祈願した。又第二次世界大戦で亡くなった相原町の方の慰霊碑の清掃を行い冥福を祈った。

２．参加者数

5 名

３．背景・目的

・相原地域を知る。
・大学・地域間の連携をより活性化する。

４．参加者の感想

「相原地域にも戦没者がいらっしゃったことを初めて知りました。これからも相原地域のことについて、より知識を深めていきたいと思いました。」



慰霊碑を清掃



ボランティアツアーの成功を祈願

⑧　八王子まつり山車曳き体験ボランティア

日時：2015 年 8 月 8 日（土）・8 月 9 日（日）　11：30～15：00

場所：八王子駅周辺甲州街道

概要：

1．内容

高齢化が進み曳き子が不足している八王子市本町連合会と八幡上町会で山車曳き体験ボランティアを行った。曳き役衆の進行にしたがって、山車の曳き綱を曳いて歩いた。



2．参加者数

日程	参加者数
8 月 8 日（土）	2 名
8 月 9 日（日）	3 名

3．背景・目的

・江戸時代に始まった祭りの理解、伝統文化に触れる。

・地域、市民との交流をはかる。

4．参加者の感想

「自分の地域でこういった大きなお祭りの経験がなかったので、ボランティアとしてだけではなく、一曳き手として楽しめ、また充実した体験でした。」



コンソーシアム八王子加盟校の学生と



山車を曳き練り歩きました

⑨　宮城県被災地ボランティア～気仙沼でつながらNIGHT～

日時：2015年8月13日（木）～8月16日（日）
場所：宮城県気仙沼市本吉町



概要：

1．内容

気仙沼市内で開かれる「大谷海岸祭り」支援をメインに、震災展示見学やレクチャー、慰霊、視察などを通じて被災地復興の実情を学習した。

2．参加者数

日程	参加者数
8月13日（木） ～8月16日（日）	学生15名 （教職員2名）

3．背景・目的

・被災地のニーズに基づいた活動を計画、実施。
・異世代との交流を通じたボランティアの実践。

4．参加者の感想

「実際に語り部さんの話を聞いたり資料館で自分たちが行った場所の震災前の写真を見たりすることで、ここで津波が起こり、たくさんの人の命が奪われたということを実感しました。自分の目で実際に被災地を見て、風化させてはいけないと思いました。」

「このボランティアを通して“人の優しさ”を感じました。地域の人がすごく私たちに良くしてくれて、少し時間が空いていると話しかけてきてくれて私たちを笑わせてくれたり、お母さん方がおにぎりをつくって持ってきてくれたり、新鮮な野菜を持ってきてくれたり･･･と地域の方の温かさを身に染みて感じられました。」



BRTの前で



語り部さんよりお話を伺う

⑩　2015 夏の学生ボランティア活動報告会～広がる世界、つながる仲間～

日時：2015 年 10 月 6 日（火）　18：10～19：30
場所：明星大学　日野キャンパス

概要：

１．内容

日野市明星大学にて、明星・中央の学生とともに、本学学生スタッフが「宮城県被災地ボランティア～気仙沼でつながら NIGHT～」の活動と今後の課題について報告を行った。

２．参加者数

2 名

３．背景・目的

・報告会を通じて大学間の交流を深める。
・他大学のボランティア活動を知り、今後の活動に生かす。

４．参加者の感想

「大勢の人の前での報告で、緊張しましたが、雰囲気がよかったので思ったとおりに発表できました。『東京からの移動に青春 18 きっぷで 10 時間かかってへとへとになった』という話をしたら、会場の人たちが共感して盛り上がってくれたので良かった。」

「今日の交流で同じ大学生の友達がたくさん増え、良い刺激を受けました。他の学生たちの発表を聞いて、いろいろなことを知ることができたので、これからの自分たちの活動にも生かしていきたいと思います。」



学生スタッフによる報告

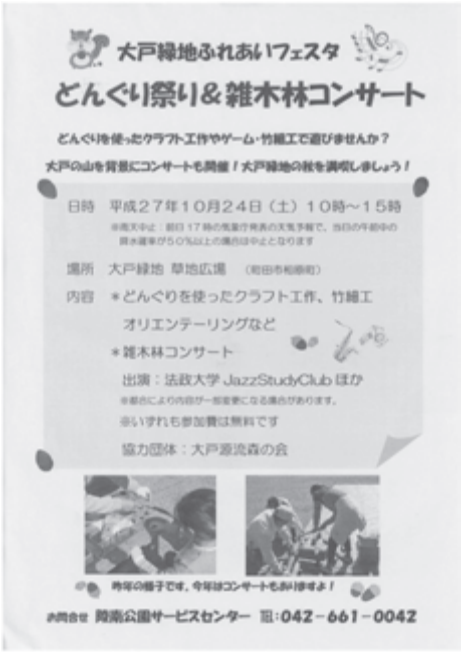


学生、教職員、地域の方々およそ 100 人以上が来場

⑪　大戸緑地ふれあいフェスタ・雑木林コンサート

日時：2015 年 10 月 24 日（土）　10：10～15：00

場所：大戸緑地（相原町）



概要：

１．内容

大戸緑地にて行われたイベントに、本学学生サークルである IVUSA と JazzStudyClub が参加。IVUSA はふれあいフェスタにて地域の方と交流し、JazzStudyClub はコンサートを披露した。

２．参加者数

11 名

３．背景・目的

・本学学生サークル同士のコラボレーション。

・多世代の人々との交流。

４．参加者の感想

「青空の下、豊かな自然の中でジャズを演奏する体験はとても新鮮で、気持ちよかったです。」



ふれあいフェスタ運営を支えた IVUSA



Jazz Study Club は演奏を披露した

⑫　八木重吉さんのお墓参りと清掃ボランティア

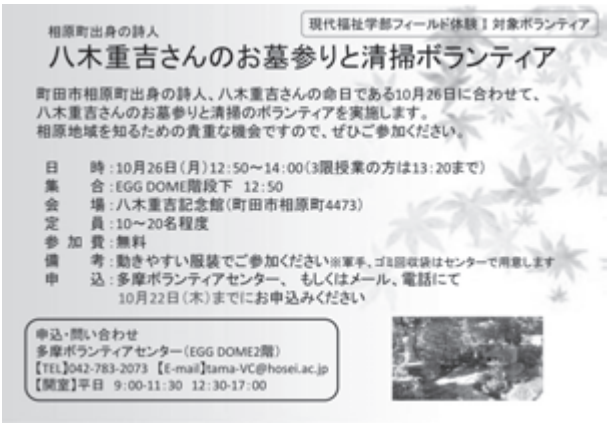
日時：2015 年 10 月 26 日（月）　12：30〜13：30
場所：八木重吉記念館（相原町 4473）

概要：

1．内容

相原町出身の詩人八木重吉さんの命日に合わせ、お墓参りと墓地清掃のボランティアを行った。

また、生家である八木重吉記念館で資料を見学した。



2．参加者数

7 名

3．背景・目的

・大学周辺にゆかりの文化人の足跡を訪ね、継続的なボランティア活動につなげる。
・先祖を参り、その功績について学ぶ。

4．参加者の感想

「八木重吉さんの名前は知っていたけれど、相原と関わりがあることは知らなかった。記念館では教科書で見たことがあるような八木重吉さんの詩などが見られて感動した。」
「地域の人たちと関わる場になったし、地域の情報交換のいい機会になってよかった。」



墓地、記念館周辺の清掃



故人の生家である記念館の前で

⑬　秋カフェ～夏ボラ報告会～

日時：2015 年 11 月 2 日（月）　12：50～13：30
場所：法政大学　多摩キャンパス　EGGDOME2 階　フリースペース

概要：

1．内容

被災地ボランティアを中心に、夏期ボランティアについて報告、パネル展示、活動映像上映を行い、多摩ボランティアセンターの活動に関する情報発信を行った。

パネル展示は 11 月 6 日（金）まで行われた。



2．参加者数

6 名

3．背景・目的

・学生同士の交流の場を設ける。
・多摩ボランティアセンター、学生スタッフの活動に関する情報の発信。

4．参加者の感想

「被災地ボランティアの動画を見ていたら、そのときのことを思い出した。10 分くらいの映像だったのだが、あっという間に終わったように感じた。」



活動風景映像の上映



被災地ボランティアを中心としたパネル展示

⑭　クローバー保育園　ピアノ演奏会

日時：2015 年 11 月 30 日（月）　16：00〜17：00
場所：クローバー保育園（相原町 3338-1）

概要：

１．内容

クローバー保育園にて、本学学生２名がピアノ演奏を披露。園児たち、迎えに来た保護者の方たちの前でリクエスト含め計 20 曲を演奏した。

２．参加者数

62 名

３．背景・目的

・異世代との交流を通じたボランティアの実践。
・自身の特技をいかしたボランティア活動を行う。

４．参加者の感想

「自分達の演奏で、子どもたちが楽しそうにしていてくれ、みんなが参加できる会になってとても嬉しかったです。小さい子どもと関わるのは久しぶりで少し緊張していましたが、楽しそうにしていてくれたのでホッとしました！是非機会があったら、子どもたちが好きそうな曲をたくさんリサーチして、また演奏しに行きたいです。」
「小さな子供たちは知ってる曲だとノリノリになって歌ってくれて、演奏している方もとても楽しむことができました。いずれ、「あのお姉さん達のピアノ、すごかったな」と思い出して、音楽に触れるきっかけとなれば幸いです。」



リクエストに応えて演奏



子どもたちからのお礼のプレゼント

⑮　ヴィラ町田　クリスマス☆ボランティア

日時：2015 年 12 月 16 日（水）　15：30〜16：30
場所：介護老人福祉施設　ヴィラ町田（相原町 4391-7）

概要：

1．内容

介護老人福祉施設ヴィラ町田にて、クリスマスボランティアを行った。

参加学生が利用者一人一人に手作りのクリスマスカードを配り、各ユニットごとに「きよしこの夜」の合唱を披露した。



2．参加者数

84 名

3．背景・目的

・異世代との交流を通じたボランティアの実践。
・高齢者分野への興味、関心、知識を深める。

4．参加者の感想

「クリスマス会では、特に、手作りのクリスマスカードをプレゼントしたときのみなさんの喜ぶ表情や嬉しい言葉をいただけたことがとても印象的でした。クリスマスソングも想像以上に盛り上がり、わたしたちも楽しむことができました。ぜひまたクリスマス会を行いたいです。」

「クリスマスソングを利用者の方々が笑顔で聞いてくれ、また楽しそうに歌われる姿を見ることができてとても充実した時間を利用者の方々と過ごすことができました。今後も継続して、学生と高齢者の方々との交流の機会を作っていけたらなと思います。」



各ユニットを回る



クリスマスカードを贈り、傾聴も行った

⑯　キャンパスから被災地を応援するフェア～あなたの１食が気仙沼を元気に～

日時：2015 年 12 月 15 日（火）～12 月 17 日（木）
場所：多摩キャンパス　EGGDOME2 階　Slow World Cafe

概要：

１．内容

学生スタッフが食堂「Slow World Cafe」と協力し、気仙沼産の食材をつかったオリジナルメニューを考案・販売した。同時に食堂内で被災地ボランティアに関するパネル展示を行った。



２．参加者数

60 名

３．背景・目的

・被災地である気仙沼の産業を支援する。
・継続的な被災地支援の実践。

４．参加者の感想

「とても美味しかった。ボランティアセンターが行っている被災地ボランティアについて知る機会となった。」



1 日限定 20 食で販売



被災地ボランティアパネルの展示

⑰　学生ボランティア 2015 年度活動報告会

日時：2015 年 12 月 18 日（金）　15：10～17：00
場所：多摩キャンパス　EGGDOME5 階　研修室 1・2

概要：



1．内容

多摩キャンパスではサークルやグループが多種多様なボランティア活動に取り組んでいる。報告会では地域の方をお招きして、5 団体の学生が自身の活動内容、学んだことについて報告を行った。

2．参加者数

36 名

3．背景・目的

・日頃の活動を通して学んだことを発表し、振り返りの場とする。
・各自の活動に対する評価と助言を受け、今後の活動に生かす。

4．参加者の感想

「多摩キャンパス内に、私が知らない様々なボランティア活動があると実感しました。各報告を伺い、具体的な活動内容などは理解できましたが、『なぜ、その活動を始めたのか・活動前後での心境の変化・どんな学びや苦労があったのか』この一連のストーリーが発表内容に盛り込まれることで、良き発表となるはずです。単に活動内容の報告を超えた、聞き手の心が動かされるような発表を、今後期待したいです。」
「今後とも範囲を広げ活動していけたらと思います。」



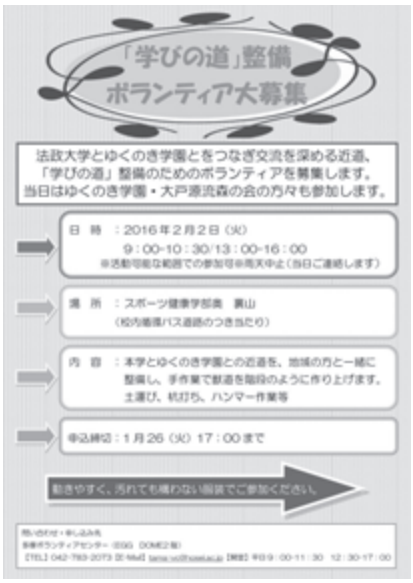
仁平典宏先生による講評



参加者全員で記念撮影

⑱　「学びの道」整備ボランティア

日時：2016年2月2日（火）　9：30〜10：30、13：00〜16：00 / 3月13日（日）　10：00〜12：00
場所：多摩キャンパス　スポーツ健康学部棟奥



概要：

1．内容

多摩キャンパスと、ボランティア協定校である町田市立小中一貫ゆくのき学園を結ぶ新しい道、「学びの道」の整備を行った。当日はゆくのき学園・大戸源流森の会の方々も参加し、参加学生と交流を深めた。

2．参加者数

日程	参加者数
2月2日（火）	12名
3月13日（日）	6名

3．背景・目的

・ゆくのき学園とのつながりをより強固なものにする。
・異世代の方々と協力し合い、地域との交流を深める。

4．参加者の感想

「午前中に小6の里山授業に参加して活動を知ったが、実際に体験してみて分からない事が多く戸惑った。これからできて行けば良いと考えている。80段作ることが楽しみ。」
「今回ボランティアは初参加であった。色々指導頂きありがとうございました。作業は大変だったが、5段と形になるのは嬉しい。次回も頑張りたい。」


段差となる杭を作ります


完成を目指してこれからも続けていきます

⑲　大学生ボランティア活動報告＆防災イベント

日時：2016 年 2 月 4 日（木）～2 月 11 日（木）
場所：イオンモール多摩平の森（日野市多摩平 2-4-1）



概要：

1．内容

他大学と合同で、被災地ボランティアについてパネル展示と活動報告を行った。また、同時に開催された防災イベントにも参加した。

2．参加者数

47 名

3．背景・目的

・ボランティアを通じた他大学との交流。
・他大学の学生の活動を知り、自分たちの今後の活動に生かす。

4．参加者の感想

「このようなお互いの活動を知ることができるような場が設けられたらいいと思う。」
「ボランティアを介する交流以外の交流会も良いかなと思いました。また、様々な大学のキャンパスツアーを地域の方と大学生合同で行うのも面白いかなと思います。」



パネル展示



学生スタッフによる報告

⑳　学生活動報告会［学生フォーラム］

日時：2016 年 2 月 11 日（木）　13：00〜16：00
場所：町田市生涯学習センター7F　ホール（町田市原町田 6-8-1）



概要：

1．内容

「地域おこし」「まちおこし」をテーマに、町田・相模原で活躍する大学学生団体がパネルディスカッション、ポスターセッションを行った。本学学生スタッフ 2 名を含め、全 7 団体が参加した。

2．参加者数

45 名

3．背景・目的

・ボランティアを通じた他大学との交流。
・相原地域で行ってきた活動を学外に向けて発信する。

4．参加者の感想

「団地や東北の被災地などそれぞれの地域で活躍する多くの方々と交流することができ、また自分たちの活動を多くの方が興味を持って聞いてくださり多摩ボランティアセンターを PR することとともに志を持った大学生と横のつながりを作ることができ楽しい時間を過ごすことができた。」



パネルディスカッション



ポスターセッション

㉑ 2015 年度活動パネル展

日時：2016 年 3 月 1 日（火）～3 月 7 日（月）

場所：町田市生涯学習センター7F　ミニギャラリー（町田市原町田 6-8-1）



概要：

1．内容

多摩ボランティアセンターがこの一年間で行ってきた相原町内での個人、音楽系・ダンス系学生サークルが参加した保育園、小中学校、高齢者福祉施設、八木重吉記念館、大戸緑地での活動の様子、町内会とのコラボレーションや、夏休みに実施した気仙沼市内の復興支援企画等をパネル展示で紹介した。

2．参加者数

7 名

3．背景・目的

・この一年間の活動を振り返る。

・本学学生の活動を地域の方に向けて発信する。

4．参加者の感想

「多摩ボランティアセンターのことを知らない人もいたので、今回のパネル展で活動を町田の人たちに見てもらえてよかった。これからも継続して続けていきたい。」



展示したパネル



アンケートを設置。パンフレット等の配布も行った

㉒ 町田市民文学館ことばらんど表敬訪問

日時：2016 年 3 月 7 日（月）　14：00〜16：00
場所：町田市民文学館ことばらんど（町田市原町田 4-16-17）

概要：

1．内容

学生スタッフが町田市原町田の「町田市民文学館ことばらんど」を表敬訪問した。町田市の文学史について学芸員の方よりご説明頂き、八木重吉記念館支援で交流のある和菓子中野屋の杉浦信男氏に、多摩ボランティアセンターと町田市がこれからどのように関わっていくべきかについてお話を伺った。

2．参加者数

8 名

3．背景・目的

・ボランティア支援をしている八木重吉さんを含め、町田市の文学史についての知識を深める。
・多摩ボランティアセンターと町田地域のつながりを強化する。

4．参加者の感想

「八木重吉の詩の良さがさらに分かった気がします。」
「今日の訪問は色々勉強になることが多かったです。」
「学生らしく地域とつなぐ企画を実現したいです。」



訪問した「町田市民文学館ことばらんど」



中野屋社長・杉浦信男氏との懇談会

2015年度　ボランティア支援プロジェクト　イベントカレンダー

月　日	曜　日	イベント・講座・訪問先	概　要	参加者数
4月28日	火	町田市立ゆくのき学園 「小学校体力テスト」補助ボランティア	町田市立ゆくのき学園大戸小学校の体力・運動能力、運動習慣等調査（体力テスト）補助ボランティア	3名
5月6日	水	ヴィラ町田　傾聴ボランティア＆Voice of Winds 演奏会	吹奏楽サークルVoice of Windsによる演奏会と傾聴ボランティア	20名
5月8日	金	町田市立ゆくのき学園 ボランティア見学会	町田市立ゆくのき学園大戸小学校でのボランティア見学会	3名
5月14日	木	ボランティア学生交流会～春カフェ～	新入生向けに、多摩ボラセンおよび各サークル活動をパネル展示と映像で紹介	22名
5月30日	土	町田市立ゆくのき学園　運動会協力ボランティア	町田市立ゆくのき学園大戸小学校の運動会に本学学生サークルが出演	40名
7月15日	水	相原地粋交流会 ～つながらナイト・聴かないと・うどんでNIGHT～	うどん屋開都にて、相原地域の皆様との交流会	43名
7月29日	水	相原町八雲神社清掃ボランティア	相原町八雲神社慰霊碑清掃ボランティア	5名
8月8日・9日	土・日	八王子まつり山車曳き体験ボランティア	八王子まつりでの山車巡業	4名
8月13日-8月16日	木-日	宮城県被災地ボランティア ～気仙沼でつながらNIGHT～	復興支援ボランティアとスタディーツアー	15名
10月6日	火	2015夏の学生ボランティア活動報告会 ～広がる世界、つながる仲間～	明星大学にて、本学学生ボランティアの活動報告会	2名
10月24日	土	大戸緑地ふれあいフェスタ・雑木林コンサート	地域のイベントに本学学生が参加	11名
10月26日	月	八木重吉さんのお墓参りと清掃ボランティア	相原出身の詩人八木重吉さんのお墓参り	7名
11月2日	月	秋カフェ～夏ボラ報告会～	夏に行ったボランティアの報告、パネル展示、被災地ボランティアの活動映像上映	6名
11月30日	月	クローバー保育園　ピアノ演奏会	クローバー保育園にてピアノの演奏	62名
12月16日	水	ヴィラ町田　クリスマス☆ボランティア	介護老人福祉施設ヴィラ町田でのクリスマスボランティア	84名
12月15日-12月17日	火-木	キャンパスから被災地を応援するフェア ～あなたの1食が気仙沼を元気に～	EGG DOME食堂にて気仙沼コラボメニューの販売	60名
12月18日	金	学生ボランティア2015年度活動報告会	多摩キャンパス学生による活動報告会	36名
2月2日	火	「学びの道」整備ボランティア	ゆくのき学園と本学を結ぶ「学びの道」を整備	12名
2月4日-2月11日	木-木	大学生ボランティア活動報告＆防災イベント	イオンモール多摩平の森にて、他大学と合同でボランティア活動を報告、展示	47名
2月11日	木	学生活動報告会[学生フォーラム]	「地域おこし」「まちおこし」をテーマに、町田・相模原で活躍する大学学生団体が自分たちの活動について報告	45名
3月1日-3月7日	火-月	2015年度活動パネル展	この1年間の多摩ボランティアセンターの活動をパネル展示	7名
3月7日	月	町田市文学館ことばらんど表敬訪問	「八木重吉展」が秋に開催される町田市文学館ことばらんどを表敬訪問	8名
3月13日	日	第二回「学びの道」整備ボランティア	学びの道プロジェクトの第二回	6名

講師、協力先	備　考
町田市立ゆくのき学園大戸小学校	子ども発達研究会GROWTHのメンバー3名が事前準備や低学年児童の記録の計測を行った。
介護老人福祉施設　ヴィラ町田	吹奏楽サークルVoice of Windsのメンバー17名による演奏会、学生ボランティア3名による傾聴ボランティアを行った。
町田市立ゆくのき学園	新学生スタッフがゆくのき学園大戸小学校で行われているボランティア活動の見学を行った。
明月堂	新入生向けに、多摩ボランティアセンターおよび各ボランティアサークルの活動をパネル展示と映像で紹介した。カフェ形式をとり、参加者にはドリンクや明月堂の「相原ロール」を提供した。
町田市立ゆくのき学園	YOSAKOIソーランサークルの鳳遥恋、フラダンスサークルのPuaLiliaが演技を披露した。
うどん屋開都	学生スタッフが活動報告を行い、JazzStudyClubがジャズの演奏を披露した。
相原町八雲神社	相原町八雲神社でボランティアツアーの安全を祈願し、第二次世界大戦で亡くなった相原町の方の慰霊碑の清掃を行った。
本町連合会・八幡上町・コンソーシアム八王子	本町連合会、八幡上町町会の山車曳き子として、八王子駅周辺甲州街道を巡業した。
気仙沼市本吉町	ハートtoハートサマーコンサート、大谷海岸花火まつりの運営補助と被災地スタディツアーを行った。
明星大学・中央大学	宮城県被災地ボランティア～気仙沼でつながらNIGHT～についての活動報告を、学生スタッフが行った。
相原町大戸町会・相原源流の会・東京都公園協会	ボランティアサークルIVUSAがふれあいフェスタに、JazzStudyClubがコンサートに参加した。
八木重吉記念館	相原出身の詩人である八木重吉さんの命日に合わせて、お墓参りと清掃のボランティアを行った。
	被災地ボランティアを中心に、夏期ボランティアについての報告、展示、活動映像上映を行った。パネル展示は11月6日（金）まで継続した。
クローバー保育園	クローバー保育園にて、本学学生2名がピアノ演奏会を開催した。
介護老人福祉施設　ヴィラ町田	参加学生4名が手作りのクリスマスカードを利用者の方一人一人に配り、各ユニットごとに「きよしこの夜」を歌った。
Slow World Café	被災地支援の一環として、気仙沼産食材を使用したオリジナルメニューを考案し、Slow World Caféにて限定販売を行った。同時に被災地ボランティアの活動パネルも展示した。
	地域の方をお招きして、多摩キャンパス学生が日ごろ行っているボランティア活動についての発表を行った。
町田市立ゆくのき学園・大戸源流森の会	ゆくのき学園と本学を結ぶ「学びの道」の整備作業を、ゆくのき学園、大戸源流森の会の方々と協力して行った。
イオンモール多摩平の森・中央大学・明星大学・実践女子大学・首都大学東京・東京薬科大学	被災地ボランティアに関するパネルを作成し、会場にて設置。学生スタッフは宮城県被災地ボランティアについてプレゼンテーションや企画運営を行った。
町田市生涯学習センター・桜美林大学・玉川大学	「地域おこし」「まちおこし」をテーマに、町田・相模原で活躍する大学学生団体がパネルディスカッション、ポスターセッションを行った。
町田市生涯学習センター	2015年度の多摩ボランティアセンターの活動をすべてパネルにまとめ展示し、町田市の方への周知活動を行った。
町田市文学館ことばらんど・中野屋	秋に「八木重吉展」が開催される町田市文学館ことばらんどを表敬訪問。館内を案内頂き、八木重吉記念館支援を行っている杉浦信男氏と懇談した。
町田市立ゆくのき学園	ゆくのき学園と本学を結ぶ「学びの道」整備ボランティアの第二回を開催。参加学生たちが作業場まで、材料となる丸太を運搬した。

第４章　小金井ボランティアセンターの活動の概要

小金井ボランティアセンター活動総括

小金井ボランティアセンター長　彌冨　仁

小金井ボランティアセンターは、法政大学学生の精神的向上とピアサポートを基本にし、小金井キャンパス周辺の地域との連携も考えたボランティア活動を目的にしている。

活動目標としては、①ボランティア活動を行う学生スタッフの継続的募集、②当面行える社会的なボランティア活動の実施、③地域を中心とした（根ざした）具体的活動を検討することである。在学生に小金井ボランティアセンターの存在を知ってもらい、今後の活動に参加してもらうこと、そしてスタッフとなって経験を積んでもらうことにある。また、昨年からの学生スタッフに加え、新規に加入した人により活動の質を高めていくことにある。

小金井キャンパスでは、2011 年の東日本大震災に伴うボランティア活動が落ち着いた後、しばらく活動が限られたものになっていた。そこで 2015 年度、小金井キャンパスの学生のスキルや特技を活かした、地域に対するボランティア活動の実施の検討に着手した。小金井キャンパスで活動している団体が、小金井祭で地元子供達を対象にした紙飛行機作り・スライム作り・電子工作教室などを実施（工学展の一部として実施）した。また地元に対する貢献として、小江戸東京野菜を育てる地元農家の支援、老人福祉施設での音楽団体によるコンサートや、同施設のデイケアの方を対象としたパソコン教室の補助などを行った。また地元小学校において 11 月末に理科教室を実施したことは、全国紙にも取り上げられた。今後も学内外にボランティアセンターの情報の発信を行うとともに、これらの活動を支援・発展・拡充させていきたい。

事業名：科学にふれよう！ おもしろ体験教室

プロジェクト：ボランティア支援プロジェクト

日　時：2015 年 11 月 28 日（土）13：00～14：30

場　所：小金井キャンパス

概　要：

１．内容

小金井キャンパス近くの第三小学校 1 年生を対象にした「科学にふれよう！ おもしろ体験教室」を開催しました。講師は学園祭などの企画・運営を行っている学生団体「小金井企画実行委員会」のメンバー３人が務めました。子供たちは説明を聞いても作業がスムーズに進まず、材料をこぼしてしまったり、ボールが割れてしまうなどのハプニングに見舞われながらも、最後にはすべての参加者が、無事にスーパーボールを完成させました。できあがったボールを手に、子供たちは大きな声で「ありがとうございました」と講師を務めた学生に挨拶し、同席した保護者からは「また参加したい、次の開催はいつですか」という声が相次ぎました。

講座を終えたた学生は「考えや準備が甘かった部分もたくさんありましたが、最後に子供たちの笑顔を見ることができ、達成感がありました。教える過程で、漢字や専門用語をどこまで使っていいかも悩みました。相手の目線で考えることの重要性を学べたと思います」とほっとした表情を見せました。

２．参加者数

35 名





期待する効果・狙い：

・地域の一員として自覚しながら、地域貢献を行う。

・体験教室を通して、地域子供達と交流し、科学に興味をもってもらう。

法政大学

市ケ谷ボランティアセンター

市ケ谷キャンパス　外濠校舎1階

〒102−8160

東京都千代田区富士見2−17−1

電　話:03−3264−9516

FAX:03−3264−5728

E−mail:ichigaya-vc@hosei.ac.jp

多摩ボランティアセンター

多摩キャンパス　EGG DOME 3階

〒194−0298

東京都町田市相原町4342

電　話:042−783−2072

FAX:042−783−2074

E−mail:tama-vc@hosei.ac.jp

小金井ボランティアセンター

小金井キャンパス
管理棟2階小金井学生生活課内

〒184−8584

東京都小金井市梶野町3−7−2

電　話:042−387−6041

FAX:042−387−6201

E−mail:kgakusei@hosei.ac.jp